大正四年三月一日發行　明治卅八年十二月卅日第三種郵便物認可　〔毎月一回一日發行〕

三月

# 婦人世界





第十卷
第三號

東京實業之日本社發行

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



金牌受領 皇后宮職御用命の白粉はレート白粉ばかり

# レート煉白粉の濃化粧

淑女の化粧も
少女の化粧も

コレソ紳士にも貴婦人にも
一番美しく心に映ずる良い化粧

東京・大阪
平尾賛平

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 五分間にて美人となる



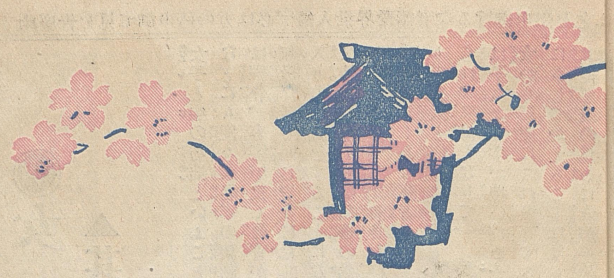
科學の力は進んで參りました醜婦もラベルマツサージ、クリームの力で美人となる事が出來ます況して、皮膚に僅かばりの吹出物やニキビがあつたり、化粧の時に白粉がよくつかない方などはラベルマツサージクリームを、唯一度、お使になつただけで其の如何にも能く効驗のある事が御分りになります。

## 僅か五分間の實驗

**ラベルマツサージクリーム**は普通のクリームのように脂肪で造つたものでありません故少しもベタツく心配もなし、そして、使つた後になんとも云へぬ快感を起します、若し嘘と思召すなら圖に示すやうに、ラベルマツサージクリームを少量の水に溶かして顔に塗けて輕い摩擦を行へば僅か五分間と經たない中に使用者は自分ながら美人となつたのに吃驚なさいます

定價 一本 金四十錢 送料金八錢 說明書御申越次第送呈

發賣元 ラベル化粧品本舗 東京銀座 佐々木商店



婦人世界
第拾卷第參號

## 口繪


✿日永……君島柳三✿桃咲くあたり……中野修二
✿兩陛下の御避寒……✿雛祭
✿瓜生大將夫妻の出發……✿霧の海
✿寫生……✿東海道五十三次の昔と今
✿新らしくできた束髪……✿働く女
✿練祭（表紙）……佐佐木林風✿銀箔（挿繪）……鏑木清方
✿靜御前（挿繪）……井川洗崖✿コマ繪……明石精一


## 記事


✿美しい女と賢い女と……三輪田元道（二）
✿雜巾がけの上手な女學生はない……木村貞子（八）
✿年若き女流音樂家……下田歌子（一三）
✿母の遺言で葬式を簡略にする……小川鈔吉（一〇）
✿亡夫の志を繼いで子供の教育……一記者（一四）
✿健康な子供の衞生……加藤照麿（一〇）
✿衣服問題（家庭の日常衞生法）……村井弦齋（一三）
✿婦人に內職を周旋する產業協會……一記者（一四）
✿銀行と預金（當世顧問）……一記者（一九）
✿銀笛（小說）……小杉天外（五四）
✿老人向の料理……櫻井ちか子（八〇）
✿弦齋夫人の家庭叢談……一記者（八五）
✿家の內の掃除（東君おぼえ帳）……水島幸子（八九）
✿西洋婦人の隱れたる苦心……增田義一（九四）
✿肥料のやり方……磯部鏡○○
✿誰にもできる寫生畫の稽古……川端龍子（一〇二）
✿樂しかりし一夜……坂水とわ子（一〇五）
✿顏に似合ふ化粧……北原十三男（一〇六）
✿靜御前（歷史小說）……仰天子（一〇八）
✿考へもの新題……（一一）✿增刊豫告……（一一）✿新家庭雜報……（一一四）
✿家庭笑話……（一一六）✿我が家の實驗……（一一六）✿短文……（一一〇）
✿和歌……（一一一）✿俳句……（一一四）✿通信……（一一六）
✿紹介……（一一八）✿考へもの當選者……（一一九）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 女一生の大事

## ▲其身に受ける恥と損

○○高等女學校長談

女子と字の巧拙といふことは、近頃の大問題で、雜誌などにも度々諸名家の談話を見受けます。處女時代では假令、容姿が良く教育があつても。字が拙い爲めに無教育者と同じやうに見られ女の一番大切なお嫁入りの邪魔をすることになります。又結婚してからは惡筆の爲め夫の恥となり、又其前身を疑はれ近頃よくある藝者上りの夫人と同樣に見られ、又母となりては子女より字が拙い爲め子女から馬鹿にされ教育するにさしつかえることになります。其他惡筆の爲めに女が一生の間に受ける恥と損は實に




です。『特許速成習字法』は最も大發明の『惡筆矯正器』で惡筆癖せを根本から直してかゝるので上達の速かなる事は全く不思議のやうです。殊に手本は有名なる『小野鵞堂先生。です、數拾萬の實驗者の成績を御覽下さい、之れに依て保證致します。此珍らしき見本は東京本郷區大學正門前帝國習字成速學會（電下三貳一〇番）へハガキで申込次第無代進呈します。

特別 專賣特許（習字速成器）及 特許（習字速成器）


大動位伯爵東鄕元帥閣下題字

最新版

帝國國民百科全書

總クロース金文字入紙質上等製本優美紙數壹千餘頁六編合卷 定價金一圓七拾錢 特價金壹圓廿錢 小包送料十八錢 郵券代用一割增

第一編 修養 齋家 政治法制 地方自治 經濟 農業 工業 商業 歷史 地理 宗教 兵事 文學 地文 天文 內外國交際術 和歌 俳句 新體詩 作法 漢詩 作法 演說法 談話法 交際術 服裝心得 旅行案內 生理衛生 簡易療法 育兒心得 婚禮式 美身術 美容術 習字速成術 文章速成術 算術 英語早學 朝鮮及支那語 數學 珠算 簿記 運送 和洋裁縫 編物 刺繍 洋髮 結髮 尺八 篠笛 月琴 風琴 浮瑠璃 琵琶 西洋奇術 寫眞術 劍舞 浮世繪 利用 酒席遊藝 囲碁 將棋 玉突 致富捷徑 成功秘訣 貯金法 運用 株式 米 就職案內 各種製法 學校案內 男女內職 九星 方位 金占 易 相場 觀相 西洋料理 菓子製法 和洋事務 催眠術 各種製法 男女內職 催眠術 各種製法 學校案內 男女內職 九星 方位 金占 易 相場 觀相 西洋料理 菓子製法 和洋事務

## おひなさまと

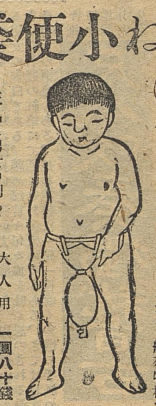
山川白酒
清酒白鶴
万上味淋

桃のお節句の御用に上記の品は勿論雛菓子用の種々取揃へ申候間多少に拘らず御用命願上候

電話新橋（七七二／七七三／七七四）

## 新橋の龜屋

男女
## ねん小便袋

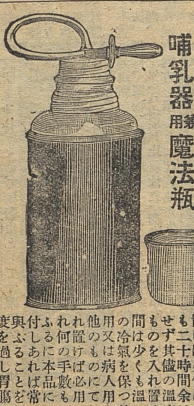


病人ある家には必ず一器を備へよ船來特種ゴム製品故永久使用に堪ゆく洗濯の園なく衣裳を汚さず話なくたちをきずねをきり自由にして毫も郷魔にならず。

大人用 一圓八十錢
中人用 一圓拾錢
乳兒用 八十錢
（本品に男女の別あり御指定を乞ふ）
送料八錢

## 子のある親

御注意 近來ゴム質粗惡にして實用に適せざる品を販賣致し居候弊工場製品は責任を以て販賣す他品と同一視せられんとを



新案特許メートル付兼用
## 哺乳器 魔法瓶

◎本用器は熱きものを入れ置けば如何に嚴寒の時と雖も二十時間余は嚴決して冷却せず其温度を保つ事十八時間は少くも攝氏四十度を保つて冷きものを入れ置けば四時間は少くも其儘の冷氣を保ち夜分乳兒用の牛乳其他の物必ず人肌に温めて用ふるに一定の量を與ふるこれ常に注意を要する點なり又病人用は一度煮沸して冷したるものを用ふるも可なり尚ほ本品には目盛付メートルを附し何時にても手數もなく加減し得て愛兒の健康を害し腸胃を過度を過し胃腸を害し猶ほ其弊害の恐なき事特許品に御注意を乞ふ

不幸を見ること有之本品を使用せば暫時にして其効力を失ふ粗品有之候間充分御注意の上御替用ふれば旅行散歩等に携帯して便利なり近來類似の品にて

メートル付 二圓二十錢（内地送料十六錢）
メートルなし 一圓八十錢（消毒用ガラス棒五錢）

大阪東區東雲町三丁目
振替口座大阪九七五〇番
小塚商店ゴム部

## 毛はへ藥は ピローゲン

藥學士藤本先生發見



たしかなはへる事証明
嬉しきあまりお知らせします
ぜひお試しあれ

ピローゲンは凡そ藥學士藤本先生最近發見の身體中毛の生ゆべき所に毛のなき方塗布して確に黒々とはへる他に類なき現代唯一の奇藥ぜひ御試しあれ。
價小金一圓、中二圓、大三圓、特別製五圓、御送金はかわせ又は振かへにて御申込あれ。

東京日本橋區橫山町三丁目
（發賣元）
賣藥卸問屋莊眼水本舖
玉置文治郎藥房
（振替東京四五一四番）
（電話浪花五百拾壹番）


此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ


造花ヲ自宅ニ於テ自由ニ製作出來得ル最新式教授法ニテ叮嚀親切ニ教授ス詳細ハ拾錢送レバ美麗ナル季節向造花ト案内書送ル

## 造花通信教授

質問自由

花環、花籠、枝花、徽章、望ミニ應ズ
東京下谷區池ノ端茅町二丁目
## 美術造花講習會
電話下谷五九九一番
振替東京六一七七番

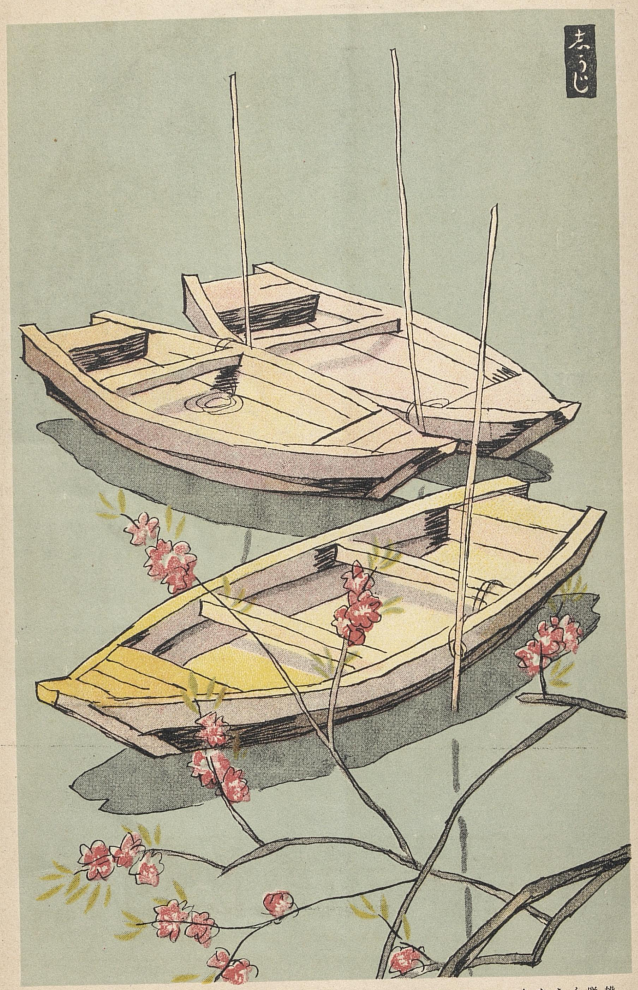
みゝは人體の關門也大切なる耳を療せ

## 耳の病

耳遠き症
耳だれ
耳なり
中耳炎
鼓膜炎

人生の痛快を感ずる基は耳？又悲嘆するも社會に立て成功を望むも皆耳にある少しても耳に害ある人は敗北者たる事は爭れぬ事實を證明せり耳病患者は耳位ねと思はず彼是れと迷はず信用ある本院が滿足を與へつゝある自家療法を施し全療の幸福を得よ往復ハガキで申込あらば有益なる療法書冊を無代差上升電話大森五番

東京府荏原郡入新井村
柵橋博濟院
顧問 藤本藥學士
森醫學士




桃咲くあたり　中野修二作


此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

御指の太さは直徑四分内外より六分五厘まで種々取揃へてあります

直徑六分五厘以上の太き物は特に一割の

十八金製

眞珠入指環

實物大

環の内面には正十八金の責任保證の極印があります

¥.270

金貳圓七拾錢

昨冬中破格の特價で正十八金製ルビー入指環を提供し空前の御好評を博し得ましたが、時日は遠慮なく過ぎ去り御約束の締切期日を經過致しましたので今日ではや普通賣價に復歸しました當時躊躇して居て期日に遲れた方々は今更の樣に悔み惜んでいらつしやいます、御氣の毒では御座いますが致方が御座いません、此等の方々のためにもと今回は國產奬勵の首唱せらるゝ折柄でもありますから本邦產のものを撰びまして、伊勢海に養殖しました本場の純良の眞珠を正十八金製の指環に裝嵌し又々上記の特價で提供致します。

これは眞に空前絕後の企で先のルビー入指環と等しく到底制限なく御註文に應ずることは事情が許しませんからこれも豫定數に達しましたら殘念ながら即時締切と致します、惜んでも悔んでもかゝる好機は決して再び參らぬ事を御記臆を願ひます。

電話京橋一、一六六

村松貴金屬品店

東京市京橋區中橋廣小路角

振替口座二〇一六七

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

○女の一大事直に解決せよ

# 月やく

―止り不順で速に流下を望む人よ

◎秘密安全、經濟に自宅で出來る●心配無用
○無暗の通經劑を用ひては大害がある●注意肝要

月やく止つた程婦人の一大事はありやすまい一刻も早く解決するが肝要です世間に月やく藥は澤山あるが疑品が多い樣です玆に最新研究にて斯道博士の學說處方に則りて發表された本劑は適法に依りて用ひば藥効作用で經血を速かに快通流下し又月經異常性血塊古血惡血を清掃して不思議程効顯がある實に驚く程「ヨクキキ」「キレイ」に流下の實驗多し而も身體胃腸を損せず衛生上無害である安心して直に試みられよ詳細は東京本郷御茶水元町一ノ三本郷順天堂藥品部へ稅券添申込れよ（なる可くお出を願ふ）

月やく　專門治療　醫長香尾博士　毎日午後

◎本郷元町電車停留所前　順天堂專門院

●ちぢれ毛くせ毛で困る人に告ぐ

婦人は髮の毛と其結方を見ても其人の性格が分ると申す位髮の毛は實に肉體美の看板であります其髮の毛が赤かつたり縮れたりして居ります方は實にお氣の毒でなりません若し此等の毛髮でお困り遊ばさる方は日本橋吳服町貳丁目東京美容術研究會へ一切手封入御申込遊ばせ矯正法を無代で教へて呉れます。必ず美人となる珍無類の書冊無代（進呈）

ローマ水　廿五錢　四十五錢　送料八錢

◎美髮之巻はちぢれ毛、くせ毛、赤毛を矯正し眞正の美髮となる法（日本橋吳服町都屋商店）

●美人の洗粉比較談



小照、此頃のやうに洗粉や石鹼が澤山出來てはほんとにドレを使つてよいか分らないわ、千代「オヤマア照ちやんは都屋のローマ洗粉を知らないの、小照「あら姉さんもローマ洗粉、馨さんは、馨私だつてローマですわ、ほんとにローマ洗粉を使つては外のは使へないわ、第一色が白くなつてアレやニキビ、ソバカスが出來なくて皮膚は柔かに玉の樣になるのヲー東京日本橋吳服町都屋商店代價一罐十八錢一袋十二錢

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

燐寸一本にて炭、薪、石炭等に燃え付きます。

# 妻君入用

見本御入用の方は郵券五錢送付あれ

## 一厘のたきつけ

大阪道頓堀大和橋

(西) たきつけ屋

電話南二〇九九番

---

○尋小卒業は豫科（一ヶ年）に○高小卒業は本科一年に○高女卒業は英語師範科に入學を許す○高等科は本邦女子教育最高學府○英語は初年級より

## 横濱 フェリス女學校

外國人教授○申込期限四月十日但し入學生過多の時は期限前に〆切る事あるべし

横濱市山手町一七八（電話一八七〇番）

---

創立八週年

自宅獨習生募集

## 第十七回 産婆科 看護科 講義錄

産婆科 六ヶ月卒業

看護科 四ヶ月卒業

本講義錄は斯道の博士學士ドクトル諸氏によりて講述せられたる簡易にして何人にも解し易きふりがな附唯一の模範講義錄なり今や本會卒業生にして內務省産婆看護婦開業試驗に合格したる者千人に達す時は入會の好機希望の諸姉よ期を逸する勿れ

（此廣告切拔御送付の方には束修半額）規則郵券要三錢

振替口座二四四八五

東京四谷區內藤町壹

電話番町四一八七

東京 産婆看護婦 講習會

---

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 講談倶樂部

本號定價 金貳拾五錢 郵稅金 貳錢五厘

三百圓の特別懸賞募集

愈々盛大

講談社 京込本坂鄉下 振替東京六六二九

## 講談雜誌界の花

- 小さん金五郎（新講談）……泉斜汀
- 木堂二人妻（新講談）……筑波四郎
- 黑頭巾（新講談）……前田曙山
- 後の六代御前（新講談）……夢想兵衛
- 養宜の館（新講談）……知田天華
- 猫魔傳（新講談）……磯萍水
- 立志商人伊勢屋吉兵衛（講談）……岡柳惟
- 三十三間堂棟木の由來……大河內山翠山
- 花川戶助六（講談）……阪東太郎
- 姥ケ池（講談）……洞殿司
- 櫻田血染の雪（講談）……市村俗佛
- 報ひの葛籠（講談）……緒方梅散
- 楠の泣男（浪花節）……京山小圓
- 俳優一夕話……洞殿司
- 母の死（活動）……藤田一定
- 仇討阿波の鳴門（講話）……旭堂南陵
- 交戰國笑話……田口絲香
- 演藝評判記……數代
- 花見船（落語）……烏鷺上人

## 見よ少年倶樂部新春の裝

# 少年倶樂部

贊助員廿餘名 理想的快雜誌

定價 金拾五錢 郵稅 金壹錢五厘

- 奇怪百出 磨針峠の宿……笹川臨風
- 海軍滿話 海國少年……肝付中將
- 海外發展 牛島謹爾氏……岩谷法學士
- 可憐少年 母を慕ふて……上井磯吉

- 理科實驗
- 讀者大會記
- 少年日記
- 少年漫畫
- 少年新詩
- 新聞倶樂部

讀者文藝各種

- 二度の大祓……芳賀博士
- ダ・ビンチ……高島平三郎
- 武藏坊辨慶……武田仰天子
- 油盜人……望月紫峰
- ヂーテー……巖谷小波
- 乃木遺訓……岡柳惟一
- 源氏の寶劍……清浦浪二
- ベル氏……高須梅溪
- フ大將……松浦政泰
- 尾崎法相……永川大觀
- 手招大木……小野小峽
- 燐れな羊飼……土屋性一郎

大日本雄辯會 東駒京込本坂鄉下 振替東京六六二九

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 東京御觀光の好季節

御見物日程の第一日に「白木屋」

追々と東京御觀光の好季節と相成申候御見物日程の第一日に「白木屋吳服店」を御挿入被下度白木屋へ御出相成候はゞ

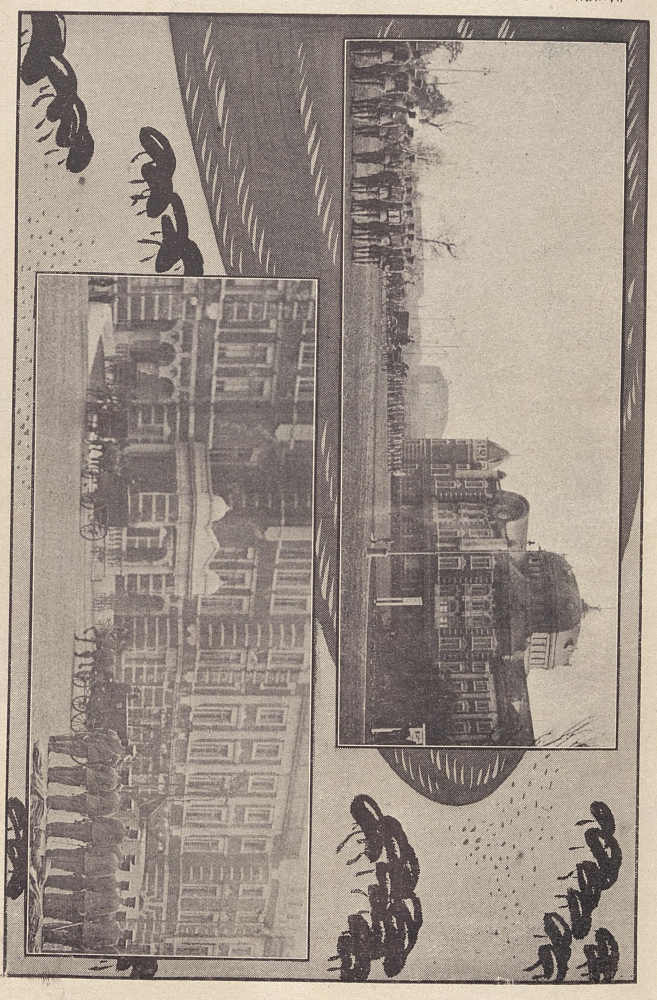
○御持忘れの御日用品　○東京御知己への御手土産

○御國許への御土産物

何れも取揃有之御買物濟みの後は紀念の一時間寫眞御撮影の上食堂にて手奇麗なる御食事を遊ばされ尚餘興御觀覽相成候はゞ極めて趣味ある半日を御暮し遊ばさる事と存候一同御來店奉待上候

東京日本橋

白木屋吳服店



天皇陛下には一月十二日葉山御用邸に御避寒あそばされ、次いで皇后陛下にも一月廿二日葉山へ成らせられました。上は天皇陛下が初めて東京停車場に成らせらるるところ、下は皇后陛下の東京停車場行啓の光景でございます

葉遊御田葉の下陛兩

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

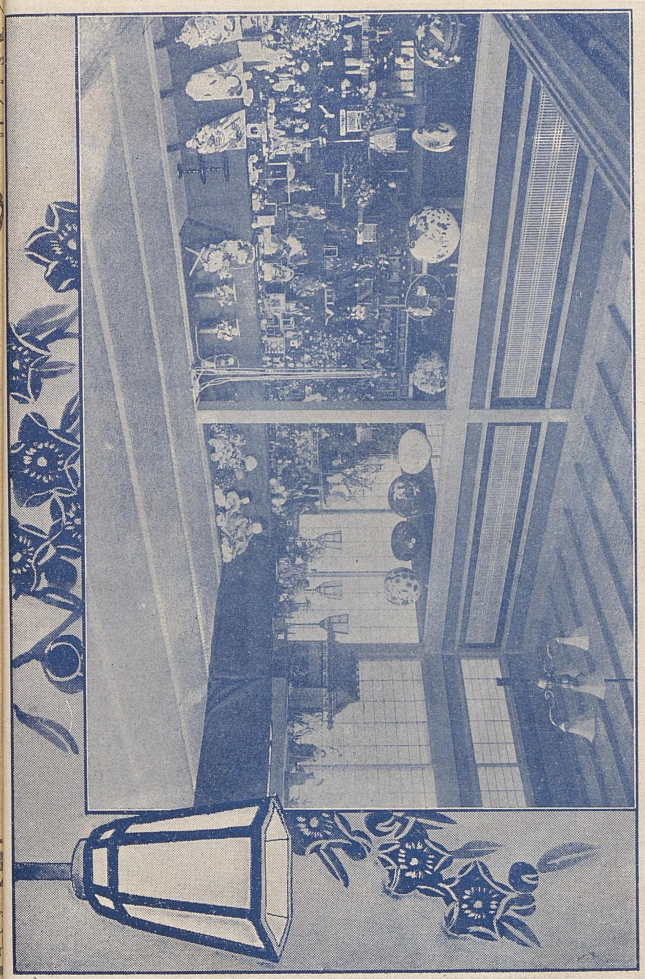
# 新樣式金製帶留

特製季節向
花摸樣彫刻

輕裝なる春衣につれて、御婦人が帶留に美を表し、粹を競ふの季節は差迫り候處江湖の御裝身具と申せば、常に新意匠に精製、御高需多き當銀座尾張町白牡丹本店が、今回特製實用新案出願中の品は、上掲の金製帶留に御座候。十八金に白金を交へたる花卉摸樣彫刻ながら、在來の裏座を省き、其儘適宜なる紐に取附けらるゝ樣に調製、從つて目方も輕く、價は殊更低廉に、十五圓以上廿圓にて御嗜好の品々、御下命に應じ候間、御變らず御引立御高需の程奉願上候。

# 東京白牡丹本店

銀座尾張町
松田幸次郎
（振替口座四三九七番）

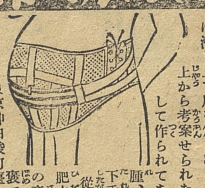


村井銀行頭取村井吉兵衛氏令婿村井彌吉氏邸の雛祭

祭雛

# 帯揚げ 妊婦帯

お産は御婦人方の一大事で、妊娠中は御自分の衛生と胎児の發育とに注意しなければなりません。從來用ゐられた岩田帯は、動すると、隙間が出來て用を爲さぬことがあります。實際は滑り上て解剖學的生理的に作られてあるから、下腹の壓重、下肢浮腫、靜脈怒張、痔疾痛、氣鬱等に伴ふ苦痛を防ぎ、産後の肥立にもよろしいといふので、夫人産婆看護婦に使て居られます。



東京神田駿河臺鈴木町七番地 サンライス商店 振替東京二七一二
地方八錢 電話本局一〇七
定價參圓送料市内四錢、
●便宜上賣捌ノ日本赤代理部ニテモ販賣シマス

婦人世界諸先生賛助

主任 川端龍子



# すぐに畫が上手になる

スケッチ速習錄

■畫を習ひたい方には勿論見て頂かなければなりませんが、□畫を見ることだけ好きな方々が插繪だけ見ても面白いし、■畫に就て知識のない方が御覽になると趣味が向上します。

六ヶ月速習

會費一ヶ月二十五錢 現則書入用の方は郵券二錢封入申込あれ

東京府大森新井宿川端方 スケッチ倶樂部 振替口座東京八參貳

# ちゞれ毛矯正藥

ちゞれ毛くせ毛にて色々の方法比較的効なくお困りの方は私方へ御通知遊ばしませ非常にきゝめある、よき矯正藥があります。此はありふれたものとはちがひ南洋印度等の熱帶地に産する植物より抽出せる原料にて造つたものであります、だまされたと思て一度ためして御覽遊ばせ。東京京橋區松川町五番地備前屋田中





# ホクロ取

官許 神液＝白色藥




イボニキビ ソバカス アザ ヒビ シミ をなほしあるべき處に毛なき人塗れば美しくなる

人相大家赤水先生曰くホクロには吉と凶とある、女の顔にあるは再嫁、眉の間にあるは三度、嫁す鼻の下は双兒を生む、其他處により好色、夫を失ひ子を殺し自殺することあり、男の眉の間は吉鼻の上は戰死、口の兩脇は散財あり其他處により夭死好色火難不幸多し之を去ると福運が向て來る本液をつければ神の如し吉凶は功能說明書に委しく書いてありますその通りふれた藥とちがひますから速はず試み玉へ

日白粉 黑き人も美しくなる 一個 定價 一瓶 金五十錢 別製壹圓 一送料四錢

發賣元 東京本郷臺町四十九 振替東京 參〇〇六 博愛堂藥院

# 不思議の乳瓶

理學博士 鶴田先生御證明




お子供に乳汁を差上ますのに母體と同じ溫度のを差上ませ、冷却したものは胃腸をわるくするのみならずとりかゑしのつかぬ憂ひがあります此哺乳器は慈母より出づる乳と同一の溫度を長時間たもちますから夜分にても母兒共にお辛い事はありません御座いませぬ舊式の乳瓶にてお育ての御家は速に本ちゝ瓶にて差上げて下さいますやうすゝめ致します

◎到る所の藥店、洋品店、食料具店にあります

製造發賣元 東京淺草區南元町廿五 在原留三郎

定價 金壹圓八拾錢 送料内地拾五錢 臺灣廿五錢 滿朝廿五錢 電話下谷七一六番 振替東京四一六〇番

一具

●說明書御入用の御方は御申越下さい御送り致します。

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 萬年筆

## 六ツのメリット

一 常にインキを蓄ふ
二 何時でも何枚でも
三 永久に使用出來る
四 日本紙にも自由に
五 日本字をも自在に
六 迅速に鮮明に快く

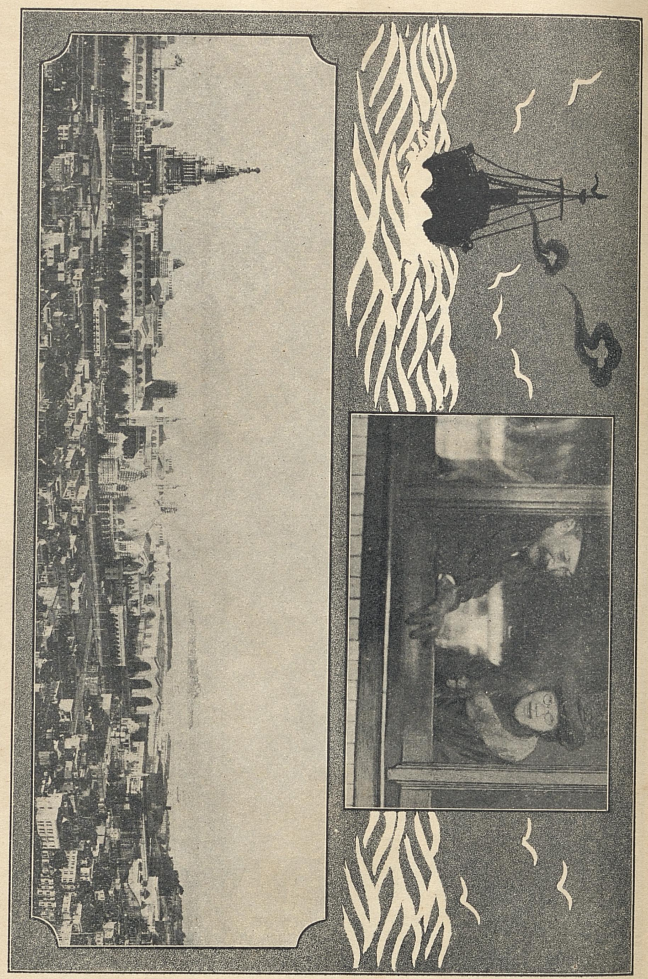
**オノト萬年筆**
無飾金六圓
以上
飾付金七圓

**オリオン萬年筆**
無飾
金二圓八十錢
飾付
金三圓廿五錢
送料各金十二錢
萬年筆用特製
アテナインキ
金二十錢



東京日本橋通
大阪心齋橋筋
丸善株式會社
京都三條通麩屋町
福岡市博多上西町

夫人同伴で去る二月六日米國に向つて出發されました。上は男爵夫妻の出發、下は大博覽會場の全景です



發出の妻夫將大生瓜

# 色白くなる藥

お顔の綺麗なのと汚いのとでは一生の中にどれほどの幸不幸があるか知れません殊に若いお方は色白く綺麗でなければ何より御損です、されば色黒き方や日にやけた方、にきび、そばかす、吹出物で治療に御困の方は欺されたつもりで郵便爲替四十二錢御送附あれば色白く美しくなる藥直ちに御送り致します

（郵便切手代用なれば三錢切手十五枚）

府下大森新井宿一四五三　秋元新生堂藥院

# わきがの妙藥

追々暖かくなるに從ひわきがのある御方は頗る惡臭を放ち他人に接近するをきらわれあたら有爲の美男子も美婦女も交際を缺き又妙緣を失ふ不幸に陷ゐるが如き方が澤山ありますこれを救はんが爲め數年苦心して得たる新藥を皆さんに紹介いたします郵便爲替六十八錢封入府下大森新井宿一四五三秋元新生堂宛御送付あれば密封にて直ちに妙藥送付いたします。（但し郵券代用一割増）

# 月やくなき人

## ◉見落したら女一生の損




月やくの滯りには種々の原因がありますが、女の方に取つては一番心配な事であります、此の大事なお心配事に、つまらぬ藥をお服になつて大切なお身に、もし害でもあつた時には取返しがつきませぬ、其内に滯りは日を重ね、次第に逆上、頭痛が增し、耳鳴がして顏が赤くなり、兎角胸先きがむかむか、食物が進まぬ、と云ふ樣な御容態のお方は、返信料として郵便切手三錢封入、東京市京橋區新富町三丁目電車道大橋方へ御手紙下されば、安全に流下いたします、特効藥を御敎示致します



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ


淺田宗伯先生遺方　村井弦齋先生賞讃

# つわり湯

淺田先生の遺方で村井先生が之を患者に試して其効能の確實なることを認め發賣を勸められた妊婦の惡阻藥です　如何なる重症でも必ず能く治ります。

藥　三日分　五十錢　送　四錢
　　一週分　一圓　六錢
價　二週分　一圓八十錢　料　八錢

東京市青山南町六丁目百一番地　無量壽藥園　振替口座東京二〇〇二一番

●美髪の眞法を最もたやすく自修的に實行するには如何すべきか
●拔け毛禿げを最も確實に防止し濃髪を再生せしむる確法如何
●縮れ毛癖毛は如何せば最も安全に矯正し得再發の患無きを得るか
●薄毛赤毛濃化黒化せしめ得べきか

前記の諸問題を毛髪生理學の上より最も容易に安全に確實なる自修的療法を明快に講述せる者は

永久の根本的治癒

其の患に罹る事なき最も容易に安全に確實

專門大醫日進の毛髪衛生說明筆記是なり　郵券貳錢送付次第贈呈す

●●●

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

流田山生田流

忽ち七版

教科用刷 縮刷 箏曲歌集 和紙

特製 牛紙版和紙上等六百頁 正價二圓五十錢 送料三錢
上中下三冊一組函入 送料無料
縮刷一冊 古用上中合本 正價五十四錢 無料
御稽古用上中各冊 正價五十錢 送料十錢

特色

本書は各家元に於て最も祕密に調査なし
●唄ひ分●調子●合の手●調子の變り目
を明記し●組歌は一々引き方を附す
特製は貴婦女方の御交際上婚禮用又は御
進物用に最も好適品即ち最大の重寶なり

箏を彈くにはまづ この本この譜

●お誓古用 最新古用 箏曲歌集 和紙

●お誓古用は四六版で最新曲と古曲の歌が殘らずあり
ます携帶に便利お稽古には尤も善し

四六版和紙三百頁 活字 號手ごろの本 賣價五十錢 送料六錢

模範 箏曲歌集

特 本書は大家八十名の閨秀にて數育上善き歌を選集なし又

半紙版紙質極上 等六百頁上中下 三冊一組鉄人製 本優美高尚 正價二圓八十錢 送料十二錢

特色

これほんてがしたかどなたでもよくわかる

箏のかぐみ

十錢均一(一曲)二十錢(貳錢)

どれでも

ガードは中止各冊手法付き美麗な石版表紙

東京音樂學校箏曲教授 今井先生 演奏村田先生作譜
學習院女學部 從六位

十錢均一

○櫻狩○玉川○椿盡し○菊水○須磨の嵐○千鳥
○春の曲○六段○時鳥○八段○地久節○子の日
○八千狩子○みだれ○代々○さみだれ○西行
○かざしの雪○江の島○新松盡し○住吉

二十錢均一

姫松、若竹、岡崎女郎衆、花籠、梅と櫻、櫻、咲ひた
櫻、衆、歌の道、手習(二十錢)
手ほどき上 落梅、江戸紫、秋の七草、三の船、今樣朝妻船(二十錢)
手ほどき下

東京音樂學校 山口先生 人康教會東北本部長 山下先生
京都盲唖院顧問 松坂先生 九州當道音樂支部長 古賀先生
名古屋講習所副長 小松先生 名古屋講習所副長 寺島先生
大阪當道音樂部長 菊田先生 大阪當道音樂副部長 菊塚先生

八大家協賛音譜

十錢均一

○六段○金剛石○八千狩子○水は器○代々○夕空○七草○新高砂○ゆき

二十錢均一

○嚴上の松○松の壽○夕顏○茶おんど○磯千鳥○越後獅子○四季の眺○春の曲○千鳥の替手付○手ほどき

▲手ほどき

○門松○すゞ鉢○朝戸出○鶴の聲○袖香爐○黑髪以上六曲

いろは順

注意 振替は東京一七四一〇 郵券代用は不可 金四銭以上は文面に限る

發行所 東京市京橋區南傳馬町二ノ一 博信堂書房 電話京橋本座 各國各樂器店各書籍問屋 注文は前金の事 若しくは代金引換にて發送仕候

海の務

故京都今尾揭載者最後の撮影

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

讀本界の大王通信教授の始祖

# 旦見易き琴の譜本

井上胡蝶著 **生田流箏曲新譜**

版卷一定價壹圓三十錢送料六錢 四版卷貳卷參卷四卷五
定價各金壹圓十錢宛送料各金六錢 代金引換各金十錢增
△海外代金引換三十四錢增

曲譜目次

**卷壹** 四季の花門松鳩の聲黒髪六段亂八段金剛石夕顔高砂越後獅子千鳥茶音度春の曲小督の曲 春日影 朝外出 末の六段前歌

**卷貳** 松竹梅 殘月 秋風 冬の曲

**卷三** 松壽萬歳八代千代獅子雪九段巖上の松新雪月花 凱旋喇叭の曲四季の詠め夏の曲秋の曲

**卷四** こすの月 秋の露雪景色 雲井八段 竹生島 磯千鳥 時鳥 楓の花 さゞめしろ 萩の露

**卷五** 琴の音 筆の跡 今小町 笹の露 新青柳 名所土産 庭の教 大内山 民草

**箏曲譜** 定價八拾錢送料六錢 曲譜六段筑紫の海 千鳥椿壽し秋の言の葉 外手ほどき五曲

## 山田流箏曲本

松壽 八重垣 松風 熊野
江の島 初若菜 越後獅子 櫻狩
住吉 春の宮子の日遊合本 四季の艶合本 九段合本 都の春雪井本 六段合本 那須野
松上鶴 四季の艶 朝妻船合本 代盤の榮本 八千代合本 乱八段合本 小督
うすの聲 千箱玉章かざし雪合本 松竹梅
以上各冊三拾五錢宛 菊水 千鳥 以上各冊四十錢宛 桐 特別賣出價九圓五拾錢 △玉川

送料各四錢（代金引換謝絶）

以上各冊三十錢宛 山田流手ほどき 六十錢 送料六錢

本譜は運賃は先拂にて低廉 ◉詳細樂器目錄進呈

井上胡蝶著（山田生田共通譜本）

**箏曲組歌新譜**

定價一圓二十錢 送料六錢

目次
表組 ふき 梅ヶ枝 心盡 裏組 雲の上 四季友 中組 須磨明石末の松 奥組 四季雲井扇 思川羽衣 宮の鶯 飛燕 以上十五曲

**特色**

琴を習ふに良き師の無き人一度習ひて忘れたる人平常稽古の速達を望む人は當所發行通信教授に用ゆる此譜本に依らるべし本書は最見易き譜にて記載し記譜は完全說明懇切を極む且つ各自望みの卷より購讀し得られ曲中不詳は無料之が質義に應ず感謝禮狀最多く

**閑院宮家 箏曲入門** 定價送料共三十錢

御買上の光榮に浴せり此譜本はすぐわかるので隨意の者より求めてよいが其内容を見んと思はゞ左の譜本を求めて之を試みられよ（六段外手ほどき八曲合本）

發行所 福岡市外五公園内 福岡縣筑前國口振替福座五〇番 箏曲通信教授所



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 婦人画報

三月の巻　定價二十二錢　郵稅五錢　前金一年一圓二十五錢　半年五十九錢　郵稅共一圓三十四錢

讀物

□私を頼つて來た女　農法學博士　新渡戸稻造
□學校時代のお轉婆娘…三輪田元道　○逐鹿會後援の三夫人…記者
□女夫　岩…大町桂月　○諸國名産調…白露子
□牛乳の飲ませ方…弘田醫博士　○臺所日記…晶子
□雲井の春　長谷川時雨　○水あかり…ピヤンス
□女房論…福本日南　○海外だより

讀書報

◎口繪『野に出でゝ』（二頁八原色版）…石川寅治筆
○閑院、東伏見、久邇宮三妃殿下特志看護婦人會台臨…○婦人衛生會
○皇后陛下御下賜品と濟生會福田會…○久邇宮家のお雛樣…○髮形
○西郷侯爵家と小澤男爵家のお雛樣…○三井令息新婚…○三月の生花
○諸名家の奥樣鑑と令孃鑑…○お雛料理…○閨秀書家…○安田氏家庭
◎三月のお雛樣と京人形の拵へ方…
□私の新婚當時…五夫人
□川柳に表はれた嫁と姑…高島平三郎　○三月の御惣菜…里子
□謠曲物語『道成寺』…泉斜汀　○裕長着の仕立方…
お掃除と雜巾がけ…嘉悦孝子　○帝劇の女案内人…
□歷史物語『機轉の人』…塚原澁柿園　○故郷より…彌生子
○食物往來…あめんぼう
□長篇小說　お夏文代　菊地幽芳作　插畫鏑木清方（毎號連載）

東京振替　東京市東京區橋一一鍛冶橋八一八番
東京社　電話各地　東京到着の二三店に二あり
此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

産婦人科　小兒科
女醫吉岡彌生
病室及産室設備　隨時入院の需めに應ず
院長　診察　宅診　午前　往診　午後
醫員　診察　午後
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院
（電話番町二二五七番）

私立　東京女子
醫學專門學校生徒募集
◎第一學年生壹百名◎入學資格高等女學校卒業生
◎入學願書は三月二十五日迄に提出せらるゝ可し
◎詳細規則郵券參錢を要す◎電話番町二〇一九
東京市牛込區市ヶ谷河田町六番地

子宮病　血の道　くすり
慈母
こしけ、月經、不順、頭痛、のぼせ、めまい、手足のひへこみ、などにて永年御難義の御方は是非共慈母をお服みなさい服みよくて是迄にない良藥で實に驚くほどよく効果がありますから御希望の方は二錢切手を添へ申越なさるゝと詳しくお知らせ致します
東京府下大森停車場通海岸へ三丁北へ入
川名慈母院

嬉しきお知らせ
藥學士　新發見
毛は藥
世の御婦人方かれこれと迷ふて苦勞なさるな最新藥學士新發見の毛は〳〵藥は身體中毛の生ゆべき所に毛のなき方生べきは、よくなき薄毛の御令孃ぜひ御試しあれ必ず生へる私し實驗の上確認して嬉しき餘り不幸の方に御知らせ致します送金は「かわせ」にて御申込あれ
◎價、小金壹圓、中貳圓、大參圓、送費は無料
東京市日本橋區小傳馬上町九番地
村田雪子

寫生




此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

專賣特許 第二三五九六號 丸山式煮燒器 万調竈

空前の發明品



お臺所の重器

注意 弊堂は丸山式蒸燒器製造販賣權を全部讓受け從來の品に一層改良を加へ品質を精撰し體裁優美に製作致しまして文明の利

特徴 唯一個を御備へになれば日常の炊事は勿論凡ての和洋料理が最も簡便に出來ます

燃料 瓦斯「コークス」木炭等何でも用ひられますが最もお安く上るのは木炭で一升の御飯か僅か三厘六毛で炊けます（但し木炭は一貫目十二錢と見積り）

僅か貳拾分 以内に御飯と御汁とお湯が一度に出來ますから大へん手ぬけになります

殆と萬能 普通の煮炊に限らず七輪、テンピ焙烙、燒網、蒸籠、保溫器、乾燥器、殺菌器等に應用され又冬季は「ストーブ」の代用となり養蠶室の溫度器としては此上もない品で御座います

火の用心 本器は鐵板製で外部に火の出る憂がありませんから最も安全で何方でも容易にお取扱になれます

委しい說明と實驗は御一報次第何方樣にも御目に懸けますが地方の御方には夫れが困難で殊に說明書だけでは充分御信用遊ばしませんので誠に遺憾に存じ升幸ひ東京市内に御知合の方が御座いましたら其お方を以て効果の如何を御問合せ下さる樣願ます（但し說明書御入用の方は無代價にて進上致し升）

定價

| 種類 | 高サ | 直徑 | 重量 | 價格 | 荷造料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 正一升五合炊 | 二尺四寸 | 一尺一寸五分 | 二貫五百匁 | 五、五〇円 | 三拾錢 |
| 正二升炊 | 二尺六寸 | 一尺二寸五分 | 三貫匁 | 六、五〇〇 | 全 |
| 正三升炊 | 二尺七寸 | 一尺四寸 | 三貫八百匁 | 七、五〇〇 | 全 |
| 正四升炊 | 二尺八寸 | 一尺六寸 | 六貫匁 | 九、〇〇〇 | 全 |

各種共大小以下に於ける何升にても炊けます

發賣元 東京市本郷區駒込肴町八番地 博房堂 電話下谷三五〇五番 振替口座東京二九六五四番

# 女の一番大切な事

女と生れ、如何に理想の夫を持ち名譽財產あればとて婦人病と云ふ子宮血の道の病に罹るやうな事があればソレコソ女として到底幸福な生涯を送ることは出來ません、眞個に女にとつて一番辛い悲いものは婦人病ですから▲平常コシケはある頭痛目眩はする背肩は凝る手足腰は冷へたり引つれたり月經は早かつたり後れたり下腹が筋張つて非常に痛み少しの事が氣になつて泣いたり笑つたりクヨ〳〵したり癇癪を起したり一日だつて愉快日はなく涙で暮す御婦人は在來のツマラヌ買藥や子供の出來る呪などに迷つて居ずにはがきでゞも手紙でゝも御問合になれば此辛い病を人知れず治し人の羨む程壯健になつた譯を詳細お知らせ致しますから何人でも御遠慮なく御問合なされて女一生の幸福を得られよ東京麴町區飯田町二の五〇電話番町二八八二橋本健藏






此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 通信教授 琴とヴァヰオリン

類似もの續出す發行所と校閲者に御注意乞ふ

東京音樂學校教授邦樂調査員大檢校山口巖先生校閲

## すぐわかる琴の譜本

**生田流**（第一編）は手ほどきもの六曲及鶴の聲黒髪夕空八千代獅子六段夕顔大内山御製の曲金剛石新高砂千鳥の曲みだれ茶音頭越後獅子秋の言の葉御國の譽春の曲以上合計二十三曲あり（第二編）は手ほどき七曲及丹頂の鶴萬歳ゆき末の契八段巖上の松ラッパ曲ほとゝぎす夏の曲秋の曲楓の花殘月松竹梅千鳥の曲替手以上合計二十一曲なり

**山田流**（第一編）手ほどき六曲及櫻江戸紫弓八幡秋の七草八千代獅子前歌付六段夕顔住吉椿づくし千鳥の曲雲井六段越後獅子都の春あづま獅子松竹梅以上二十一曲あり（第二編）手ほどき六曲及早春喜撰地久節ほとゝぎす。春の宮子の日遊江の島菊水みだれ。八段松づくし櫻狩那須野松風熊野小督の曲以上二十二曲あり

◉何故すぐわかる？ 先づ二錢切手十枚送られよ。見本用代として新式手ほどき六曲及頗る詳細なる說明付生田流山田流共通六段の曲を送附すべし（定價二十五錢ノモノナリ）

大好評既に八版 定價各壹圓三十錢ヅヽ 送料各八錢ヅヽ

農商務省新案特許本會專賣

通信教授 ヴァヰオリン講義錄

**大好評忽七版** 音樂中最も六ケ敷と稱せらるゝヴァヰオリンが通信教授などで出來るものかと云ふ人あらばそは本會の新發明の方法と本書の內容を知らざる人なり論より證據既に入會したる會員よりは其方法の巧妙なる其講義の懇切なる等想像以外にして實際教師につき學ぶより遙か優れりとて嬉しさの餘り皆多大の感謝狀を送り來れり（規則書には其住所氏名を明記したる感謝狀を添付す若し疑惑を抱く人あらば直接其人々に御照會ありたし）

**特色** （一）此方法による時は全く知らぬ人が僅か三ケ月で卒業し人の前でひける位にキットなれる、（二）講義は唱歌マーチ洋曲三絃曲「春雨越後獅子浦島勸進帳等」琴曲「黒髪六段千鳥」等面白くてたまらぬものを百十余曲詳細に講義しあり（三）どんな山中でも居ながらひま〳〵を利用して稽古する事ができ且質問隨意なり◉入會金五十錢會費一ケ月六十錢送料六錢但三ケ月分送料共壹圓九十八錢前納者は入會金を免除す◉詳細規則書希望者は郵券二錢封入申込まれよ

◉通信教授 尺八講義錄 本會獨特の巧妙なる新發明の方法なれば如何なる初歩者と雖も直に上達す詳細は規則書郵券二錢送れ

最も初歩者を歡迎す 初歩ならざる人も必ず見よ大に得る處あるべし

發行所 九州福岡市中島町五（振替福岡五五〇〇番） 大日本家庭音樂會

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 月やくとして困る人




▲月やくが二三ヶ月も滯り又は血塊などゝ稱へ永年經水なき人や月經不順にて顏色が惡く煩などが赤くなつて始終逆上、頭痛、眩暈がするとかにて御困りの方三錢切手封入御手紙下さい身體に何の害なく妙に通づる良藥を人助のため皆樣にお知らせ致します、ためされた方から引きも切らず澤山禮狀が參ります一日早ければ夫丈早く安心出來ます。

▲東京四谷信濃町電停前　森田屋


最新刊　金武拾九錢　振替參拾錢　參錢切手

# 三分間美人の心得

●東京では近頃美顏術が流行致します。本書に家庭美顏術の方法を自分でスグ出來るやうに書いてありますから自宅で毎日美顏術をして居れば頭のシワを去り。●細かにツヤのよい美くしい顏になられます。●男性美も女性美も作り男去勢する事が出來ます。●本書のニキビ、ソバカス、色黒を美人となる事が出來ます。●毎夜寢ぬれば顏の皮膚が白くなる。●廢物利用で金錢を要せず、自然の美顏と同じになる藥が出來る。●白粉の如く一時的でなく、永久的に白くなる。▲目次の大略▲髮毛を黑くツヤを出す法●髮毛を細くならぬ樣にする法●髮毛を生ずる法●髮毛の毛筋を細くする法●シワのよらぬ樣にする法●髮毛を取る法●ちゞれ毛を直す法●日にやけるのをよせる法●赤毛を白くする法●色黑き顏の化粧法●まゆ毛を美麗にする法●ひくき人を高く見せる法●白粉の化粧品の撰び方●ひたいのはえぎわを直す法●目及口の大なる婦人の心得●やせる法●ふとる法●毛を拔く藥の製法●白髮のはえぬ法●化粧の仕方いろ〳〵●右の外色々の事が澤山ありますが自分で出來る樣にしてあります。

〈送料共〉金參拾貳錢　振替卅參錢　參錢切手　拾武枚

# 廢物利用　足袋の裁縫

新案

## 東京足袋のかた

五文から十二文まで十八種壹組

●足袋の裏ひ方を敎へる書籍に足袋のかた十八足分添て差上ます。●何も御存じなき御方でも此本を見れば直に出來る樣に詳細に記してありますから●廢物を利用して自宅で裁縫すれば一足の足袋が僅か五錢で出來ますから御家族の多い宅では一年に足袋代の四五圓位節約になり升。

●足袋の裏ひ方等圖形を示しやすくつて〔子供さんや御婦人方ノズあられます〕●お子供さんの裏に書てお足袋を縮緬、白綾、白ビロードに御覽なさい〔御婦人方ノズ等有合せの絹地又は小切れで思ひ〳〵に御覽なさい〕●足袋形十八種で三十一錢なら意足分が貳錢にも當らぬ安いものです。●足袋形は裁縫師が秘密にして弟子より外に讀らぬ品でございます。

發行所　東京市下谷區北稻荷町五四　科學研究堂



此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人の情操を培ふ三月號

# 婦人世界

母親の讀書……峯合子
將來の嫁の資格……井深花子
學校教師の注文……一女教師
化粧室の秘書官……安室聖子

坐談十種……伯爵　柳原義光
働らく人の權利……栗塚龍子
伊勢參宮土産話……婦人記者
生蕃探檢小記……白井忠義

一日一善日記……
雛に別るゝの記……艷子
新妻日記……つゆ草
家庭教師の日記……小村子

變り物で通つた私の書生時代……高橋瑞子
自ら幸福を棄てし婦人……さつま子
心と表情……（畫入）

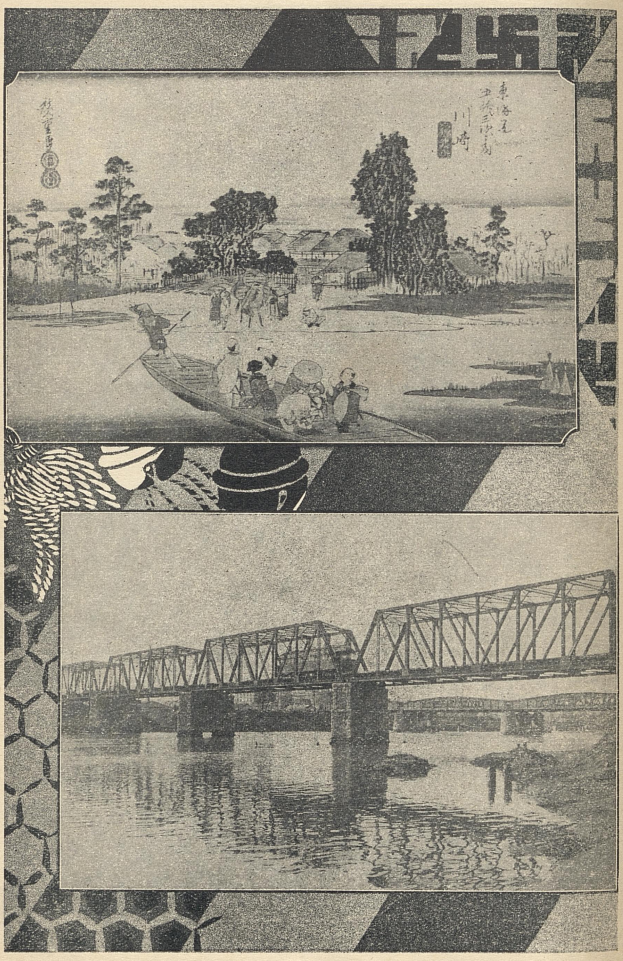
加賀の臙脂虎……大住白蛇
小說　疑惑……田口掬汀
友の寫眞帖……ひな菊

米國行の花嫁に就て……在桑港　大澤生
日常生活の改良法……日本橋　原口鶴子
諸國奇俗　西大寺の會場……

正價　金二十錢　郵稅二錢
六冊前金三圓十二錢

東京　博文館

# 東海道五十三次の昔と今



川崎六郷渡舟（廣重畫）



川崎六郷鐵橋（婦人世界寫眞部　戸田常次郎撮影）

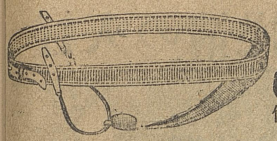

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

## ねむれぬ人

不眠症は萬病の基

多年不眠症患者の治療に腐心し實驗上好成績を擧げたる斯界の明星ドクトル柳先生の良劑にして、物思ひ取越苦勞、心配事の爲め安眠出來ぬ人、腦神經衰弱、頭痛眩暈、逆上ヒステリー症、腰手足冷へ、神經過敏等にて眠れぬ爲め種々治療、腹藥も少しも効なき人は最後の手段として速に郵券二錢送り其詳細を知り治療せられよ可驚藥力の爲必ず期以上の喜びあらん

東京市京橋新肴町　與田藥房



## 便ぢをさへ器械

本器は男女共使用せば如何なる慢性にて脫肛し汚物の衣服に着くの害を防ぎ立居歩行運動には少しの不便不愉快の感じなく苦痛を忘るは既に世の同病者より高評を得たる本器の特長なり世のぢ病患者是非一器を御購求ありて全快速ならしめよ

定價　金壹圓九拾錢　金壹圓四拾錢　小包料八錢代金引換貳拾貳錢

御注文の節腹部寸法通知の事（曲尺）

製造發賣元　中江商店　弘業社

東京新橋電話　東京府下新井村　東京新橋　荏原郡新馬場町七百十三番　振替東京五八七番

## 肋膜炎を病む方に

●水がたまつて苦む人

●水がたまらなく苦む人

ロクマクエンにて永らく病む人は淡色の液がたまり、液の中に血が交り、膿汁がたまり、呼吸をすると胸が痛む、咳嗽が出る、動くと呼吸が困難になると云ふ隨分難儀な病氣である此の病氣を速く治して丈夫になりませんと世の人々の最も恐れて居ります肺病や腹膜炎に成り易いのですが未だ此の病氣に良く効く良藥がありません東京府大森新井宿中江藥療苑ハガキにて御照會あれば是迄數年の研究と實地の試驗と學理上の經驗により一の靈藥を發見し此迄幾多の同病者を救濟せしにより同病に惱む方に自宅治療問答書を無代で差上げますから御遠慮なく申越下さい

# 桃の節句と鍾馗印




お大切のお雛様やお道具お片附の節
是非共藤澤樟腦をお入れ遊ばせ

定價
大形 金十二錢
中形 金七錢
小形 金三錢五厘
碁石形
大罐 金五十錢
小罐 金十錢

販賣部
賣藥店
小間物店
雜貨店

發賣元
大阪道修町
東京本町
藤澤樟腦本舖

---

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



# 月經痛



効驗顯著なる鎭靜劑の發表

月やく痛どめ

御婦人の毎月なくてならぬものは、月經であります、其月經のある毎に、痛みの爲めお苦しみになる諸姉を、救濟する目的にて、未だ賣藥界に例のない、數多の專門大家が實驗の上賞用して居られる新藥を主劑とした月やく痛とめを發賣致します、お苦しみの方はお疑ひ遊ばさず、速に御服用の上此大敵を驅逐せられよ

婦人病專門
東京溫灸院長 福岡利三先生發表
救民濟生 商標既登願錄
鎭華錠
藥價 五日分金一圓 十五日分二圓七十錢 三十日分金五圓 送料金八錢

主治効能
月經痛、子宮卵巢の炎症、月經過多、子宮出血、子宮痙攣子宮頸及膣加答兒、生殖器充血流產の前兆に効あり

東京市淺草區馬道町四丁目七番地
發賣所 東京溫灸院製藥所
市内は無料配達 引換小包は實費
電話下谷六千七百八十六番 振替東京二六二〇一番

# 鼻の病





効驗卓絕使用簡便の治療藥顯はる……

子寶と鼻、腦神經衰弱と鼻、煩悶と鼻、喘息癲癇と鼻、落第勝なる學齡兒童と鼻、頭痛、肩の凝、弱視症と鼻、胃腸病（乳兒の鼻つまり ひきつけ）生殖器衰弱と鼻

腦鼻藥發表の嚆矢
東京溫灸院長 福岡利三先生發明
腦鼻藥王 福岡氏
婦科病液
藥價 凡十日分 金五十錢 三ヶ月分 金三圓（吹霧器附）

主治効能
腦病。神經衰弱。血の道。ヒステリー症。鼻出血。鼻茸。肥厚性鼻炎。鼻加答兒。鼻性反射的諸症例之（不眠症。頭痛。逆上。眩暈。記憶力減少。弱視症。視神經萎縮。落第勝なる學齡兒童。肩の凝。耳鳴。喘息癲癇。不姙症。月經困難。色慾不振。半身不隨。卒中。顏面神經痛及痳痺。慢性胃病音聲の惡るきに最も効力があり升。

東京市淺草區馬道町四丁目七番地
發賣所 東京溫灸院製藥所
電話下谷六千七百八十六番 振替東京二六二〇一番

市内は無料配達
市外は十日分 金二錢
三ヶ月分 金八錢
臺灣清韓國 金四錢 金三十錢

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人に限無料進呈

# 肺病の靈藥

**肺病は不治症にあらず悲觀する勿れ**

肺病は養生法と良藥を得れば決し不治症ではありませんん本病に襲はれ悲觀しつゝある人は郵券二錢を添へ照會せられよ私の實驗したる療養法及不思議に治癒の奇藥を詳細に御通知致し升

申込所　東京市外大森海岸電車停留場上　川名助次郎

# 大日本通信女學校

總長　中園子爵
校長　四元學士
學監　神戸博士
顧問　下田學士

敎頭井川學士敎授高等師範卒業兩宮みつ子外卅名

**女學校の卒業證書は嫁入道具**

等高女學校の卒業證書は嫁入道具の一つ也。文部省高等女學校令に準據するは勿論資格と實力を與へ良妻賢母を養成す女子の學校生活には種々の危險と弊害とを免れず又種々の事情にて家庭を離れる能はざる諸嬢は速に來りて本校の門に學び光明の端緒を開き幸福を得よ

本校は其卒業證書を諸嬢へ授與す。父母の膝下にて家事の傍ら僅少の學費と短日月にて自宅に居住の儘登校して面倒なく卒業せしめ卒業生には卒業證を授與し在學生には徹底的に指導し卒業證書を授與す

學期　開講は毎月一日と十六日　全免の外月謝　入學金　見本つき申込次第　進呈

天下千萬の幸福に出世せんとせば本校に入れ

新東京本花郷町

大日本通信女學校

電話大曲四二〇　本郷下通二丁目　信濃町五六　女學校三二二　番地九二

# 家傳靈藥　もりの露

自宅にて安全に治る

●イボ痔●痒痔●裂痔●痔出血●脫肛痔●痔瘻●等現狀の儘にて治療奏効頗顯著

**傳**靈妙藥あり「ハガキ」にて申込有は病原理由自宅治療法の說明書呈す

東京市京橋際壘町

●製藥本舗　**小松盛林堂**

# 現代主婦の虎の巻

實業之日本社

# 實業講習錄

一ケ年卒業　中學程度　月二回發行

## 新會員大募集

今や入會の最大好機

| 會員 | 一ケ月 | 五十錢 |
|---|---|---|
| | 三ケ月 | 一圓四十五錢 |
| | 半ケ年 | 二圓八十錢 |
| | 一ケ年 | 五圓五十錢 |

一家の主婦として最も大切なる事は、內より良人を助け、家政を整理し良人に家事上の心配をかけぬ事である。さて然らば如何にして良人を助け家政を整理すべきか、それには先づ經濟の頭がなければならぬ、數理に明かで、帳簿の記入法も知つてゐなければならぬ。その他字を上手に書く事、語學も一通りは心得ておく必要がある。而して是等の事を最も解り易く誰にも解るやうに說いてあるのが我が實業講習錄である。

我が實業講習錄は、大隈伯爵を總裁に澁澤男爵を副總裁に載き、その他現代知名の大實業家賛助の下に一流の專門大家の講述せられしものなれば、その講義の親切適切なる他に比類なき講義錄である。然も僅な會費で家庭に在つて用務の餘暇靜に修學出來るのである。

世の模範的主婦たらんと望む方々は、速に來つて本會に入會せられよ。

◎詳細なる見本無代進呈

申込所　東京京橋南紺屋町十二　實業之日本社內

帝國實業講習會

# 新らしくできた束髪



卯年にちなんで兎といふ英語 Rabbit の頭文字Rの形をとったものです

日本女子美髪學校講師　金原もん子作


此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# ビクトリヤ月經帶



## 特點

△ゴム製品にして、伸縮自在、柔軟にして、御運動に自由、
△ビクトリヤを着用せば、如何なる、はげしき御運動にも、お召物汚れず、
△目方カサ極く僅少にして、携帯に便利、丈夫にして久しき使用に堪へ、洗濯は最も手輕、
△吸收物は、脫脂綿を取換へるのみなれば、手數を要せず、
△排血を速かならしめ、衛生的な手當が出來ます、

■歐米婦人は誰彼の別なく、完全なる月經帶を使用して、衛生に注意し、月經時の不便を、手輕に除いて居ります
■昔風の、粗略にして危險なる手當は、野蠻時代の遺風であるから、速かに改めなければならぬとは、一般醫家、敎育家の力說する所であります
■而して、ビクトリヤは、現今に於ける理想的月經帶でありまして、其の構造の巧妙なる、材料の精良なる、體裁の優れたる、價格の低廉なる、凡て御使用者の御滿足を信じます、げにビクトリヤさへあれば、月經時にも平日の如く、不便も、困難も、御心配もなく、愉快に、敏活に活動が出來ます

？ビクトリヤは、何故こんなに安いのでしやうか？それは其の筈です、澤山製造して、たくさん賣れますから、從て直段も安くつきます

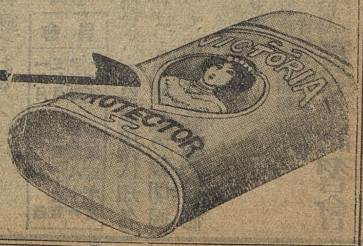
**定價七十錢**

**市内及各地藥店にても取次販賣す**

（藥店にて品切の時は取寄せてくれます）

御注文は前金又は代金引換に限る（領收證は爲替にて前金御送付になれば全國及領土共送料當店持にて送品す

（藥店にてお求めの節は粗惡な類似品がありますから必ず「鐵入ビクトリヤ」と御指名ください）




發賣元

大和商店

東京赤坂傳馬町（赤坂見附堀端）
振替東京一三〇〇二番

光榮

賜宮内省御買上

於衛生博覽會名譽金牌受領

# ホーカー液

東京で一番よく賣れる

美人となる天下唯一の家庭化粧料

## ホーカー液

素顔を美しくし、白粉下によく、白粉のトキ水によく、アレを防ぎキメを細かくし其他種々の効ありて老若男女間にも賞用を辱す。

東京、大阪、三越呉服店を初め到る處の信用ある小間物店雜貨店にて賣行頗る盛なり

本舖 東京馬喰町 堀越嘉太郎商店







此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

特製

## 實用金製帶止

十八金製（紐付）

定價六圓五十錢均一

子扇

菊枝

玉曲菊

雁羽二

子扇菊

此の帶止は實用向として意匠製作共に特に精撰し非常の廉價にて御用命に應じ候間至急御注文賜はり度候

内地送料十二錢 清韓臺灣三十錢

東京神田區鍛冶町

白牡丹中西

電話本局二〇四〇番 振替口座一五二一番





## 美顔術

最新白色法及脱毛術

神田駿河臺袋町 電話本局一七七一 東京美容院

院長 北原十三男

尚藥品部に於院長渡歐の際獨佛英等に於て實地研究に成る左の美顔材料を發賣説明書郵券三錢を要す

最新白色料にきび及しみそばかすの美顔料やせる藥優良なる毛生劑脱毛材料ちゞれ毛くせ毛直し等

△萬戸必備の婦人寶典成る

△家庭における主婦の心得一切を教ふ

△△△ ▽▽▽

下田歌子先生新著

# 家庭

主婦の心得一切とは、一人前の婦人となる女一代の道です。この心得があると、ないとで、其人一生の幸不幸が岐かれる

たとへば＝

△衛生のこと
△掃除のこと
△洗濯のこと
△化粧のこと
△入浴のこと
△育兒のこと
△胎教のこと
△家屋のこと
△睡眠のこと
△食物のこと
△料理のこと
△運動のこと
△衣服のこと
△經濟のこと

以上の如く一人前の女として人に笑はれまいとすれば必ず心得て置かねばならぬ細い實際上の注意を初めとして、更に

△家庭の意義
△家庭の中心としての女性
△歐米諸國の家庭に見る特色
△家庭に行はるべき道德

これ等の四章のもとに、家庭といふものに就いての趣味ある活問題を詳說した無類の好著。

發兌 東京京橋南紺屋町 實業之日本社 振替口座東京三二六番 賣捌 全國各地書店

下田先生一代の快著

嫁入道具に此書無かるべからず。

一家の主婦之を持たぬは一生の恥。

△△△ ▽▽▽

定價壹圓七十錢 ▲郵稅十二錢

▲菊判上製總クロース
▲金文字入新式函入
▲口繪廿餘種入り
▲總紙數六百數十頁

## 働く女



霜の白く降る冷たい朝の町を納豆を賣つて歩く女


此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ



# 日本一の 日本幼年

## 文學士倉橋惣三先生監修

### お母様は可愛いお子様の爲に

熱心なる研究者となり亦公平なる批判者となつて、本誌内容の如何を知らなければなりませぬ。

### ◎可愛いお子様を

美しく善く育てたいと思はれるお母様の爲に深い注意と多くの苦心を重ねて理想的に編輯せられ今度新らたに生れた美しく面白き子供の畫報はこの日本幼年であります。

### ◎可愛いお子様に

お與へになつて玩具やお菓子よりも喜ばれ面白がつて樂しむ間に上品な氣質美しき習慣を養ひ清き心の糧となるのはこの日本幼年であります。

### ◎更に亦お母様に

最も御注意を願ふのは日本幼年は兒童心理學の泰斗文學士倉橋惣三先生の監修で六畫伯の彩筆になり紙數も多く毎號興味ある教育的な附錄を添へる等從來のものに全然超越して居ることです。

### 周到なる注意と熱心なる努力

とに依つて斯の如く完備せる兒童の良友は生れたり先づ最寄の新店に愛を其内容の何を知らなければ

一郵部税十一錢錢 前金 半年分六十三錢 一年分一圓廿錢

東京橋區鍛冶橋外 振替東京一一八一八番 東京社

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 美しい文章習ひ易き書

## 文字が早く上手に書けるお手本

日本女子大學教授 下村千王城先生著・中村春堂先生著 （文章カナ附）

（最新版發賣）習字用筆 四季の手紙の文



◎手紙を巧く書くことは社交上女子にとつて極めて大切な事であります、殊に優しい文章で美しい書いた玉章は如何にも其人が床しう思はれやす、此書は習字と文章とを同時に習ひ得る樣用意せられたるもので文章は多年女子教育に實驗せられたる、下村先生が婦女子に必用なる文例を、美文、雅文、候文の三通りを長短樣々に著はされ之を假名書の名手たる、春堂先生が、最も習い易く、且つ、文例により揮毫を異にし、六ケしい文字には、振り假名を添へ、いろは諸變體同連綿體より、習字の姿勢、筆の持ち方、手紙認め方の心得に至る迄、挿書を付して示しあれば如何な初習の方にも惡筆の方にも本書に就いて、獨習せられなば、忽ち、能書となりて、日々の往復文章をも優しく筆蹟美しく、面白い程手紙が上手に書けるのは此本の一大特色です。

和裝四六形全二冊 日本紙木版手摺 優美裝幀紙箱入 正價六十錢 送本料金八錢 ◎本書の特色は卷紙の寸法に合せて揮毫せしにあり

◎中村春堂先生書 （最新版）

習字兼用 女子日用文



◎三輪田眞佐子先生著 ◎中村春堂先生著 （文章カナ附）

◎和裝全一冊半紙判日本紙木版刷美本價四十錢送料六錢 ○本書は婦女子の日常必要なる文章を選び習ひ易く揮毫し、六ケしい文字に振り假名を添へ卷頭いろは諸變體に原字を添へ習字と手紙に必用なる事柄を附したる女子模範のお手本なり

◎和裝全一冊美書木版二度刷の雅趣ある折帖仕立 正價金八錢 送料八錢

本書は女子の模範とせらるべき手紙の書き方上絵通の他に色紙、短册、巻紙、屏風、掛軸、書簡文章、結納目錄の書き方、墨の摺り方、筆の持ち方、手紙の仕方など一切女子の心得置くべき事柄を網羅せらるべく其に模範の眞書也。

發行元 東京萬神世田橋仲北町 辰文館 電話振替 下谷一六一五八 九五九五番

大評判
忽ち五版

# 草の實

竹久夢二先生の二大著

夢二先生の例の懷しい筆になつた新著繪入小品『草の實』は、先生の前著繪入小唄集『どんたく』の姉妹篇ともいふべきものです。懷しい愛らしい此の一書の中に含まれてゐる、短いもの長いもの、抱きしめてやりたいやうな可愛い詩、柔い手で頰を撫でるやうな氣分の小さい物語など、先生の挿畫と相伴つてきつと皆樣に深い印象を與へるに違ひ有りません。

中版夢二式美本
定價七十錢
郵稅六錢

東京市京橋區南紺屋町
振替口座三二六番
實業之日本社出版部

繪入小唄集
どんたく
十版
中版夢二式美本
定價五十錢
郵稅四錢

▲手紙の下手は一生の損

―では何うしたら上手になれるか？　それには此の本を御覽なさい。――本書は多年女子教育に經驗があり。且つ文筆典雅自在の白水先生が、今度苦心數歲に亘つて著はされたもので、皆さまが之れに依つて受ける利益は何れほどだか解りません。その上御歌所主事阪先生の肉筆になる手紙や端書の習字手本を寫眞石版刷にしたのが添へてあります。なほ二百章ほどの作例が、十二ヶ月に分けられて、一々索引がついてゐますから非常に便利です。―

▼學習院女學部教授
御歌所主事
尾上文學士序
阪正臣先生書

# 婦人の手紙

附錄
阪正臣先生習字手本

■邊渡白水先生著

忽ち三版

▲菊版大冊美本
▲川端畫伯意匠
定價八十錢
▲郵稅八錢

東京京橋南紺屋町
實業之日本社出版部
振替口座三二六番

■鳩磯山村春子先生序著■

好評

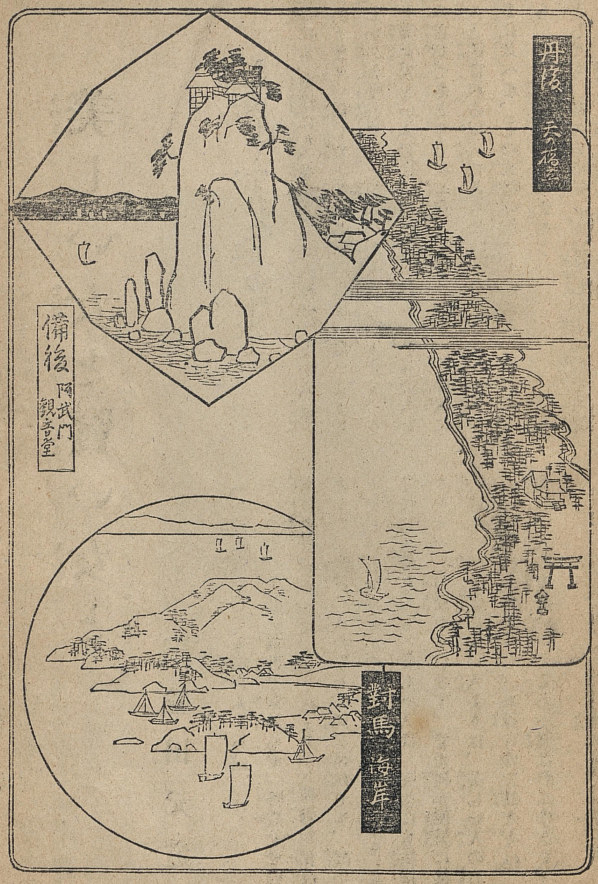
# 家庭の編物

五版

日常必要な編物は、どんなものでも極めて親切丁寧に圖解入で教へて有ます

編み方や針の持方、絲のかけ方一切の事が詳しい圖解入りで說いて有ます

▲菊版頗美本▲定價四十錢▲郵稅八錢




大正四年三月一日發行　婦人世界　第十卷第三號

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 婦人の相談相手

青柳有美新著

## 最新結婚學

結婚せざる男女なし、結婚して後悔せざる男女なし、本書は著者の性慾、人情及び法律の知識を傾注せるものにして結婚を幸福ならしむる秘訣の傳授本也。

△定價五十錢
△郵稅四錢
△四六版上製

青柳有美先生新著

## 女の話

定價金一圓廿錢＝送料八錢＝上製箱入

△婦人よ！之を讀んで汝自身を知れ

内容の一班

△男女學生交際論△處女の定義△女は陽性なり△女學校卒業生への註文△男の好む女△女の悦ぶ男△女は秘密を守るや△結婚と女性研究△男女の喧嘩△女子罵倒論△男子操縱術△男の心を動かす法△女子操縱術△戀は行き當りバッたり也△美人を娶れ△骨肉は何故に婚せぬか△戀と虚榮心との關係△新婚旅行奬勵論△貴婦人よ墮落せよ

内容の一班

△藝者を輕視する勿れ△名古屋藝妓罵倒論△名古屋種が東京に跋扈する因緣△新しい女の正體△挑戰的女子の末路△挑戰的女の自惚△轢死美人論△貞奴と桃介△問題の尾竹紅吉△初戀三人女△僕の細君△佛蘭西女△伊太利女△西班女△獨逸女△英吉利女△亞米利加女△露墺白塞の女△抱月夫人に與ふ△丹いね子に與ふ△幸田お延さん△小野小町は癩病系か

青柳有美新著

## 實驗 無痛安産法

分娩を女の大厄とするに及ばず、無痛にて安産するを得せしむるものは本書なり。調合法及び無痛安産の方法を詳述す。男も女も讀まざる可からず。

△定價五十錢
△郵稅四錢
△四六版上製

發行所　東京麹町區有樂町　實業之世界社　振替貯金口座三千四百三十三番

# 美しい女と賢い女と

文學士　三輪田元道

『お前は何を着ても似合ふから。』といつて、美しい着物を着飾らせ、怪我をせぬやう病氣をせぬやうに、何くれとなく特別の保護をします。世間の人たちも、同じ姉妹でも、醜い方より美しい方を可愛がつて、尊敬もし、羨望もします。學校に入學しても、美しい人は、先生にも生徒にもチヤホヤと可愛がられます。また何か職業に就く場合にも、顏や姿の醜い人よりは、美しい人の方が早くいい役につきますし、お嫁にゆく時などは、勿論美しい人の方がいいところへ貰はれてゆきます。

## ✿氏なくして玉の輿に乘る

日本には昔から『氏なくして玉の輿に乘る』といふ諺があります。これはもとより男子にばかり通用する諺ではなく、寧ろ女子のために出來た諺であります。

いかに卑賤なものの娘でも、容貌さへ美しく生れれば、幼少の時から親兄弟や世間の人たちに可愛がられて、やがては貴人の寵愛を恣にし自分は勿論、緣につながる人人までも、榮耀榮華の月日を送ることができます。『氏なくして玉の輿に乘る』とは、即ちこのことをいつたものですが、一旦玉の輿に乘つてしまふと、世間から妬まれるばかりでなく、とかく世間の同情を惹くやうな行ひのできないのが、美人の常であります。



春風に象牙の撥の光めぐり

## ✿美人の最後は悲慘なもの

西洋では、**クレオパトラ**、支那では、楊貴姫、褒姒、日本では、小野小町、淀君などが美人の代表者となつてをります。これらの美人の前半生は、トントン拍子で幸福に向ひましたが、その幸運が頂點に達しますと、どうも同情されないやうな行ひばかりしてをります。いかに美人でも、世間から同情を失つては、決してその幸運も續くものではありません。榮耀榮華も槿花一朝の夢と消えて、或は人に殺され、或は野に斃れ

て、屍を山野に曝すやうな悲慘な最期を遂げてをります。美人薄命とはこれをいつたものです。

## ✿心か梅の花のやうならば

美しい人の悲慘な末路——美人の薄命といふ事實はいかにも詩趣に富んだものであります。昔から悲劇の主人公は、大抵薄命の美人であります。その他、詩や歌に詠まれてゐる美人も、薄命でなければものにならぬやうな有樣になつてをります。また小說などを讀んでも、どうも美人は薄命なものが多いやうに思はれます。ところが、以前に私の讀んだ或る詩のうちに、

『容貌が美しくとも、心まで梅の花のやうであれば妨げない。』

といふやうな句がありました。その意は、顏や姿ばかりでなく、心も梅の花のやうに美しく凛としてゐさへすれば、梅の花が寒風に絞びるやうに、美人は世の誘惑に打勝つて、幸福な一生を送ることができ終るので、つまり美しいための薄命ではなく、賢くないための薄命なのであります。

## ✿花の顏に燒鏝を當てる

昔一人の美人がありました。年頃になりますと、八方から誘惑が襲つてまゐりました。初めのうちは、間斷なく襲ひ來る誘惑を斥けてをりましたが、遂にはどうしても斥けきれなくなりましたので、

『これといふのも自分の顏が美しいためである。顏さへ醜ければ、こんなに心配することはない。』

といつて、自分で自分の顏に燒鏝を當てましたから、顏は燒けただれて、見る影もない醜婦となりました。それからといふものは、誰も振向いて見てくれるものがなく、一生を淋しく暮らしたといふことです。この婦人も、凛とした氣象が足りなかつたやうに思はれます。飽くまで誘惑を斥けて立派に押通すだけの堅い決心があつたらば、美しい顏をわざわざ醜くせずとも濟んだらうと思ひます。



奈良立ちてよき友多き山家なか

## ✿女賢しうして牛賣り損ふ

かういふ婦人のことを、

『女賢しうして牛賣りそこなふ。』

と申します。一體日本でも、支那でも、昔から女のようといふのです。これは誠に味はふべき句であると思ひます。

## ✿誘惑のうちに育つた美人

前にも申しましたやうに、美しく生れた婦人は、幼ない時から甘やかされて育ちます。甘い世の中に甘やかされて育つた美人は、どうしても凛とした賢い氣象のあらう筈がありません。甘やかされるといふことは誘惑です。誘惑のうちにばかり育つて來た美しい人は、誘惑を誘惑として斥ける氣概がありません。やがて年頃にもなりますと、更に華やかな誘惑が八方から迫つてまゐりますからたまりません。すぐにその誘惑に乘つてしまひます。

氏なくして玉の輿に乘るといふことは、愚かにして誘惑に乘るといふ意味にもなります。かくして世の中が自分の思ふままになつてみますと、遂に我儘が起つて來ます。いはゆる增長して、世間の同情をも失ふやうなことになります。その結果が即ち薄命に

賢いのを嫌ふ風がありました。女の賢いのは立身出世ができぬ、女はただ大人しく美しければよいとしたもので、つまり女の立身出世は精神本位でなく、容貌本位であつたのです。支那の諺に、

『鐵婦は城を傾く。』

といふ諺があります。賢い女は、とかく利口ぶつて差出口をするから、遂には城を傾けるやうな破滅に陷るといふことを申したものでせう。

## ✿加賀の姫君がお金の勘定

加賀の殿様といへば、百萬石長者のお大名として、昔から富裕の評判の高い方でありました。その百萬長者の前田家では、昔お姫様方にお金の勘定の仕方を教へたさうです。その當時は一般に武士は金錢を卑しんで、手も觸れなかつたものです。まして深窓のうちに閉籠つてゐるお姫様などは、お金といふものはどんな形のものかさへ知らないのを自慢にしてゐたことですから、世間の人人は、

『前田家ではお姫様方にお金の勘定を教へるといふことだが、女にそんなことを覺えさせて、一體どうするつもりだらう。』

といつて、天下の一大事でも起つたやうに、非常な評判になつたといふことです。

## ✿今日の世は賢い女を貴ぶ

昔は世の中が一般に悠長でしたから、そんなことでもよかつたかも知れませんが、今日ではさうはまゐりません。幾ら美しくても、お金の勘定を知らないやうでは、とても立身出世はできません。今日では、美しい女よりも賢い女を貴ぶ世の中になりましたから、女に對する教育も、昔とは大に趣きが變つてまゐりました。どんな高貴の方のお姫様でも、數學もやれば手藝もやる、昔は外へなどめツたに出たことのない人が、どんどん一人で旅行もする、運動になるといつて、ブランコや體操を自ら進んでやるといふ風になりました。

從つて、以前のやうになよなよした優しい美しい婦人よりは、氣象のしつかりした、體格の立派な婦人を望むやうになりました。

## ✿賢い女は立身出世する

教育のある賢い婦人は、顏も身體も何處となくキリリとして、氣持よく締まつたところがあります。そして、さういふ人には、自然に具はる威嚴がありますから、人にも敬はれ慕はれます。

昔は、女は美しくさへあれば、氏なくして玉の輿に乘れたものですが、今日では、女は賢くさへあれば、氏なくして玉の輿に乘ることができます。

美人必ずしも薄命といふわけではありません。ただ愚かな女か薄命なのです。容貌の美しい醜いが女の一生を左右するのではなく、賢いか愚かだかが女の一生を左右するのです。

しかし、同じ賢い女でも、醜いよりは美しい方が幸福なのは事實です。近頃西洋で唱へられてゐる人種改良論も、そんなところから起つたのであります。人種改良といふのは、その名の通り、男女の配合によつて、人種の容貌を統一し、同時に性格をも統一して、低能兒などのできないやうにするといふのが目的なのです。

## ✿愚かな母親の子は愚物

人間といふものは、父親と母親と兩方の血を受けて生れるものですが、取分け母親の血統を餘計にひくもので、賢い母親の子供は大抵利口です。學校などで父親の地位名望人格ともに立派な人であるに拘はらず、その子供があまり愚かなので、不思議に思つて調べてみると、大抵母親が賢くないのです。

上流の人人の子供がとかく利口でないといふのは、親が結婚する場合に、人物本位でなく、容貌本位で嫁を迎へて、しかも、その嫁があまり賢くないために賢い子供ができないのです。賢い丈夫な子供を產むには、まづ自分が賢く丈夫でなければなりません。

# 雜巾がけの上手な女學生はない

梅香女塾主　木村貞子

## ✿今の家庭教育は甘過ぎる

私が梅香女塾を開いたのは明治四十年で、今より八九年以前になります。それまで二十年間は華族女學校に教鞭を執つてゐましたから、彼れ是れ三十年足らず女學生に接してをります。その間の長い經驗で、女學生の性質とか家庭教育の樣子とかいふものは、その娘さんを一眼見れば直ぐ分ります。

一般にとは申されませんが、今の家庭教育は少し甘過ぎるやうに思はれます。娘を女學校へ遣るのを大した勤めをさせるやうに思つて、少しでも家事の手傳をさせると、學科の妨げになるといつて遠慮する親が少なくありません。また娘さんの方では、女學校でも卒業すると、えらいことを仕遂げたやうに思つてをります。

私どもが勉強した頃に較べると、今の學問の仕方は殆んど遊び半分といつてもよいくらゐです。私は、もつと家事向きのことをさせて、身體と心とを十分に鍛へておかないと、浮浮した婦人ばかりできるやうになりはしないかと心配してをります。

## ✿華族の姫君まで雜巾がけ

女學生を塾において常に氣をつけてゐると、いろいろの癖がよく分ります。私どもでは、これまで華族の令嬢をお預りしてをりました。只今でも前田伯爵の姫君をお預りしてをります。

すると、虚榮心の強い女學生は、自分の身分を忘れて、華族の姫君と競爭しようとします。私の主義では、華族の姫君でも、他の女學生と同じやうに、洗濯や雜巾掛けなど、凡てのことをさせてをります。

ところが、お家の話が出た時に、何氣なしに、お附きのことなどをいはれることがあります。すると、直ぐそれと競爭するつもりで、『私のお附きも』などと、あとからもないことをいつたり、身代がよくて黃金の茶釜でもあるやうに吹聽する方があります。さういふ人は蔭へ呼んで、よくいひ聞かせますが、次第に道理が分つて、反省するやうになります。

## ✿七歳から父の居間を拭く

初めて私どもへ來る女學生で、滿足に雜巾がけのできるものは殆んどありません。生絞りのビチャビチャの雜巾で、力も入れずに撫でまはしたり、雜巾をよく濯がずに拭いたりしますから、透かして見ると、汚れた跡が縞になつてをります。この一事を見ても親が娘を無暗に大切にして、拭掃除をさせなかつたといふことがよく分ります。

私の父は非常にやかましい人で、女中が四五人もゐたに拘はらず、私の七歳の時から父の居間を拭かせられました。父は、私の拭いた後を透かして見て、チヨツとでも曇があれば幾度でも拭き直させられました。冬の寒い朝などは辛くて涙がこぼれましたが、これがよほど私の精神を鍛へたと思ひます。

私は、上流の家庭のお嬢さんでも、雜巾のかけ方だけは嚴重にしてをります。

## ✿お辭儀して書物を讀ます

私は、塾生が拭掃除を濟まさないうちに髮を結ぶことを禁じてをります。朝起きると、寢衣のままで直ぐ掃除に取掛らせます。

それから、自修の時でも、机に對つたら、必ずお辭儀

をして書物をお讀みなさいといつてをります。すると、それが可笑しいといつて笑ひ出す人がありまず。行儀の亂れた今日の人には、虚禮とても思はれるのでせうが、私は、笑つても何でも構はず、さういふやうに躾けてをります。長いうちには次第に慣れて來て、書物に對する氣分が嚴肅になつて、あまりみだらな書物を讀まないやうになります。頭も足も一緒にしてゐる人がよくあります。たとへば、足袋と書物を同じ風呂敷に包んだり、足袋を机の上に載せておいたりするのを何とも思つてをりません。また平氣で物を跨いだり蹈みつけたりしますが、私は、さういふところを見つけると、嚴しく戒めるやうにしてをります。

## お小言よりも實行が專一

時時私は、塾生の入浴した後で風呂に入ります。これは、その身だしなみを見たいと思ふからで、石鹸の洗落しが丁寧でないと、お湯にキラが浮いてをりますから直ぐ分ります。

多勢のなかには長湯をして、あとの方に迷惑をかけても心づかぬ人があります。さういふ時にはよくいつて聞かせてをります。

塾生のよくない癖を直すには、お小言をいふよりも、實行して見せた方がよいと信じてをります。ものを粗末にする癖を直すのでも、まづ自分の方からお手本を見せるやうにしてをります。

例へば、一寸ばかりのぬき糸でもつないでおき、また靴下の破れた切れはしでもほごしてつないで、蒲團地に縫つたりなどしてをります。

## 屑籠に入れる紙屑がない

絹の小布は紙の裏うちをしてはぎ、木綿の切屑は雑巾の心に使ひます。綿屑は皆草紙へ延ばして蒲團綿の足しにし、手紙殻は手習草紙に用ゐて文面を塗消し、敷紙や唐紙に張ります。狀袋の殻は割いて唐紙や屏風を張るに使ひます。

昨年の夏は紙張物を澤山いたしました。古い手本の裏うち、破れた柳行李の繕ひ、二枚屏風、襖などでございました。私どもでは、屑籠へ入れるものは殆んどないやうに注意してをりますが、多勢ですから眼の屆かぬことがよくあります。それですから、私は、時時屑籠をすつかり調べます。從つて、塾生も屑籠へ入れるものに注意してをります。

## 落葉や枯枝は焚物にする

臺所のものも、心掛け一つで捨てるものは殆んどありません。例へば、大根でも、葉は茹でて、お汁の實にしたり、油揚と一緒に煮たり、大根の皮は乾して三杯酢の材料に使ひます。そして、どうしても食べられないところは、肴の骨などと一緒に煮て、鷄の餌にします。

庭廻りの芥などでも、落葉や枯枝は炭俵と一緒に焚物にします。それに、掃除する時には、庭土を掃き込まぬやうに注意しますから、芥屋が不思議に思ふくらゐ、芥が少なうございます。

かういふやうに細かい始末をすると、時間がかかつて、何も研究する時間がないでせうといはれる方があるかも知れません。しかし、心や手足を忠實に働かせさへすれば、大した時間を費さずにできます。

## 庭掃除の時は跣足になる

私は、夜分は必ず八時半か九時には寢み、朝は五時に起きて、座敷と庭の掃除をいたします。庭は跣足で掃くことにしてをります。時時ウツカリして、跣足のまま門前を掃いてゐて、巡査に、

『お婆さん、跣足はいけませんよ。』

などと注意されることがあります。跣足は衛生上禁物になつてをりますが、私は、體力を鍛へて徹茜などを追拂ふといふ主義であります。

極端なやり方かも知れませんが、あまり神經質になつて、少し勉強でも過ぎると腦が惡くなるといふやうな弱い人間になつても困ると思ひます。

私どもでは、水道の水を使ふのは飲料用だけでございます。塾生が平均十七八人ぐらゐゐても、半期の秘金は三圓で濟みます。掘井戸のある家で不足な水道の水を使ひ過ぎるのは勿體ないと思ひます。塾生は、私が運動がてら井戸綱を手操つて、二つの手桶で風呂水を汲むのを見ては、厭だともいへず、自然出て來て手傳ふやうになります。

### だらしのない婦人の教化

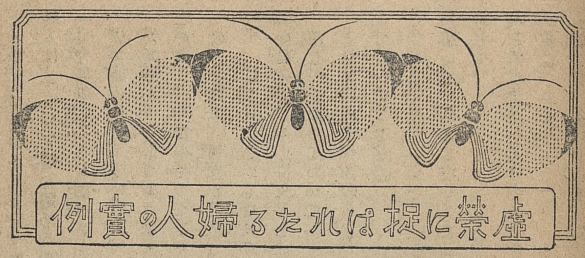
三年前に知人から肥前の中農の娘の世話を頼まれたことがあります。それはしッかりした母親に育てられて、兄が東京へ遊學中、一生懸命に家業を手傳つてゐましたが、學問をしたいといふ望みを絶つことができず、友だちと一緒に無斷で家出しました。そして、長崎でまごついてゐるうちに、ある誘惑に遇つて、忌はしい境遇に陷つたのでございます。私は、その娘を家において樣子を見てゐると、少しも坐ることができず、足を投出してゐる、帶も締められないので、私も途方に暮れてをりました。しかし、根が怜悧な娘でしたから、私や他の塾生の風を見慣れるに從つて、何時となく落付きができ、一年も經たないうちに私の寢衣ぐらゐ縫ひ、茶の湯の眞似ぐらゐできるやうになりました。

### 姪は薪を割るやうになる

私の手は非常に太くなつてをりますが、私の姪たちのもやはり太くなつてをります。姪たちは幼い時に母親に別れ、父親の手で澤山の兄弟と共に成長したゞけでしたから、私の手許へ來た時は、手足も細く、雜巾の掛け方も知りませんでした。

それを私がやかましくいつて教へ込んだので、今では臺所の働き方もよくなり、時時は薪まで割るやうになりました。私はこれを見て、中流の家庭の主婦として、家族が四五人ぐらゐならば、さう高い給金を出して拂底な女中を雇はなくてもやつて行けると思つてをります。






# 年若き女流音樂家

下田歌子

### 某家から呉服店へ貴金屬品の註文

ある日、東京の某大呉服店の注文係は、某家から大きな註文の電話を受取りました。それは、同家の令嬢が或る會に出席されるについて、急に入用だから直ぐ届けてくれるやうにとのことでございましたから、註文係は、その品品を丁寧に包んで早速店の小僧を走らせて、同家へ届けさせました。

小僧は自轉車を馳つて、同家に着きました。玄關に立つて案内を乞はうとすると、内から二十一二の小柄な色の白い女學生上りらしい風をした美しい婦人があわただしく出て來ました。婦人は小僧に向つて、

『お前は××呉服店から御註文の品を持つて來たのではないか。』

と尋ねました。小僧は何心なく、

『さうです。大層お急ぎのやうでございましたから、この通り馳けてまゐりましたので。』

といつて、苦しさうに息をせかせかしてをりました。

婦人は、チヨッと眉を顰めるやうにして、

『只今は御主人もお嬢様もお留守で、午後でなければお歸りにならないさ筈ですから、お歸りまで私がお預かり申しておきませう。御苦勞でした。』

といつて、小僧の持つてゐる品物を受取らうとしました。小僧は、何だか辻褄らしく思ふらしい様子なので、婦人は懐中から受取のやうな書物を出して、

『お嬢様が、もし註文品を持つて來たら、預證を渡して受取つておいておくれと仰しやいました。これは當家の執事様の預證だから、心配しないでおいでなさい。』

と申しました。みると、いかにも執事の名を麗麗しく書いて、印まで捺いてあるので、小僧も安心したらしく、

『それではおいてまゐりますから、何分宜しく願ひます。』

と頼んで、品物を渡して引返しました。

## ✿巧妙な詐欺の手にかかる

小僧が店へ歸つて來て、註文係の番頭にそのことを報告しますと、番頭は、

『それは一杯食はされたのだ。』

と叫びました。

このやうな大店では、こんな詐欺にかかることは珍らしいことではありません。もの馴れた番頭は、小僧の出した受取を見て、もうそれと覺りました。なるほど、考へてみれば、疑はしい點が澤山ございます。第一、註文品を受取つた場所が門の中である、わざわざ門前に出て來て受取るといふのが疑はしい。第二に、執事の預かり證を用意してゐることも、疑ふべき點は十分あります。『これは詐欺だ』と叫んだ番頭は、さすがにその道に苦勞したものといはなければなりません。

番頭は早速某家に電話をかけて、御主人夫婦令嬢は在宅か不在か、今朝ほど、帶留、腕環、指環、その他の貴金屬品を註文されたかどうかと尋ねました。ところが、當家では一切そんな註文はせぬ、主人御夫婦も令嬢も、何處へもお出掛けにならぬ、殊に令嬢はこの二三日御病氣で、會へゆくどころの騒ぎではないといふのが、その返事でありました。

## ✿捕へられたは年若き婦人

呉服店は早速被害の訴へを起しました。店の小僧もその筋の訊問にあひました。それは、一つには、小僧自身にも幾分の疑ひがないではなかつたのです。係の人は、小僧が品物を渡したといふ婦人の一言一行について、小僧の知つてゐることを訊問して、その間に、小僧の様子をよく見ました。しかし、小僧には一點の疑はしいところもありませんでした。



雛子の居に春風ゆらぐ日影かな

その翌日、犯人の嬢疑として引揚げられた婦人があります。早速小僧に引逢はせると、確かにその婦人であると知れました。婦人もはや隱すに由なく、犯罪の動機を落なく自白しました。彼女もまた恐るべき虚榮の魔に捉はれた一人でありました。

## ✿生れながらの音樂の天才

彼女は、雪深い越路の人でありました。北越婦人の特

質を享けて、色の白い、髪の艶やかな、眼に露を帶びた、顔の引締つた中にも淋しみのある、なかなかの美人でした。家は相應の農家で、姉と自分と弟と三人兄弟でありました。名は椿子（假名）と申しました。小學校を卒へた椿子は、兩親の引止むるのを無理に高等女學校に入學しました。それは、彼女が高等の學問を好むからといふわけではありません。學科の方は、彼女にとつては寧ろ苦痛でありました。小學校でも、高等女學校でも、彼女は常に劣等の位置に甘んじなければなりませんでした。唯一の彼女の誇となり、親兄弟が彼女に高等教育を與へた望みの綱となつたのは、その音樂的天才でありました。椿子の聲は、微妙なる旋律をあらはすに最も適當してをりました。彼女が雪降る軒の下で唱ふ一節の唱歌には、雪も舞ふかと思ふほどでした。天才樂人として鄕黨の寵兒でありました。

## ✿音樂研究のために上京す

その頃の東京は、音樂の芽の萠ゑ出した時でありました。帝國ホテル、音樂學校、錦輝館、その他、到るところの公會場では、若き婦人の天才たちは、稱賛と渇仰の中心となつてをりました。椿子は、田舍の女學生でありながら、東京の音樂界に最も注意してをりました。新聞などに先輩音樂家の賛賞の記事が載りますと、彼女は少なからず胸の血を躍らして、自分もどうかして音樂界の明星と仰がれたいと祈つてゐたのであります。

しかし、女學校の教育は、彼女には苦痛でありました。音樂以外の學科は、彼女にとつて何の興味もなく、また何うしてもこれを覺える氣になれません。女學校の三年級で落第したのを機會にして、學校をやめて、無理から父母に願つて、音樂研究のために上京したのでございます。

## ✿自分の天才を頼み過ぎた

椿子は、上京すると、神田のある町にゐる叔父の家に寄宿して、ある私立の音樂練習所に通ふことになりました。女學校卒業の上ならば勿論音樂學校に入られるのですけれども、三年で廢學した悲しさには、その正式の科程を踏むことができませんでした。

しかし、椿子は、苦しい女學校生活から、好きな音樂研究に入つたことを、籠から放たれた小鳥が春の空に歌ふほどに喜びました。それに、これまでは、陰氣な、雲の低い、光線の鈍い北の國に育つたものが、急に、明るい、活潑な、賑やかな、活活した都の人となつて、心も空に浮き立つたのも、年頃の娘としてはまた無理もないことでございませう。



雪解して春にくれけり都鳥

この音樂教習所でも、椿子の技藝はやはり天才として崇拜されました。もしもそれが立派な根柢のある信念の上に立つてゐるものならば、これを機會として、奔馬の如くに樂壇に突進しなければならないのであります。ところが、彼女は、ただ譯もなく自己の音樂的才能を信じてをりました。勉めずして進むものと思ひました。これが彼女の破滅のもとであります。

## ✿一歩一歩と墮落の淵へ

俄に繁華な贅澤な街に入つて來た彼女は、一年二年と經つうちに、何時となく墮落の階を一歩一歩と

降つてゆきました。彼女の音樂所には、可なり多くの男生も女生もをりましたが、何れもまじめに研究するものは、澤山はありませんでした。

藝術を生命とするものの通有せる一種の空氣に包まれて、彼女も次第に放縱の生活に狎れて來ました。浮いた名を流すことも三四度はありました。そのために學校にもをられず、果は叔父の家をも出てしまひ、鄕里よりの學資も絶たれ、怪しげな家の一間に、怪しげな男と同棲することとなりました。

それでも、椿子の藝術に對する自尊心は少しも失はれません。今にもあれ、一度公會の席に出て得意の美聲を弄したならば、忽ち音樂界の女王と立てられることは十分てあると信じきつてをりました。彼女の良心は、自分の性格や行爲を批判するには、もはや光を失つてをりました。

『藝術家は必ずしも道德家てはない。』

とは、ただ一つ彼女の自ら慰むる辯解の言葉でありました。

## ✿慈善音樂會に出演の所望

ところが、ある時のこと、彼女は、あるところから、慈善音樂會の一員として獨唱をすることを望まれました。慈善音樂會——いかにその名の美しいことでありませう。彼女は、貴婦人紳士たちの居ならんだ、花電燈の眩ゆい大會堂を眼に浮べて、久しく鈍つた神經を亢奮させました。それと同時に、彼女は、いかなる服裝をしてその會場にあらはるべきかに思ひ至つて、更に悄然として絶望の淵に陷りました。犯罪の行はれたのは、音樂會當日の朝でありました。

首尾よく目的物を手に入れた椿子は、果して燦爛たる寶石を身に纏うて會場に立つてありませうか。彼女は、それほど大膽ではありません。彼女は、小僧から品物を受取ると、一散に某家の裏門から逃げ出しました。彼女は夢中になつて走りました。走れば走るほど、後から澤山の人が追ひかけて來るやうに思はれて、息も切れるほど走つて、漸くのことてから今日までの閱歷までが一度に眼の前にあらはれて、今日の行爲に對する攻め道具となりました。

これて何うして公會の席に立てませうぞ。どうして天性の美聲を發せられませうぞ。彼女は、悶悶のうちに居ても立つてもゐられないやうになりました。親切な主婦は、常に變つた樣子に驚いて、醫師を勸め、藥を與へました。彼女は、少し氣分が惡いばかりだといつて床に就きました。——その夜は悔と悶えのうちに泣き明かしました。

彼女が逃れ難い運命に陷つたのは、その翌日てありました。彼女の自白によれば、某家の名を借りて貴重品を取寄せておき、翌朝、令孃のお氣に召さぬからといつて、呉服店に渡すといふ淺はかな考てあつたといふことてあります。

思へば實に悲慘とも憫然とも申しやうのない愚かなことてはありませんか。返す返すも恐るべく戒しむべきは虛榮の惡魔であります。

我が家に歸りました。

## ✿後悔したは既に遲かつた

戶を締めきつて我が居間に坐りますと、宿の主婦が茶を持つて來て、いろいろの世間話をいたします。その眼つきが、彼女の眼には、疑ひの光を自分に投げかけてゐるやうに思はれます。主婦が去ると初めてホッとして、非常な疲れを覺えると共に、神經が幾分鎭まつて來ました。今度は、小僧に別れてから今までのことが、繪にかいたやうに眼の前にみえて來ます。そして、その惡事の主人公が自分であるといふことに氣がつくと、限りもない情なさと悲しさとに襲はれて、終にはどうなるだらうと考へないわけにはまゐりません。

冷たい涙が止め度もなく流れました。

室外に足音でもすると、彼女は、躍りあがらむばかりに驚きました。更ても白い顏が、悔恨と悲痛との涙に洗はれて、蒼白くなりました。自分が國を出て

# 母の遺言で葬式を簡略にする

明治製糖株式會社社長　小川鉾吉

記者曰く、明治製糖株式會社社長小川鉾吉氏は非常に親孝行な方で、御老母の遺言を堅く守つて、吉凶ともにお祭騒ぎのやうな派手に流れることを避けてをられます。三人の御令嬢をお嫁けになつた時など、極く睦懇にしてをられた方さへ、何時結婚式を濟ませられたか知らなかつたといふくらゐです。次は記者の問に對して氏のお答へ下すつた大要です。

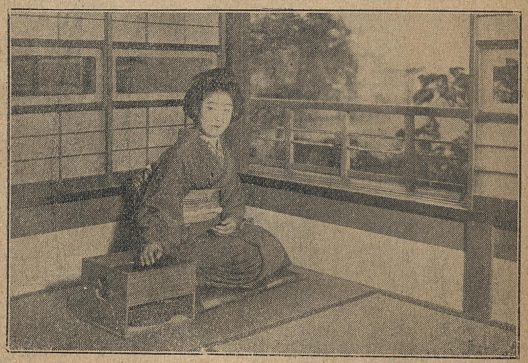
## ✿葬花も一つの人氣引立策

私も、以前は、お祭騒ぎのやうな派手なことをして喜んでをりました。私が三菱に勤めて大阪にゐる頃、共同運輸會社といふのがあつて、三菱と非常に激烈な競爭をしてをりました。廣瀬藤田と共に大阪の三大實業家といはれた五代友厚といふ方が亡くなられました。その時、私は、大勢の人でなければ擔ぐことのできない大きな花を送つて、三菱の被衣を着せた人足をつけてやりました。それぐらゐ派手にすれば三菱のよい廣告になるばかりか、共同運輸會社の人をしてアッといはせることができると思つてしたので、自分では決してよいことと思つたわけではありません。人氣を引立てる一つの方法として、止むを得ず、そんな無謀なことをしたのです。

## ✿岩倉公の頃は眞面目なりき

それから、上方地方で葬式の時に大きな花を送つたり、大きな籠へ生鳥を入れて放鳥として送つたりすることが流行するやうになりました。それより以前、岩倉公が歿くなられた頃にも、さういふことが盛んに行はれてをりましたが、その頃は非常に眞面目で、お祭騒ぎのやうなところはありませんでした。

ところが、五代さんが亡くなれた時、私が前に述べたやうな大きな花を送つてからといふものは、お祭騒ぎのやうなことが流行りはじめて、大きな花を送ることを自慢するやうになつて來ました。私はそれを恥かしいことに思つて、どうかして罪滅しをしなければならぬと思ひつきました。



氷き日や日ねもす人を待ちわびぬ

## ✿家庭内のことは私事なり

元來一家のうちに起つて來ることは、吉いにつけ凶いにつけ、他人の關係することではない、個人の一私事に過ぎぬ。それだから、吉凶の何れに係はらず、親戚の人人と、極く親しくしてゐる友人と、日日出入する人だけに知らせておけば、他の人に知らす必要はないといふことを考へました。そしてその主義を實地に行つて見ようと決

心いたしました。

もう一つは、私の母の遺言に依ります。私の父は私の六歳の時、母が丁度三十歳の時に亡くなりました。母は一人で水仕事をしながら、私を嚴重に育てゝくれたので、普通の母親とは趣が違つてをります。私の今日あるのは、全く母の薫陶のお蔭であると信じてをります。

## ✿チヨツとした話が遺言

私が毎朝家を出る時には、

『これから行つてまゐります。』

といつて、母に挨拶するのが例でありました。すると、母は、私がよく禮服を着て出るのを見て、

『今日はどこへ行くのですか。』

と聞きます。私が、

『これから葬式に行くのです。』

と、自分の行先きを話しますと、母は重ねて、

『お前はその亡くなつた人と懇意なのか。』

と聞きます。私は、死んだ人は知らないが、その人の父とか母とか兄弟とかを知つてゐると話します。母はそれを聞いて驚いたやうに、

『それは大變だ。私の死んだ時には、私の知らない人のところへは知らせてくれるな。何事も質素に、極く内輪にしておくれ。』

といはれました。これはチヨツとした家庭の話でしたが、それが母の遺言となつたのです。

## ✿母の死亡の通知が十四通

それですから、明治三十八年に母が亡くなつた時には、母が在世の砌り使つてゐた下婢、親戚、俥夫など、母の知つてゐる人だけ、丁度十四通死亡の通知を出したきり、新聞へも廣告を出さず、一切の香奠をもお斷りいたしました。

私の家内は、明治二十七年、私が神戸に在勤の折に亡くなりました。その時にも生花をお斷りいたしましたところが、蠟燭、線香、菓子などの贈物が澤山來て、閉口しました。それで、母の時はさういふ贈物をお斷りしたいと思つたのです。

式もなるべく簡單にしたいと思つて、途中行列を廢しました。この頃はよく行列を廢する方がありますが、その頃はそんなことをする人はありませんでした。亡骸は前に谷中の齋場へ送つておいて、式は午後二時から始めました。

## ✿簡單も程度問題との小言

柩には、私と子供と、他に一二人の人が蹤いて行つたので、會葬者のうちには、

『あまりあつけない。』

といふ人がありました。

しかし、さうしておいただけでは母の死を知らずにゐる人があつては困ると思つて、會葬して下さいました方へのお禮をかねて、葬式が濟んでから新聞へ廣告を出しました。それを見て、

『なぜ知らせて下さらなかつたのですか。』

といふ人が澤山ありました。私のもとの主人である岩崎男爵などもその一人で、

『簡單にするのも程度問題ぢやないか。』

私も會葬したかつたのに、惜しいことをした。』

と、小言をいはれました。

## ✿一週間に娘二人を嫁ける

娘を三人嫁げた時も、できるだけ質素にいたしましたが、式だけは相當な順序を履みました。一番上の娘と二番目の娘との緣談は同時に纏まりましたから、私は、同じ日の同じ時刻に式をあげようといひました。しかし、先方の人は、

『それではあまり簡略過ぎはしないか。』

といはれたので、一番目の娘が嫁いでから一週間目に、二番目の娘を嫁づけました。

しかし、この時も、凡てのことを非常に簡略にして、極く懇意な人の外には通知しませんでしたから、娘の結婚を知らぬ人が多うございました。

# 亡夫の志を繼いで子供の教育

一記者

### ✿亡夫は常陸丸で戰死す

東京府下千駄ヶ谷町に狹いながらもサッパリした一戸を構へて、十六歳になる長男を成城學校に、十四歳になる二男を東京麹町番町小學校に通はせて、親子三人水入らずの家庭を作つてゐる森本龜子といふ婦人がありまする。

亡夫は森本乙市といつて、神田の中學校などに教鞭を執つてゐたことのある人、日露戰爭の時に召集されて、歩兵曹長として戰地へ赴かれましたが、まだ敵地へ參らぬ前、乘込んでゐた運送船常陸丸が敵の浦鹽艦隊に擊沈され、空しく玄海灘の藻屑と消え果てゝしまつたのです。

その時、龜子は二十七歳、家には氣むづかしい姑と、五歳と三歳とになる二人の子供の外に、お腹に一人の子供が宿つてをりました。

### ✿夫の歿後牛乳配達となる

家には財産といふほどのものはありません。良人がなくなつた時、一時賜金が一千圓近くありましたが、姑がよくない人に唆されて、それをすつかり使つてしまひました。その上、中風症に罹つて、龜子に餘計な苦勞をかけるやうになりました。

しかし、忍耐力に富んだ龜子は、徒にわが身の薄倖を嘆いてばかりはをりません。婦人としては容易にできさうもない荒仕事を始めました。

そのうちに、胎内にゐた子供が生れました。女の子でしたが、貰ひ受けたいといふ人があるまゝに、それを養女にやり、自分は朝早くから出かけて牛乳配達をし、その上、晝は近所の人たちから賴まれた洗濯をし、夜は賃仕事をして稼ぎました。

### ✿燒芋を食べて餓を凌ぐ

さうして手に入れた金も悉く姑の藥代と消えて、萬事につけ足らぬ勝ちでありました。ある時などは御飯がないので、自分一人はソッとお芋などを食べて、食事を濟ましたことも珍らしくありませんでした。



森本龜子自刀自とその愛兒

それでも姑にはできるだけの看護を盡しました。毎年下賜される遺族扶助料に、自分で稼いで來るのを加へて、細い生計を立ててをりました。

姑がなくなつてからはよほど手數が省けましたが、二人の子供が次第に大きくなつてまゐりますので、龜子は、

『自分の食べるものは減らしても構はぬ。子供の教育だけは十分にしてやらう。』

と、健氣にも決心しました。

そして二人とも亡夫の志を繼いで軍人にしようと思ひ立ちました。

## ✿亡夫の靈魂の神秘な働き

大正元年八月十七日、今度新たに元帥に榮進された長谷川陸軍大將の養嗣子、當時近衛歩兵第一聯隊附であつた猪三郎氏が、龜子の境遇に同情され、亡夫の舊同僚で、今は將校になつてをられる方々と共に盡力して、第一聯隊の將校集會所と酒保とで菓子を賣つてもよいといふ許可を得させました。

ところが、今より八年前、丁度常陸丸沈沒追弔會があつた時、第一聯隊で遺族に參列證を渡したことがあります。龜子がそれを受取に行つたのと、酒保の門鑑を受取に行つたのと同じ時刻だつたさうです。

龜子は、今でも、それは亡夫の靈魂が自分や子供たちに對して神秘な働きをしたのだと信じてをります。

## ✿十年ぶりで初めて一息

龜子は、かやうにして日日の生活の手づきを亡夫に緣故のある兵營に求めました。時によつて多少品物の賣行きに變りはありますが、とにかく極まつた收入ができましたので、龜子は十年ぶりでヤツと息をつくことができました。

聯隊が全部演習に出掛ける時の外は、毎日聯隊へ行つて一日の賣高を豫想したり、連絡をつけてある親類の菓子屋へ電話をかけて、入用だけの品物を持つて來させたりなどしてをります。菓子の種類も二十六七種ほどあります。そのうちで最も評判のよいのは、甘納豆と、魚煎餅といふ燒餅ださうです。

## ✿翌日賣る品物を調査する

酒保といへば、一般の兵士の便宜を計つて、兵營内で雜貨や飮食物を賣るところで、飮食物は皆そこで食べてしまふやうになつてをります。將校集會所といふのは、將校の倶樂部と、雜貨や菓子類の賣店とを兼ねてをります。

これは聯隊によつて多少の相違がありますが、近衞第一聯隊では、酒保の方に軍曹一人、上等兵一人、兵卒の當番が一人をりますし、將校集會所には軍曹一人に兵卒一人がゐて、品物の賣渡しをしてをります。

それですから、商人が直接軍人に接することはありませんが、明日はどんな品物が要るかといふことを研究しておかなければなりません。

## ✿二時半頃が最も忙がしい

それに、將校集會所の方はどうしても手が足りません。晝食後將校たちが澤山來て、

『おい、菓子をおくれ。』

『僕は煙草だ。』

『手拭を一筋くれないか。』

と申します。かやうに忙がしくなれば、默つて棄てておくわけにはまゐりません。兵卒のお手傳ひをして、それぞれ袋へ入れてあげたり、紐でからげてあげたりしなければなりません。



春風や陶器に吉き俳句など

一方の酒保の方も、練兵の濟んだ二時半頃が一番忙がしい時でございます。飮食品でも、五六人の商人がいろいろの品物を納めてをります。湯豆腐に日本酒、饂飩、しる粉、堅パンといふ風に、上戸向のものも下戸向のものも揃つてをります。

## ✿初年兵の洗濯に同情する

そのうちには龜子の納めてゐる甘納豆もあつて、その一袋で半日の勞苦を忘れる

初年兵もあります。一番眞行きのよいのは、二月三月四月頃で、出入の商人も一番澤山儲かります。

五月には、第一期檢閲といつて、學校でいへば第一學期の試驗のやうなものがあります。そのために、練兵などが非常に嚴重に行はれるので、兵隊さんたちのお腹が盛に減ります。その補充をするために、皆酒保へ來るから、なかなか繁昌です。

今では待遇も非常によくなつて、割合に自由で、辛いことも少ないのですが、それでも初年兵が汗に濡れたシヤツやズボン下を馴れぬ手附で洗つてゐるのをみると、氣の毒でならないといひます。

## 曹長未亡人として尊敬

しかし、以前のやうに、霜柱の立つ中に起つて、深い堀井戸から水を汲みあげるのではありません。近衞聯隊では水道の水を使ふので、昔に比べるとズツと樂だといふことです。

龜子の身の上は若い兵卒まで知つてゐるので、故曹長の未亡人として尊敬してをります。澤山の兵卒ですから、龜子の方では名前も記憶せず、顏も見覺えてをりませんが、兵卒の方では皆よく知つてをります。

ある日のこと、龜子がある店で買物をしてゐると、向ふから會釋した若い男子があります。龜子の方では顏を見ただけでは分らないので、

『失禮ですが、貴方はどなた樣でございますか。』

と尋ねると、その人は近衞聯隊から除隊したばかりの兵卒でありました。その人は前から龜子に感服してゐたといつて、店の人にその履歷を詳しく話して聞かせたといふ話でございます。

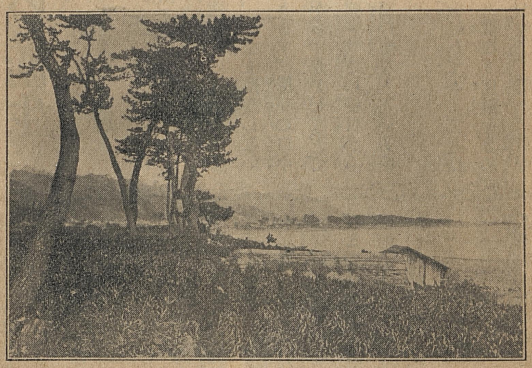
## 浴衣の柄の見立を賴まる

聯隊の中には營內居住といつて、まだ獨身の若い士官たちが聯隊の部屋を借りて住んでをります。その人數は二三十人もあるさうですが、見習士官が來る時分にはその倍ぐらゐになるさうです。

さういふ人たちは皆龜子を賴りにしてをります。そして、從卒にできない買物、例へば、浴衣の柄を見立てて買はうとするやうな場合には、

『小母さん、僕の浴衣を一枚買つて來て下さいませんか。』

などと賴みます。その他、非番や休暇の時、和服で營門から出られる營內居住の快活な中尉や少尉などは、帽子を買つて來てくれろの、やれ下駄のと、厄介をかけない人は殆んどありません。龜子は誰の用でも親切に足してやります。



人通りなくなりて日永き關屋かな

## もう十年間だけ續けたい

それですから、手づから菓子の運搬をしなくても、相當に用事があります。家は、子供が二人とも學校へ行つてゐる間は留守になりますので、隣近所の情ある人たちに留守を賴んで、自分では一日中聯隊の方にをります。

龜子はいつも聯隊の人たちに感謝して、愉快さうに働いてをります。そして、

『私にこれぞといふ落度がなければ、もう十年間續けて賣らして頂きたい。子供が二人とも一人前の人間になつて、安心ができるやうになるまで、一生懸命に勤めて行きたいと思つてをります。これが私の何よりのお願ひでございます。』

といつてをりますが、十年くらゐは續くでせう。

# 健康な子供の衛生

醫學博士　加藤照麿

## ✿哺乳兒の口を洗ふ注意

前號に引續いて、健康な小兒の衛生上の注意を申上げます。嬰兒の口中を洗ふのは、あまり度度しない方がよいといふことになつてをります。嬰兒の口中の粘膜は極く柔らかいものですから、**ガアゼ**などで亂暴に拭くと、口中に疵がつきます。この疵口から病氣の入るのは當前のことで、鵞口瘡などといふ病氣が忽ち取りつきます。

というて、乳を飲む口の中を不潔にしておくことはできませんから、毎日一度なり二度なり度數をきめて、一旦煮立てた水を脱脂綿につけて、靜かに口中を拭いてやらなければなりません。

## ✿から乳首は危險なもの

近頃は嬰兒をはじめ、三つ四つになる子供までが、よく**ゴム**の乳首をしやぶつてゐるのを見かけます。あれは誠によくないことですから、幼い時から癖をつけないやうにしたいものです。

殊に、玩具屋にある粗製の**ゴム**乳首を嘲へさしておくなどは、言語同斷だと思ひます。それをまた無教育の子守に預けておくために、子守のしやぶつたのを子供の口に入れるなどいふこともよくあります。子守ばかりではない、母親自身が、疊の上に落ちて**ゴミ**のついてゐる乳首を拾ひあげて、それをまた自分で舐めてやるなどといふ不心得千萬なことをしてをります。

## ✿口は一番汚ないところ

凡そ何が汚ないというて、醫者の眼からみて口中ほど不潔なものはありません。肛門は汚ないといふけれど、口中はそれより一層汚ないものです。その汚ない口で舐めた乳首を口に入れられる嬰兒の迷惑は實にどれほどだか知れません。

『口は禍の門』といふことは、ただ多辯を戒めた教とのみ思はずに、衛生上からみても口は病毒の入口であるといふことを、決して忘れてはなりません。口中を大切にする上は、齒も十分に保護しなければなりません。齒は瀬戸物のやうなものですから、熱いものを食べたあとで、すぐ冷たいものを飲むことが一番齒を痛めます。

## ✿入浴のために病毒に感染

日本人は混浴を嫌ひませんから、安價に入浴もでき、皮膚の衛生はなかなか進歩してをります。しかし、湯屋に子供を連れてゆくには、隨分注意しないと、結膜炎などに罹ることがよくあります。それといふのは、垢だらけの汚ない湯で、口を洗つたり眼を洗つたりするためですから、注意しなければなりません。

めいめいの家庭で湯を使はせる時でも、決して油斷をしてはなりません。中にも産湯は殊に注意して、膿などについた病毒が臍緒から入るやうなことのないやうに、心を用ゐなければなりません。

獨逸のある地方では、臍緒が乾るまではお湯を使はせずに、嬰兒の身體をただ拭くだけにしておきます。これも少し極端なやり方ですが、そのくらゐに心を用ゐることは必要でありませう。

## ✿身體を洗ふには石鹸

入浴は、皮膚に溜つた垢を洗ひ落して、皮膚の働きをよくさせる功能があります。皮膚は、肺臟と同じく、炭酸を吐き出して酸素を吸ふ働きをしてをります。その働きを十分にさせて、よい血液を增させようとするには、皮膚に溜つた脂肪を洗ひ落して、新陳代謝を盛んにしなければなりません。

脂肪を洗ひ落すには石鹸が一番ようございます。石鹸も、別に高價な上等品を使ふ必要はありません。



脂肪さへ落ちればよいのですから、混り氣のないものなら何の石鹸でも差支ありません。

やうにして足を冷さぬやうにします。

## ✿着物の地質は何がよいか

人が着物を着るのは、身體の温度を外へ逃がさないためです。絹布は肌にあたると冷たくていけません。毛織物や木綿類は寒さを防ぐには一番適當です。殊に毛織物は冬の着物には一番結構なものです。**フランネル**の繻袢を着たり、襦袢の上に**フランネル**を重ねると暖かいのは、その譯ですから、是非子供には**フランネル**を下に着せてやりたいものです。**イタリヤネル**は**フランネル**に似てゐますが、木綿ですから暖かいとは申されません。

**フランネル**の次には**メリンス**も結構です。しかし、暖かく暖かくといつて、あまり厚着をさせるのはよくありません。なほ嬰兒のうちは、足の方を**フランネル**の袋のやうなもので包んでやります。生れた一週間ぐらゐは湯**タンポ**を入れますが、その後は前の

## ✿子供の部屋を暖める注意

子供のゐるところは、東向きか南向きの、風通しのいい部屋がよろしい。一室に火鉢を一つぐらゐおいて、そのために室内の空氣が乾燥しないやうに、火鉢の上へ藥罐なり水の入つた金盥なりをのせておきます。呼吸機病にかかつた子供の病室ならば、室内の温度を五十度なり六十度なりに定めておく必要もありますが、健康な子供にはそれほどの必要もありますまい。室を炭火で暖めるには、火は必ず別の室で熾して運び込まないといけません。炭の熾る時には有毒な炭酸瓦斯が出るからです。

なほ炭酸瓦斯を外へ出すために、窓をあけたり、障子の上の方の紙を一通り張らずにおく家がよくありますが、もともと炭酸瓦斯は空氣よりズッと重いものですから、これは誠に意味のないことです。

記者曰く、前號九十一頁に適の數三十六枚とあるは三十一枚の誤でした。

脂肪さへ落ちればよいのですから、混り氣のないものなら何の石鹸でも差支ありません。

やうにして足を冷さぬやうにします。

## 着物の地質は何がよいか

人が着物を着るのは、身體の温度を外へ逃がさないためです。絹布は肌にあたると冷たくていけません。毛織物や木綿類は寒さを防ぐには一番適當です。殊に毛織物は冬の着物には一番結構なものです。**フランネル**の繻袢を着たり、襦袢の上に**フランネル**を重ねると暖かいのは、その譯ですから、是非子供には**フランネル**を下に着せてやりたいものです。**イタリヤネル**は**フランネル**に似てゐますが、木綿ですから暖かいとは申されません。

**フランネル**の次には**メリンス**も結構です。しかし、暖かく暖かくといって、あまり厚着をさせるのはよくありません。なほ嬰兒のうちは、足の方を**フランネル**の袋のやうなもので包んでやります。生れた一週間ぐらゐは湯**タンポ**を入れますが、その後は前の

## 子供の部屋を暖める注意

子供のゐるところは、東向きか南向きの、風通しのいい部屋がよろしい。一室に火鉢を一つぐらゐおいて、そのために室内の空氣が乾燥しないやうに、火鉢の上へ藥罐なり水の入つた金盥なりをのせておきます。呼吸機病にかかつた子供の病室ならば、室内の温度を五十度なり六十度なりに定めておく必要もありますが、健康な子供にはそれほどの必要もありますまい。室を炭火で暖めるには、火は必ず別の室で熾して運び込まないといけません。炭の熾る時には有毒な炭酸瓦斯が出るからです。なほ炭酸瓦斯を外へ出すために、窓をあけたり、障子の上の方の紙を一通り張らずにおく家がよくありますが、もともと炭酸瓦斯は空氣よりズッと重いものですから、これは餘に意味のないことです。

記者曰く、前號九十一頁に廣の數三十六枚とあるは三十一枚の誤でした。



## 如何にせば お化粧の目的を達する事が出來るか？

この問題は以前から皆様の間に研究せられつゝあつた處ですが第一化粧品が不完全であつた爲め其の目的を達せらるゝ事が出來なかつたのですが、今回發明せられた

高貴御料 **白色美顔水** は從來未だ一度も試みられなかつた不思議な或る製造法を以て新發見の美容素に成る特殊の白粉を溶かし込むだもので舊來の水白粉や化粧液のやうな單純なものとは全然趣きを異にし如何な肌の方にもピッタリと欲り色を白くキメを細かにし化粧の美を助ける事は實に驚くばかりであります。又

高貴御料 **美顔白粉** は在來の白粉のやうにつけて態とらしくなく、生れつき色の白いやうな白さに極く自然的につき、其の質には一種の美しいツヤを有た白粉で、原料には費用を吝まず、普通白粉には滅多に使ふ事の出來ぬ高貴なものを使つてありますから効能の著しき事は一點お疑ひの餘地ありません。

### 趣味ある問題

△御在宅の時　△お外出の時

一、生れつき色の白いやうな白さにつき他人に羨まれる美貌となるに 美顔白粉 はどの點が他品に勝れて居るか？

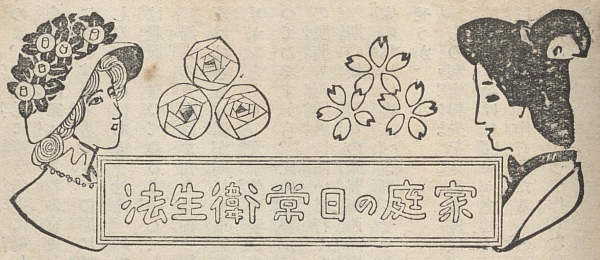
二、お化粧厭ひの方、又は素顔を一層美しく見せたい方、お化粧を自然に遊したいと言ふ方に用ひて 白色美顔水 はどの點が他品に勝れて居るか？

右實地御使ひになつたまゝを御遠慮なく御批評下され（東京市麹町區飯田町六ノ二二桃谷順天館宛）御送り下された方には適當と認むる分御百名に限り抽籤を以て右二品の中お望でした。

東京　桃谷順天館　大阪






家庭の日常衛生法

# 衣服問題

村井弦齋

## ☆日本服と西洋服

燕の尾の洋服に、白襟紋付裾模様、シルクハットと丸髷と一堂に會し、海老茶袴と振袖と花間月下を徘徊する今の世の光景は、將來如何に成行くでせうか。

從來の日本服は漸漸に跡を絶つて、國民全體の衣服が純然たる西洋風に化して了ふでせうか。それとも西洋風は一時の流行に過ぎずして、日本服が日本人の本領となるでありませうか。或は和洋折衷の新意匠が現はれて、特種なる服裝が將來に起るでせうか。是れは今日に於て最も研究を要すべき一大問題でありませう。

日本人の服裝は先づ男子の側に於て多く西洋風の感化を受けて居ります。結髪が變じて散髪となり、麻上下が變じてフロックコートや燕尾服となつた

のは、既に已に遠き過去に屬してゐます。今日の社會は、海陸軍人や各省の官吏を始め、民間の各事業に從事する者も、公の席に於ては殆ど洋服を着用しないものはありません。即ち洋服は公服、日本服は私服となつてゐると申してもよい程です。

婦人の方面はまだそれ程の變遷を受けて居りませんけれども、髷が變じて束髪となり、手絡が變じてリボンとなり、女學生の袴が海老茶袴や半洋服になつてゐますから、此の形勢が進歩したら、婦人全體の服裝も西洋風に傾いて行くかも知れません。

斯の如く男女の服裝が西洋風に傾いて行くのは國家の爲めに喜ぶべき事でせうか。將た憂ふべき事でせうか。

その利害得失を定めるには、先づ衣服に對する目的を調べなければなりません。元來衣服は如何なる目的によつて作られたるものでありませうか。また如何なる目的によつて作らなければならんものでせうか。

私の考へには衣服に三大要素があると思ひます。その一つは實用の目的です。即ち身體の動作に便利なる事を主とするのです。その二は美觀の目的です。即ち自分が觀ても他人が觀ても體裁好く美しいと思はしめる事です。その三は衛生の目的です。即ち寒暑に對して身體を禦ぎ、常に溫暖宜しきを得る事です。

西洋人の服裝は實用の目的から發達したものと云はなければなりません。西洋人は素と遊牧人種で、動的趣味を持つてゐますから、常にその身體の動作の輕捷ならん事を欲します。それが爲めにその身體は働く爲めに都合好く出來てゐて、美觀よりも衛生よりも、何よりも先に實用といふ事を主としたものです。

先年故人になつた田口鼎軒君といふ學者は西洋人の文明が下等社會の進歩したものであつて、西洋人の服裝は我邦の下等社會に行はれる半纏股引の進歩したものだと說き出しましたが、いかにも眞相を得た說見した處では、働くのに便利好く出來て居ります。

日本人の甲冑は何人も知る如く、廣い袖があつたり、その上に陣羽織を着たり、兜にも大きな前立物があつたり、背中に指物を負つたりして、働くには隨分不便らしく思はれます。その代り體裁は頗る優美て、天晴れなる武者振といふ事を重んじたものです。隨て戰爭も亦た優美で、矢を番へながら、互に歌を詠んだり、胸金物を叩いて名乘を揚げたりして、殺伐なる戰爭を美術的に美化して居ります。日本人の國民性として斯る間にも美といふ觀念を忘れませんから、甲冑でさへ美觀を目的として作られてゐるのです。

然らば西洋の實用的なる甲冑を着た武人と、日本の美觀的なる甲冑を着た武人と、同じ勇力の者が相鬪つたら、勝敗は果して孰れに歸しませうか。

是れはちよいと考へると實用的の方が勝つてあらうと思はれませうけれども、一層深く考へて見ると決してさうは參りません。日露戰爭の例に照らして



て、西洋服は全く股引がズボンとなり、半纏が上衣となつた如きものに違ひありません。

して見ると、日本の職人社會はその材料に木綿と毛織物の相違こそありますけれども、昔しより西洋風の服裝を用ひてゐたと申しても差支がありません。

西洋人の服裝は働く爲めに出來て居りますから、いかにも活潑に敏捷に見えて所謂る動的趣味に適合して居ります。

之に反して日本人の服裝は、靜的趣味を帶びてゐて、優美といふ點に發達したものです。是れは日本人が元來土着の人種であり、且つ先天的に美術心の多い爲め、何事も先づ美といふ方面に向つて行く國民性のある爲めでせう。

試みに人間の最も活動を要する戰爭に就て觀察して見ても、西洋人の古代の甲冑は矢張り今の洋服に似てゐて、手や足を別別に嚴めしく保護してありますす。勿論多少の裝飾は施してありますけれども、一

も、動的の趣味の西洋人が却てその動作は遲鈍で、靜的趣味の日本人が却て敏捷でありました。日本人の武士は不便なる甲冑を着てゐるだけに、平生その不便に打勝つだけの努力を養つて居りますから、却て身體が活潑に働けるのでせう。

昔源平一の谷の合戰に、源九郎義經は鵯越の峻嶽から全軍を平家の陣處へ駈け落さんとして、先づ試みに二頭の馬を追落しました。一頭の馬には鞍を置いて源氏に擬へ、一頭の馬には鞍を置かずして平家に擬へ、一鞭加へて數千丈の麓へ落してやると、平家の馬は途中で仆れ、源氏の馬は越中の前司盛俊が假屋の背後へ下り着いて高く嘶いた。此に於て源家の吉兆と喜んで、三千騎が鵯越を下つたといふ事があります。裸馬は身輕であるから無事に下りさうなものであるのに、却て油斷があつて途中で仆れ、鞍を置いた馬は鞍といふ荷のある爲め、心に油斷が無いので無事に下りたのでせう。斯る理合を考へて源氏の馬に鞍を置かせたのは義經の智略抜群なる所以だと歷史家も褒めて居ります。

動的人種必ずしも敏捷ならず、靜的人種必ずしも遲鈍ならずといふ消息は斯る間に知ることが出來ませう。

それにモー一つ日本武士と西洋武士とその氣象に相違した點があります。西洋古代の武士は實用的なる甲冑を着てゐる上に、必ず左の手には圓形の楯を持つてゐます。即ち一方の手で敵の鋒を禦ぎ、一方の手で長槍を使つたものです。日本武士は古來殆ど楯といふものを用ひません。楯といふ名は存してゐても、古來我邦の勇士は一方の手に楯を持つて敵と闘つたやうな卑怯者は決して一人もありません。日本人の戰術は古來より攻撃防禦です。即ち敵を攻撃するのが己れを防禦する所以です。近來の戰術では攻撃防禦が最良の防禦法となつて居りますから、日本武士の戰闘法は自然と此の眞理に適合してゐます。是等も我邦の國民性が西洋人より一頭地を抜いてゐる所以でありませう。

日本の甲冑を着た古代の日本武士と、西洋の甲冑を着た古代の西洋武士と闘つたら、公平に觀察して、日本武士に勝目の多い事を斷言して憚りません。戰爭に用ふる甲冑でさへ、實用よりも美觀を主としたる程ですから、平生の衣服は多くの場合に、美觀や體裁を重んじてあります。昔の禮服たる烏帽子直垂素袍大紋のやうな男子の服裝を觀ても、或は十二一重に緋の袴といふ婦人の服裝を見ても、皆な優美閑雅にして靜的趣味を帶びてゐますが、何う考へても動的の實用主義から發達したものとは思はれません。武家の禮服に用ひられた裃目肩衣麻上下の類ても、皆な外觀を主としたもので、進退動作には隨分不便なものでせう。

禮服は格別の場合ですから多少の不便を忍び得べしとするも、通常家居の服も廣い袖といふものがあり、兩足を一つの裾に包んでありますから、敏捷の動作には適してゐません。昔の武士がイザ立合といふ時には、襷を十字にあやどつて袖を縛り、袴の股立を高く取つて、足の動作を便にしたものです。今ても婦人が臺所で働く時には必ず襷を掛けますが、是には日本服が靜的趣味に適したる衣服であつて、活動する時には特別な裝置を施さなければならんといふ證據です。

衣服は元來家屋の構造にも適合しなければならんものですから、日本人の衣服は日本風の家屋に應じたもので、日本人の家屋は靜的趣味になつて居ります。即ち疊の上に坐るといふ世界無類の良習慣があるので、日本服は自然と此の坐るといふ事に準じて作られたものです。

坐るのは靜であり、立つのは動である、日本人は靜を常として動を變としてゐます。西洋人は動を常として靜を變としてゐます。日本服が靜に適し、西洋服が動に適するも是れが爲めでせう。

## ✿洋服の害

日本人が美觀の點に向つて發達し、西洋服が實用

の點に向つて發達した事は國民性の相違に由る譯ですが、衛生の點から東西二樣の服裝を觀察したら、如何なる結果を生じませうか。

古代の人は今の世の人程に衛生といふ事を知りませんから、その服裝は自然の發達に委せて來たものですけれども、今日の衛生思想より之を評しましたらば、西洋人の服裝は衛生の點に於て遙に日本人の服裝より劣ると言はなければなりません。

西洋の服裝は男でも女でも身體の各部を緊縮して血液の流通を妨げます。婦人服の**コルセット**の如きは最もその弊害の大なるものですが、男子の服としても、**カラー**で頸部の筋肉を緊め、**シヤツ**の釦で胸部の筋肉を緊め、**ヅボン**吊りて肩を緊め、加ふるに身體の各部を嚴密に包んでありますから、皮膚の抵抗力を弱めます。

此の事は私の一家言ではありません。心ある識者並に醫師等が前より主張した說で、現に我が醫學界の恩人たりし**ベルツ**博士の如きも日本人の服裝が西洋化する事を慨歎せられ、

「日本人が歐洲人と同樣の衣服を着るのは却て日本人固有の丈夫な皮膚を弱めるやうなものだ、皮膚が弱くなれば風邪を引く、風邪を引くと百病の基を釀す事になる。昔風の江戸ッ子が霜月や師走の寒空にも、素肌に着物を一枚引掛けて、懷の中を右から左へ風がヒユーヒユー吹き通るやうにしてゐるのは健康上最も良い事である。」

と斯う言はれたさうです。又博士は日本の農夫が素裸體になつて日光に身體を曝露しながら勞働するのを見て、

「これは皮膚を丈夫にし、身體を健康にする上に大層良い習慣である。」

と頻に賞讚せられたさうです。此等の說は**ベルツ**博士の門人たる田代醫學博士が本年一月一日發行の實業之日本紙上に、

洋服常用者に是非とも勸め度き日光浴强健法

と題して說かれた中に出て居ります。又**ベルツ**博士の說に、

「日本人が活動する上に於て、止むを得ず西洋服を着るならば、少くとも一日に一遍づつ、裸體になつて冷水浴を行へ。」

と言はれたさうです。田代博士も歐洲に於ける日光浴療法の有効なる事を說かれた末に、「在宅中は成るべく和服にせよ」と題して、

「兎に角千年間も日光や空氣に對して絶緣されてゐた白晳人の體が、近來日光浴や空氣浴に依つて偉大な功力を得て居るのを見ても、吾人は或る程度迄吾吾固有の昔の風俗を殘して、成るべく身體を日光や空氣に露出せしめるやうにし度いものである。必要上洋裝をする者に於ては、特に朝夕冷水浴を實行し、二十四時間の內、家に居る間だけでも、成るべく日本服になり、身體にソヨソヨ風を通して、皮膚を健全にして貰ひ度いものである。唯無暗に歐洲の風俗に心醉して、必要も無いのに四六時中洋裝で、皮膚を見せないのを得意とするが如きは、日光浴の點からも外氣浴の點からも面白くない事である。」

と西洋服の不衛生なる事を說かれてゐます。西洋人の服裝は獨りその衣服が不衛生なるのみならず、頭に冠る帽子も足に穿く靴も、甚だ不衛生を極めたものです。

帽子を冠ると頭の髮が拔けて、若い內から頭が禿げます。それに頭の皮膚が弱くなつて、强い日光に射られると忽ち頭が痛くなつて來る。寒い風に當たると、直に風邪を引くといふ事になります。

と云つて今日の男子は帽子無しで往來に出る譯に參りませんから、今更帽子を廢す譯にも行きませんけれども、私自身も平生帽子を用ひて、此の弊害を實見した一人ですから、何とかして日本人の帽子を衛生的に改良し度いものと思つて居ります。帽子は男子に於て、既にその弊害を實見してゐますから、日本婦人には再びその失敗に陷らせ度くないものです。日本婦人は島田髷や丸髷といふ美術的なる結髮

法を用ひて、自分の頭を保護してゐるのに、西洋服を着て帽子を冠ることになつたら、髮の毛が拔けて禿になること、宛も今の西洋婦人のやうになりませう。

頭の帽子に弊害あると同樣に、足の靴も不衛生なものです。西洋人のやうに朝から晩まで靴を穿いてゐて、夜中寢寢の時でなければ脫がないでゐると、足の指は緊縮されて血液の流通が惡くなり、足の皮膚は弱くなつて、外氣に當ると直ぐに風邪を引きます。西洋人は足の先の濡れる事を非常に厭ふもので、もしも水中に足を入れると、直ぐに乾いた布で嚴重に拭きます。殊に指の間に水氣が殘ると**リウマチス**を起すと云つて、指の股を大切に拭きます。是れは必竟足の皮膚が弱くなつてゐるからです。

先年の日露戰爭に日本軍が鴨綠江を渡渉して敵の陣地に攻入つた時、その光景を目擊してゐた諸外國の觀戰武官は、日本の兵士が川を渡つた後、必ず一旦休息して靴を脫ぎ、**ズボン**を外して、足の先から脚部をよく拭いた上、衣服の水を絞つて、再び武裝するだらうと思つてゐましたのに、日本兵は衣服の濡れたのも關はず、水に浸した靴の儘でドシドシ前進しました。之を見て外國武官は日本兵の身體の强健なるのを歎賞したといふ事ですが、西洋人の眼から見たら、定めし驚いた事でせう。

平生靴を穿いて足を弱くしてゐると、斯ういふ場合には必ず病氣を起します。それに狹少な靴で足の指を緊めますから、指の發達が充分でありません。日本人の足の指先を一本毎に自由に動かす事が出來ますけれども、西洋人の足の指は日本人の如く一本宛自由に動かす事が出來ません。小指なぞは殆ど外の指に密着してゐます。

之に反して日本人は平生下駄や草履を穿いてゐますし、家に居れば跣足か或は足袋の儘で足の發育を妨げませんから、足は完全に發達して居ります。日本人は足を濡らしたから風邪を引くの、指の股に水が附いてゐるとリウマチスに罹るのといふやうな事は減多にありません。元來**リウマチス**と云ふ病氣は西洋人に多くして、比較的に日本人に寡いのは皮膚の强弱が原因をしてゐるのでせう。

日本人と西洋人と相撲を取つて見ると、西洋人は直ぐに腰が碎けて倒れ易い事は、西洋人に接した人はよく知つてゐますが、是れは西洋人が腹部の力に乏しくして腰の安定が惡いのと、一つには足の先で蹈張ると云ふ事が出來ない爲めです。先頃も力士の黑瀨川が私の宅へ遊びに參りました時、相撲を取る時の足の蹈張方を實演して見せましたが、平生前方を向いてゐる足が、敵と取組む時は左右とも横に開いて身體とは直角の位置になります。是れでないと直ぐに横へ押し倒されるさうです。それで足の關節の柔軟なることは、足の先を自由に前後へ動かしますが、斯ういふ藝當は到底西洋人の學び得る所でありません。平生靴ばかり穿いてゐると、足の關節も、足の指の關節も殆ど固着して了つて、自由の運動を妨げられます。兎に角靴を一日穿き通してゐる事は衞生上甚だ不利のものと云はざるを得ません。

## ✿日本服の利

西洋風の衣服も有害であり、帽子も有害であり、靴も有害であるとすると、西洋の服裝は頭の先から足の先まで、衞生上に利益の寡いものと云はざるを得ません。西洋人は先祖代代その習慣に養はれて來ましたから、それ程の弊害を自覺しませんし、且つ家庭でも道路でも周圍の事物がその服裝に適合してゐますし、その上西洋人は他の方面から衞生に注意しますから、服裝の不衞生もそれ程に目立たないのですけれども、近來に至つて日光浴や外氣浴の効驗が知れて來ましたから、西洋人も將來に於てはその服裝を衞生的に改良する必要が生じませう。

之に反して日本人の服裝は**ベルツ**博士等の說かれた如く、皮膚を强健にする功能があるので、至極衞生的なものです。且つ身體の筋肉が衣服内で自由に動く事も出來ますから、血液の流通も良い上に、關

節の運動も自在に出來ます。

尤も日本人の服裝と雖も完全無缺に衛生的のものとは云はれません。日本婦人が、細い紐を腹部に幾筋も卷き付けて、それを堅く緊縮せしめるのは、腹部に一の溝帶を生じて、衛生上に害があると云はれますから、是等は改良しなければなりますまいが、日本婦人が廣い帶を締めて、腹部や腰部を保護する習慣は最も衛生的のものでせう。

西洋の婦人服は男子の服裝よりも一層有害です。**コルセット**で胸部と腹部を緊めるのは內臟の發育を妨げますし、細い袖で手や腕を密封する爲めに、西洋の婦人服を纏ふと、多くの人が腋臭を生じます。そのかはり西洋の服裝は働くには便利て、山野を跋跡するとか、戶外の遊戲を爲す時には、その輕快なる事、日本服の遠く及ぶ所でありません。

之を要するに、西洋服は實用の點に於て優れてゐますし、日本服は美觀と衛生の點に於て秀でて居ります。今日の日本人は果して孰れを擇んだら良いでせうか。

公の禮服が西洋風となつてゐますし、官衙でも會社でも、西洋風の椅子に腰掛けて執務する今日ですから、西洋服を廢して日本服に改める事は出來ませんし、强ひてそれを改めるには及びません。何となれば西洋服は實用的で、執務するには最も便利の良いものですから、執務中は西洋服の方が適當して居ります。

然し家に歸つてまで洋服を着てゐるに及びません。洋服は執務中止むを得ず着用するものだと心得て、家に歸つたならば、速に日本服と改める方が衛生法に適ひます。昔の士人でも、御殿へ出仕する時は肩衣や袴を着けたり、長袴を穿いたりしましたが、家に歸つてからは平服に改めます。それと同じやうに洋服を執務服と定めて、執務以外の時は日本服を着用するのが今日に適した方法でせう。强ひて洋服を着用する必要の無い人は、好んで不衛生的なる洋服を纏ふに及びますまい。

然しながら服裝問題と連關して家屋問題を決定するの必要が起ります。日本風の疊や障子を用ふる家屋が果して衛生的であるか、西洋風の椅子や寢臺を使ふ家屋が住宅に適するかといふ問題は、他日項を改めて委しく述べる所存ですが、概略を申すと、私は日本風の家屋が西洋風の家屋よりも衛生的のもので、日本人の安居に適してゐると思ひます。勿論西洋家屋の長所をも採用して改良を加へる點はありますけれども、疊に坐するといふ習慣は、最も衛生的のものと信じて居ります。

日本人が日本風の家屋に住み、日本風の疊に坐する以上は、平生の服裝も日本服を以て日本人の本領となし、洋服は執務上已むを得ずして着るものと思はなければなりません。

然しながら今日の有樣は、日本服を着てゐても、毛織物の襯衣や股引を用ひ、帽子も冠り、靴も穿き、手袋を箝め、外套を纏ひ、殆ど身體の各部分に西洋風を採用して居ります。婦人も亦た**マーフ**を抱へ、**ショール**を掛け、次第に西洋化して行きますから、將來は必ず西洋風と日本風と混化して、一種の新しい服裝の出現する時代もありませう。

それと同樣に西洋では婦人間に日本の「**キモノ**」風なるものが流行し、佛國や米國では、日本婦人の服裝を學んで、一種の新しい婦人服も流行するさうですから、西洋の服裝も追追日本風に傾いて參ります。是れは一時の好奇心より生じた事かも知れませんけれども、兎に角衣服といふものは常に新奇を趁つて變遷するものですから、同じく日本服でも數百年前と今日とは殆ど形狀を一變してゐますし、西洋でも古代と今代とは大なる相違があります。（續く）

## ✿春蒔の草花

春蒔の草花は、三月末から四月中ごろに蒔けば、春の末から夏へかけて美しい花を開きます。園藝は婦人には最もよい樂しみですから、この春からおはじめになつては如何です。

# 婦人に内職を周旋する産業協會

一記者

## ✿活動的の婦人畠千代子

東京麴町區飯田町六丁目一番地に、帝國婦人産業協會といふ會が開かれました。發起人は畠千代子といふ人で、賛助員には、山脇房子先生、嘉悦孝子先生をはじめ、名流の貴婦人方や名士の方が澤山お名をつらねていらつしやいます。

この會の主意は、世の婦人たちに高尚な内職を無報酬で周旋して、無駄に費す時間を最も有益に過すやうにしたいといふのであります。會主の畠千代子といふ方は、誠に世に得難い意志の強い、活動的な婦人でございます。

## ✿七つの時に早く父を失ふ

畠さんの故郷は、昔噺の大江山で名高い丹波の國でございます。お父さんは、畠さんの七つの時に、まだ幼い子供二人と若いお母さんとを遺して、亡き人の數に入られました。

お母さんは健氣な人で、まだうら若い身でありながら、土地の小學校の裁縫の教師をして、二人の子供の成長を樂しみに、獨身生活をしてをりました。畠さんは、小學校を卒業してから、牛込で裁縫學校を經營してゐる伯母さんを頼つて上京して、その頃は麴町にあつた成女學校に入學し、伯母さんのお世話で首尾よく女學校を卒業しました。

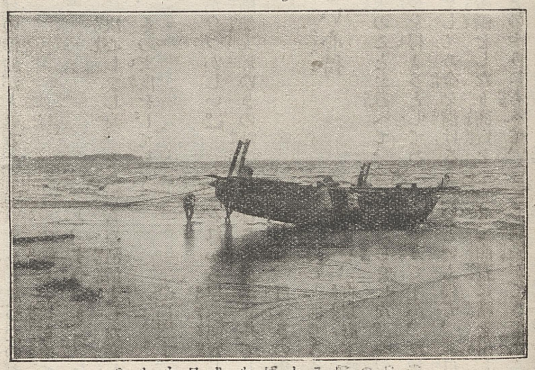
## ✿二人分の仕事を引受ける

成女學校を卒業すると直ぐ、但馬の或る小學校に勤めることになつて、懐かしい故郷を眼の前に見ながら、急ぎのこととて立寄ることもできず赴任しました。

その小學校に一年ばかり教へてゐるうちに、郷里ではだんだん家計が不如意になつて、どうしても畠さんが歸郷しなければならぬことになりました。

畠さんは、家へ歸つてすつかり家事を整理してから、神戸の小學校に勤めることになりましたが、何しろ女一人の手で親子三人が食べてゆくのですから、普通の働き方ではとても生活をしてゆくことができません。そこで、學校では二人分の仕事を受持つて、一人で二人分働きました。

それに、學校から歸つて夕飯を濟ませると、直ぐ夜學に出掛け、歸ると明日の下調べなどをして、夜もゆつくりと休むことができませんでした。



浦島の歸るとばかり日永かな

## ✿支那行きを思ひ立ちて中止

しかし、物價がだんだん高くなつて來るので、二人分の月給でも一家を支へてゆくことができません。どうしようかと思案に暮れてゐる時に、ある人から、

『支那へ行つて小學校の先生をすれば、母子三人ぐらゐはゆつくり暮してゆくだけの俸給がとれる。』

といふことを聞きましたので、

『日本にゐて生活に困るよりは。』

と考へて、早速支那へ行くことに決心しました。それから渡清教員養生所に入つて、その支度をしてをりましたが、また或る人が、

『支那にゆくと貞操を保つことがむづかしい。』

といふことを聞きましたので、斷然支那ゆきの計畫を中止してしまひました。

## 活活とした樂しい心持

その時、しみじみと來し方ゆく末のことを考へて、

『自分たちは今生活に困つてお金を得ようとしてゐるのであるから、正當なことをしてお金を儲けるには職業を選ぶ必要はない。勞働をしたり商賣をしたりすることを恥かしいことのやうに考へて、敎師などをして體裁を飾つてゐたから衣食にも困つたのである。つまり世間體を飾つてお金を儲けようと思つたのが間違ひであつた。これからはこの美しい袴を捨てて、前垂を締めて働きませう。』

と、すつかり考へを改めてしまひました。この時ぐらゐ活活とした樂しい心持はなかつたさうです。

## 母子三人でミルクホオル

それから早速商賣をはじめました。最初はじめたのはミルクホオルでした。何分にも手馴れないことですから、目拔きの場所へ出て他の人人と競爭をするといふことはできませんので、地味に手堅くやるつもりで、東京府下駒場の農科大學の前に家を借りて開業しました。一家三人ともお世辭などは頓といへない方ですが、ただ正直に親切にさへしてゐればよいといふので、お母さんと弟さんと三人力をあはせて商賣に精を出しました。始終來る學生のうちにお馴染ができてから、着物の綻びを縫つてやつたり、汚れた着物を着てゐると脫がせて洗濯をしてやつたりして、全く親身のやうになつて世話をしました。

## 前垂がけで玉子の行商

このことが評判になつて、商賣も繁昌して來、生活も樂になりましたが、畠さんは、少しも心をゆるめず、休みなく働きました。毎日朝早く、近所の百姓家から生み立ての玉子を買ひ集めて來て、市内に配達して廻ります。その時は手織木綿の前垂を締めて、玉子を入れた大きな籠を脊負つて、普通の物賣と同じやうな服裝で歩きました。

その後、いろいろの事情から、ミルクホオルを止めて文房具店をはじめました。この店では今でも盛んに營業をし



夢さめて山をみてゐる日永かな

てゐるといふことです。

## 外國に輸出する編みもの

店の方も日增しに繁昌して來て、先づ安心してもいいことになりましたので、何か世の中のためになることをしたいと、いろいろ考へた末、思ひついたのは、婦人に職業を與へる會、即ち、婦人産業協會でございます。この會は、高尙な、やさしい、誰にでもできる仕事を探して、全國の婦人に働く道を敎へるのが目的でございます。

今現にしてゐるのは、外國に送るレエス糸の細工で、希望の人には無代でその方

法を教へて、覺えた人に仕事をさせて工賃を拂ふのです。毛糸で編物をするのと同じですから、婦人の手内職としては誠にふさはしいものです。

## 外國の金をとるは嬉しい

畠さんは、次ぎのやうなお話をなさいました。

『協會にはいろいろの計畫がございます。會員の望みによつては、語學の稽古をしましたり、婦人のために有益な講演會を開いて、知名の方方の有益なお話を伺つたり、地方の名産を買ひ入れて會員に頒つたり、いろいろ會員のために便利なことを考へてをりますが、まだ始めて間もないことですから、今のところでは、**レエス**細工ばかりいたしてをります。これは、私の方から原料を差上げて、チャンと編んでいただきまして、一枚に幾らといふ工賃を拂ふのです。

**このレエス**細工は悉く外國へまはるのですから、つまり工賃や手數料は外國からとることになります。一人で働く分は僅かですけれども、四百人の會員が働いて外國からお金をとるといふことは、誠に嬉しいことでもあり、また國家の經濟から申しましても誠に結構なことと存じます。』

## 會員は地方の人が多い

『この仕事は年年注文が多くなりますので、もう二三年も經ちましたら、有望な事業になることと存じます。行く行くは内務省でも力を藉してやると仰しやつて下さいます。

近頃は機械で**レエス**を編む細工場が澤山ありますが、西洋人は日本人の手で拵へたものを珍重するさうで、外國では隨分高く賣れると申します。會員は地方の人が多うございます。どういふわけですか、東京に住んでゐる人は少なうございますし、たまにあつても、世間を憚つて名前を隱して來るといふ風です。これは、三十歳前後の、一家の主婦らしい人でございます。』

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 肺病の初期二期三期

素人にても判斷出來る

健康の人、不幸一度肺結核に罹つたなら如何なる容體となるかと云ふに元來此病に罹り易き人は多く胸が狹く前方へ屈み勝ちである、初め何の事もなく身體が漸次痩せ體重も減る顏面其他皮膚は蒼白く頰部は特に紅潮さす此時は感冒易く而して神經衰弱症に陷り多少性質に變調を來す、例へば萬事愉快を感じ平生の趣味も薄らぎ何となく疲倦く起居情う一つ仕事が長く出來ず喜怒哀樂の情緒變化し易く體溫は午後三四時頃暫時上昇氣分聊か惡きも別に發熱を感ずる程でもなく夕刻は平溫に復して再び氣分快くなり翌日午後に至れば又前日の如くなる朝夕輕咳を持續する事あり食慾の減退心臟の亢進胸部の痛み肩の甚だしく凝る等皆第一期の症候と見做すべきである第二期は一期の症狀が增進したもので初めて結核の本症を現はし朝より夕にかけて體溫昇り朝は氣分稍快きも咳嗽繁く痰出て血の混る事もあり夜は盜汗をかき腕は細り目は窪みて濕むが如く頰はコケ額とコメカミの邊に靑脈著しく現はれ吸氣少く呼氣多く氣吸困難を來し四肢力なく前屈にて步行し一見哀れなる相貌となり突然喀血する事もある第三期は此容體が一層甚しく增進したもの所謂末期と稱され不治と見放され失望落膽するが常であるが空しく悲觀するは愚の致り治療の方法さへ可良なれば必ず恢復するのである、左るを徒らに迷信的賣藥や價値なき藥物に倚頼して遂に貴重なる生命を誤る者多きは歎はしい次第である現に本病を恢復せしめし實例に徵し如何にして豫防し治癒すべきかを同病救濟の爲めに詳しく治療上大切なる▲患者夜間の注意▲喀血に處すべき方法▲風雨と室内の注意▲空氣日光の關係▲體量減退を防ぐ方法▲食慾不進身體衰弱を防ぐ方法等其他詳細敎示すべければ患者は勿論右容體に疑はしき人は速かにハガキにて照會せられ健康の幸福を得よ（東京麴町區飯田町二の一如山堂藥院）

# 實業之日本

**能率增進運動**

▲余の海外で實見せる能率增進の三法　實業之日本社長　增田義一

▲歐米事業界を革新せる能率增進法……記者

▲最大能率を發揮すべき最良法……文學士　鈴木久藏

▲中學校幹事室より青年諸君に呈す　早稻田中學校幹事　增子喜一郎

▲獨逸皇帝と元龜天正の英雄　工學博士　大竹多氣

▲職務に當る時の意氣込　法學博士　農學博士　新渡戸稻造

**二月十五日號**

## 新渡戸博士每號執筆

▲僅か百圓の渡航費から年收八百圓になる南洋の職業　工學博士　三山喜三郎

▲空氣中から人造肥料が無盡藏に取れる　工學士　田窪揚城

▲萬難を排して初一念を貫徹した大豪商……記者

▲勤と儉との穿き違へ……安田善次郎

**實力皷吹**

▲此實力ある者は知らぬ他鄕にも成功す　王子製紙會社專務　藤原銀次郎

▲此底力ある者が最後の勝利者　鐘淵紡績會社々長　日比谷平左衛門

價郵壹稅卅壹拾錢壹五錢　東京南京紺屋橋町　實業之日本社　振替口座　前年金參郵圓稅貳共拾壹錢

# 日本少年

△劍の裡に成人す……元帥大將子爵　川村景明

**三月號**

伯林大學生の決鬪を見る　社長　增田義一

◎ローマ凱旋門の話……工學博士　伊東忠太

◎はまぐりの話……理學博士　岸上鎌吉

◎賴朝が旗上げ迄……學習院教授　大森金五郎

×冒險小說　半島の怪城廓（長篇）……江見水蔭

吹雪を犯して　那須噴火口へ　芳水生

×探偵小說　間諜團（長篇）……三津木春影

定價拾錢　郵稅壹錢

□立志小說　いざさらば　有本芳水

□滑稽小說　化けの皮　松山思水

□少年小說　啞の鸚鵡　相馬御風

□少年小說　西鄕大先生と少年　倉富砂邱

□津輕海峽　芳水

□お化けの手柄　思水

□兎吉物語　龍子

□中學校入學試驗室

□新懸賞

少年訓話　嘘を言ふてはいけぬ　第一師團長　陸軍中將　一戸兵衛

△青島攻圍　巫山の奪取戰……攻圍軍　陸軍少將　堀內文次郎

發行所　東京市京橋區南紺屋町十二番地　實業之日本社　振替口座三二六番

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 大日本實修女學會



會長 從三位 下田歌子

## 新學期開講記念の爲入會金全免の特典あり

世の中の進歩するに隨ひ女子も小學校を卒業しただけであんしんしては居られなくなりました、將來の女子はどうしても高等女學校程度の學力が必要であります、併し女子の學校生活には弊害もありますし、また女學校に入れない事情のある人も多くありますので、さういふ方々のために本邦女子教育の泰斗下田歌子先生御指導の下に茲に完全な實修女學講義錄を發行して居ります。

本會講義錄每號
東伏見宮妃殿下
竹田宮妃殿下
北白川宮妃殿下
臺覽の榮を賜ふ

父母の膝下で、家事の傍、しかも僅かな學費を以て高等女學校程度の學藝を得やうと思はれるお方は本會に御入會なさい。本會は高等女學校令に準據し、高等女學校の學科を平易く懇切に教授するのは勿論、特に女子に大切な裁縫、料理、造花、編物等は普通の女學校では學び得られぬ程詳しく叮嚀に講述します。今は新學期の初めで最も入學に便利であります。

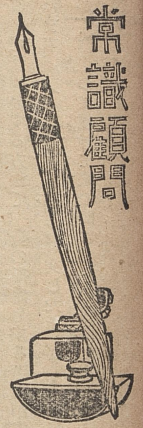
東京神田駿河臺
御茶の水電車通り
大日本實修女學會
電話 三〇〇二番
三〇〇四番
三七〇七番
振替東京四二〇〇番

講義見本つき會則御申込次第無料進呈す

常識顧問

# 銀行と預金

一記者



### ✿富を安全に利殖する銀行

銀行は私どもの金錢を取扱ふ一つの機關です。私どもが幾ら金を貯へてゐても、これを利殖するには相當の手數がかかりますし、また法律上の知識がなければなりません。ところが、銀行といふものは、如何に自分の家業が忙がしからうが、法律上の知識がなからうが、ただ金を預け入れておけば、安全にそれを利殖してくれるといふ便利があります。

銀行のうちには、特別の法律によつて設けられたもの、即ち、勸業銀行、農工銀行、興業銀行のやうなものと、一般の銀行との二種類があります。

一般の銀行のうちにも、合名とか合資とかいふやうに、小數の資本家が集まつて拵へてゐるものと、株式のやうに、澤山の株主が集まつてできてゐるものと二つの種類があります。

しかし、預金者の方からいへば、銀行の性質などはどうでもよいのです。金を預けた時に利息が澤山ついて、その銀行が何時までも破綻せずにさへをればよいのです。

### ✿金を預けるに四通りあり

金を預けるには普通次ぎのやうに四通りあります。

一、定期預金。これは、金を預ける時に、その期限を六ケ月とか一ケ年とかいふやうに定めるので、その期限が來ないうちは、金を引出すことができないやうになつてをります。

二、特別當座預金または小口當座預金。銀行から通帳を貰つておいて、金を預けようと思ふ時は、通帳と金とを持つて行けば、何時でも預けることができ、また預金者の方で金のいる時には、通帳を持つて行つて、何時でも引出すことのできるものです。

## 一番便利なのは當座預金

三、當座預金。これはホンの當座だけ預けるのです。金を預けると同時に通帳と小切手帳とを取つておきます。そして、百圓でも五十圓でも或る人に金を拂ふ場合に、小切手にその金額を記入して、金圓の代りにそれを受取人に渡します。小切手を受取つた人は、それを銀行へ持つて行つて、記入してあるだけの金額を銀行から受取るのです。これは現金を扱はないで仕拂をする方法で、金の勘定をする手數が省けます。例へば三越へ衣類を注文したとします。それができ上つて届けて來た時に、その代價を小切手に記入して渡せば、銀行でその金を拂ひます。しかし、銀行へ預けた金がなくなれば、小切手は役に立たなくなります。

四、貯蓄預金。これは極く僅かな金、例へば毎日十錢とか毎月三圓とかいふやうに預けるのです。澤山ある銀行のうちに、特に貯蓄銀行といふものを設けてあるのはそのためで、これだけは銀行の方から大藏省へ保證金を納めてをります。保證金は資本金の四分の一で、小金を持つてゐる人を保護する目的で設立されてをります。少ない金は僅か一錢ぐらゐからでも預かります。

## 利息の高いのは定期預金

利息の一番高いのは定期預金です。これは、期限内は引出すことができないから、その間は銀行の方で安心して貸出すことができるからです。その次ぎに利息の高いのは小口預金です。これは何時でも金ができる度に預けるのですが、一度に預金全部を引出す人は殆んどありません。しかし、金の出入が頻繁なために、安心して高い日歩で貸出すことはできません。定期預金より利息が安いのは、そのためです。

當座預金は利息を目的として預けるのではありません。預金者が現金を數へて仕拂ひする事務を銀行に托するので、利息は極めて安くなつてをります。

貯蓄預金も利息は安くなつてをります。これは直ぐ引出される心配はありませんけれども、營業費のかかる制合に預かる金が少く、且面倒であるから、高い利息を拂ふことができないのです。貯蓄銀行の趣旨は、『貴方のお金を保管してあげませう』といふやうな風になつてをります。

## 一ケ年間の利息の割合

金を預けるのに一番便利なのは小口預金です。しかし、少しも元金を使ふ必要がない、利息さへ高ければよいといふのなら定期預金がいいでせう。

利息は、銀行にもより、また金融の有樣にもよつて極まつてをりません。多少の相違はありませうが、定期預金ならば一ケ年に六分五厘、即ち一千圓につき六十五圓、中には特別に六分七厘か七分くらゐに預かるところがあります。

小口預金の利息は、それよりも安く、一ケ年に五分二厘か三厘くらゐ、即ち一千圓に五十二三圓です。

當座預金は小切手帳を持つてゐて自由に引出される代りに、日歩百圓につき八厘か九厘、一ケ年に三分五厘くらゐ、一千圓につき三十五圓内外です。

貯蓄預金は、一千圓につき一ケ年四十二圓か四十五圓くらゐのものです。

## 最も安全な預金の仕方

金を預ける時に注意しなければならないのは、銀行の信用を調べることです。評判のよくない小さい銀行は破綻する心配があります。銀行は皆銀行條令といふものによつて營業するので、大藏省の支配を受けてをります。それですから、本來は確實であるべ

き筈なのですが、なかなかさうは行かないから、その信用を調べる必要があります。

銀行に預金するに一番安全な方法は、全體の金を三つくらゐに分けて、三ヶ所の銀行に預けるのです。

例へば、ここに一萬圓の金があるとして、それを銀行へ預けるには、三つに分けて、第一流の安田銀行とか、第百銀行とか、三井銀行とかいふやうなところへ預けておけば一番安全です。どの銀行も一時に破綻することはありませんから、よし一つが破綻しても一部分の損害だけで濟みます。

その他、毎月三十圓くらゐづつ出したり入れたりするには、小出しして近所の銀行へ預けておく方が便利です。大きい銀行は、金を出入れする時に長い間待たされるから不便です。

## 銀行の信用は重役にあり

普通の人は、銀行の信用を調べる場合に、資本金が少いと危く思ひ、何千萬圓といふやうに資本金が多いと大船に乗つた心地でをります。

しかし、どの銀行でも資本金を銀行の内に積んでおくものではありません。借りたいといふ人さへあれば、それを貸出しますから、資金の多い少いとかふことは大した問題にはなりません。

それよりも銀行の重役の顔振れを調べる方が一番安全な方法です。もし重役が人格の如何はしい人ばかりであれば、その銀行は決して信用ができません。その反對に、重役が溫厚なまじめな人ばかりならば、その營業ぶりも堅實だから信用ができます。

## 無盡師は危險なものなり

近年貯金をする人で、勸業債券や農工債券といふやうなものを買つて、當りくじを樂しみにしてゐる人がよくあります。これは決して惡いことではありませんが、當りくじがなくなれば、二十圓出して買つた債券も十五六圓くらゐに下落します。さうかといつて、賣らずに持つてゐても利息が安いから、つまり損をすることになります。

銀行に金を預けるには、當りくじといふものはないが、その代り元金の減る心配はありません。そこで埋合せがつくことになります。

世間には無盡師といふものがあります。毎月幾らかづつの金をかけて貯金させるやり方ですが、綺麗に決算してその金を會員に分けた例は殆んどありませんから、あまり感心したものではありません。

## 預金に利息をつける理由

私どもが銀行へ金を持つて行つて預けると、相應な利息をつけてくれます。なぜ利息をつけるかと、知らぬ人は不思議に思ふかも知れませんが、銀行の方では、預かつた人に拂ふ利息よりも高い利息で外に貸出すから、決して損にはならない、否、その間に儲かつてゆくのです。

金といふものは家の内に積んでおくだけでは利息がつくものではありません。借りたいといつて來る人に貸して利息を取るから、利息をつけることができるのです。それですから、預金者が一時に自分たちの預金を取りに行けば、三井銀行でも安田銀行でも皆忽ちにして倒れてしまひます。

## 確な銀行ほど利息が安い

それですから、銀行事業を圓滿にやつてゆくには、銀行業に從事してゐる人と、そこへ金を預けてゐる人とが一致しなければいけません。

銀行は金を貸出すといふことが原則になつてをりますが、預金者の方でも必要なことが起ると、預金を引出しに來ますから、相當の準備金といふものを拵へておきます。それには少しも利息がつかないから日歩一錢二厘か三厘で預かつた金でも、貸出す時は二錢とか二錢五厘とかにするのです。

金を預ける時に注意すべきは、確實な銀行ほど利息の安いことです。あまり高い利息で預かる銀行は破綻する危險がありますから、注意が肝要です。

# 銀笛

小杉天外

## 影（一）

雷鳴の様な大湯の噴出の響が息んで、雲と湧立つ蒸氣のからり消えた後には、暮色既に町の天を包んで、冬枯の森の梢に、三日月の光が次第に冴えて居た。日の恵、海の恵を、此處一つに集めた熱海も、遊び勞れた愛兒の如く、靜なる夜の懐に眠らんとするところである。

温泉宿春曉館と云へば、和洋折衷の三層樓、古木奇石の前庭奥庭、泊り客の數を較べても、土地で一流に指を折らるゝのであるが、此家の離亭の、純日本式に數奇を凝した一棟は、更に都人士の間に評判高く、避暑避寒の常客などは、軌も先約を爭うて、此處を己が室にと競ふ程であった。

母家から此の離亭まで、長く渡した廊下を、上草履の音しとやかに、年増と若いのと二人の女中が並んで行く。冬知らずの熱海も夕暮の裾風寒く、咲崩れた梅の花を見ては、思はず身顫をするのである。

「可厭ですッたらお高さん、お止しなさいッたら：：、其様な事を聞くと私、今夜からお湯にも行けないわ。」

「でも、全く不思議だもの。田舍には屢〻狸が化けるつて談が有るから、其様な物の所業かとも思ふけれど、それにしても怪しいものねえ。」

「此様なに多勢人の居る家でも、狸なんぞ出るでせうか？　そんな事は無いわ。」

「幾ら多勢居ても、深更には寝込んで了ふから何にも成りませんよ。加之に、此の通り庭は廣いし、樹はうぢや〳〵繁つてるし、山て云へば、箱根にも天城山にも續きの山だし、何處から何様な獸が這入つて來るか知れアしない。」

「氣味が悪いわねえ、また彼の、お相撲さんでもお見舞に來ると可いわねえ。阿嬢様昨日の朝、赤坂の叔父様が來るんだとか仰有つてたけれど、本當でせうか？」

「奥様も阿嬢様もお在不なんぢや、到底もお邸を離れる譯に行かないわ。」

「左様でせうねえ。あゝ、何誰でも可いから、男の人が來て呉れると可いねえ。」

「けれども、幾ら可怖いて云つても、もう少しの辛抱よ。阿嬢様は彼の通り、速く歸り度い速く歸り度いッて仰有るし、奥様も、もう平常と大した異狀は無いんだもの、お醫師さんさへ宜いて云へば、直ぐにもお歸京なさるに違ひないもの。」

「でも東京ぢや、また昨夜雪が降つたつてぢや有りませんか：：、奥様は顔を顰めて居らしつたわ、それぢや、まだ勿〻歸れないねえ、て云つて居らしつたわ。だけれどねえお高さん、」と若い方の女中は、夕闇の次第に濃くなり行く四邊を見廻して、「私、此の上滯在なさつて、何か變事でも發らなきや可いと思つてよ。」

「變事つて何様な？」

「何様な事か知らないけれど、私、なんだか其様な氣がして詮様が無いの？」

「お貞さんは神經が強いからねえ、」とお高の方は笑ひ掛けて、「狸や狢のする惡戯なら、高が知れて居るぢや有りませんか、如彼云ふ物は魔の物だからね：：。」

「もう止しませうよ。」

「あら、其様なに寄つて來て何うするの？」

「速く行きませう。」

「お貞さん、大丈夫だよ。御覧な、彼方のお坐敷なんざ、まだ雨戸も締めないぢやないかね。」

此う云ひながらも手を捉られたお高も、驅歩で離亭を指して急いだ。

## （二）

小田切の未亡人は、歳末からの感冒を無理押しして居たのが原で、松の内が過てからは、傍の者も聞いて居られぬ程咳嗽に苦しめられた。單に氣管支が悪いと云ふだけであるが、醫師の勧告もあり、この寒中の多美子の健康も氣遣はれたので、親子は家庭教師の田中と、三人の女中を供に伴れて、既う三週間も前から此家に來て居るのである。

此地へ來る時は、途中の用心に男の供をも伴れて來たが、其者を返して後は、主從六人とも婦人ばかりである。勿論東京から、二日置き三日置き位に、誰か知ら見舞に來た。何かすると、三人四人と、誘ひ合つて賑かに遣つて來る事もある。而して大概は一泊をして歸つて行くのである。

「店の人等にも秘密で來て居るのに、何して此う知れ渡るんだらねえ。見舞に來ると云つても、近い所ぢや有るまいし、本當にお氣の毒で成りやしない。」

見舞の人が見える毎に、未亡人は始終此う云つて居た。終には、もう二三日中に歸宅から、誰へも秘密にして居て呉れ、と來る人々へ一々頼んで遣つた。自分でも、もう明日にも歸り度い様な事を云つて居た。まだ醫師には訊いて見ないが、この頃の容態では、盖く不可いと云ひはすまい。熱も殆ど平常に復したし、食べ物も次第に進んで來た。

けれども未亡人の此の思立も、顫の細い、色の蒼白い多美子の顔を見ては、遂ひ決行する氣力を鈍らして了ふ。幸に多美子は何處も不快いところが無い。元氣も中々好い方である。併し東京の二月は、一年中で一番に氣候の悪い月である。雨も降るし雪も多い。急に暖だと思ふと、忽ち手水鉢に氷の張るやうな朔風が吹く。性の悪い流行感冒も此月に始まる。加之に赤坂の父からも、笠倉からも、今少し氣候の定まるまで、悠然保養をしろと云つて勧めて來る。成程自分や多美子が居ないからと云つて、何一つ差支へる事も、取締の届かぬ事も有る家では無い。

「東京へ歸るぢや、十國峠でも魚見崎でも伴れて行きますよ。」未亡人は此う云つて宥めた。

東京から持つて來た玩具にも飽きて、此處で賣る粗悪な物まで買集めた。自分の女中や家庭教師だけでは間に合はないで、旅館の娘や女中やまで仲間へ入れて、夜の深けるも知らずに遊び興ずる事などもあつた。何事を爲ても敏捷く、頭腦の優れた事を顕はす多美子は、何時も優勝者と成るに決つて居たが、何かすると、的も無く眼を据ゑて、自分の魂を逃がした様に茫然する事もあつた。

「阿嬢様の番で御坐いますよ。」

「あら、阿嬢様、切札は其の札ぢや御坐いませんよ。」

「まア、阿嬢様何う遊ばしましたの？」

傍から此う注意されて、初めて我に復つた多美子は、他に見らるゝ顔を微に紅く染めるのであつた。

## （三）

「今歸つて行つちや、二度冬に會ふやうなもんだからねえ。もう暫く辛抱しませうよ。」

此う云つて、多美子を諭すのであつた。熱海の氣候に馴れた多美子は、東京も今頃は暖かに成つたやうに信ずるのだつたが、優しい母の言葉を背いてまでも歸らうと云ひ張るのでは無い。

「私、此地へ來てから、最う一年も經つやうに思ふわ。」語らな相な顔をして、此様な事を訴へる時もある。

「僅か三週間で一年なら、これ程時間の儘かる事無いぢや有りませんか。」と未亡人は笑つて應對つた。

「だつて、退屈で詰らないんですもの。」

「退屈で無いやうに、異つた事をしてお遊びなさいな。氣候は良し、景色は美し、何處へ散歩に出ても、面白いところばかしぢや無いかね。」

「私、もう悉な見て了つたんですもの。梅園なんぞ、三度も見に行つたわ。私、十國峠と魚見崎まで行けば、もう、熱海に知らない所は無いわ。」

に、年下のお真の口から出たので、臆病な狐狽へた眼で、何を間違へたか知れはしない、と家庭教師と二人の女中は笑つたけれど、

「でも私、確かに後姿を見たんですもの……。いゝえ、寢惚けてやしません、あの前から目が覺めて、小用に行き度いけれど、お松さんでも一緒に行つて呉れると可いねえ、と思つて、お松さんを搖つて見た位ですもの……。」とお真は、寢惚眼で見た事ぢや無いと云ひ張つた。

お真は一人て小用に起きた。この離亭には不淨が二ケ所も設けてある、一つは半藪の床の間の背後で、一つは臺所の戸の外に在るのだ。無論お真は戸外へ行かなければ成らないのであるが、深更ではあるし、何だか薄氣味が惡いので、上の方へ入らうと思つた。其處へ行くには、薄緣を敷渡した廣い椽側を廻つて、障子の中には主人母子の寢て居る坐敷の前を通らねばならぬ。お真は足音を立てぬ樣に注意した。椽側の曲り角に、有明行燈が點いて居る。盡の中多美子

や未亡人の體を倚らせる寢椅子がある。お真は寢卷の袖の觸らぬやうに、身を穿めて通て行つた。而ると、自分の行く直ぐ二三間先に、黒い物が雨戸に引着いて蹲踞んて居る。初は椅子か何かで、それに脫棄てた着物でも被つてる事と思つた。ところが其の黒い物か動いて居る、かた〳〵戸に觸れて居る。お真は其處に立竦んて了つた。聲を立てやうにも聲が出ない。と、その間に黒い物がふいと消えて、雨戸へ切つてある潛戸が外から直と閉つた。消えたのでは無い、其の黒い物が逃出して、御丁寧にも外から戸を閉めて去つたのである。

お真は初めて我に復つて、自分の寢床へ逃げて來た。傍に臥て居るお松を起して、今見た怪い者の事を話しても、何を寢惚けて居るんだよ、とばかりて、てんて耳にも入れない。その癖自分は直ぐ夜具を被つて、ぐう〳〵鼾をかいて睡つて了つた。

朝に起きてから各人へ話したけれど、失く成つた物一つないので、誰も本當にしない。廊下へ出入の潛戸は、さるを一つ動かせば外からも開くやうになつて居るので、其の夜から栓を差込む事にはした。けれども、只だ夫だけて、お真の見たと云ふ怪い物は、誰の注意をも惹かずに了つた。

而ると夫から三四日過ぎて、お真はまた可怖い目に出遭つた。此の時は夕暮て、主人の母子は、他の女中と一緒に入浴中て、お真だけが坐敷の掃除をして居た。坐敷が三室になつて居る。客室と二の室と云ふのが二つ續いて、此處は日射も良し、居心も宜いので、多美子が毎朝の英語の稽古も、人形遊も骨牌遊も、終日自分の物にして取散すので、毎日二度も三度も掃除をしなければならない。この坐敷から細い廊下を隔てゝ、六疊の茶がゝつた居室がある。隱居とか病人とか、煩い事の嫌ひな人に向けて設けた樣に、壁も窓も、戸外から物音の響かぬ工夫をしたものらしい。未亡人は大概此室に引込んて、火鉢の鐵瓶の音を聞きながら、古い物語やら、修養を主とした新しい書物やらを讀んて居るのであつた。

お真は其の時、客室の方の掃除をして居たのであるが、誰も在らぬ筈の六疊て、朝から物でも落ちた樣な音を聞いた。變だと思つて駈けて行くと、薄暗い室の中に、庭の木影が映つて居る。確に締めて置いた窓の硝子戸が開いて、庭の電燈が月のやうに射して居るのである。お真は頭から冷水を浴びた樣に慄然とした。物をもいはず逃出して、宿の女中を曳張つて來た。而して電燈を捻つて、怖怖室の中を吟味すると、茶棚に置いてある目覺時計が落ちて居る、未亡人の水藥の壜が轉げて居る。その外には何等の變つた事も無い、見渡したところ、失くなつた物も無いやうてある。

「何てせう？　變だわねえ。」

「猫でも入つたんぢや無いんてすか。」と宿の女中は、何だ馬鹿馬鹿しいと云ふ顏をして居た。

「いゝえ、猫なんぞ入る筈はありません、此處は、確に締めて置いたんですもの。」

「でも、貴女が締めても、何誰か開けて置きなすつ

「まアたゐ貞さんの神經が始まつた。」

皆なが頭から笑つて了ふ。幾ら精しく說明しやうとしても、眞面目に對手に成つて呉れない。

「必然と貉よ、お貞さんに惚れてる貉よ。だから、お貞さんの居る時ばかし出るんだわ。」

「何樣なに可愛い貉でせう、私も一度見たいわ。」

お貞は、年長の人達に馬鹿にされるのが口惜しかつた。寧主人の耳に入れやうかとも思つた。だが、奥樣は病後で居らッしやるし、阿孃樣は眞のお坊さんだし、迂濶した事を申上げて、可怖くて夜も眠れない、など云ふ事が有つては濟まない。加之に家庭教師の田中さんからも、無益ぬ事は云はぬ樣にと戒められて居る。お高さんからも戒められて居る。

「六疊へ入つた物は分らないけれど、椽側へ蹲踞んでた物は、私たしかに見たんだもの……。今だつて、判然想出す事が出來るわ。」何遍となく、親しくして居るお松に話した。

誰か私のやうな目に一遍遭つて呉れると可い、爾すれば私の神經て無い事が分るんだ。お貞は此うまで望んで居たが、其の六疊の不思議の有つた翌日、今度はお高が怪しい物を見た。

矢張り日が沒れて間も無いことて、買物か何かで急いて歸つて來たお高は、毎も出入する口へ履物を脫がずに、庭の中を拔けて眞直に離亭を指して入つて來た。雨戶は締めてあるが、六疊の磨硝子の窓に、室内の電燈が一杯に射して居て、珍らしくも多美子のバイオリンが聞える。

「なんだか、鎌倉の御別莊のやうだ。」

お高は偶と、去年の夏の其處を想出したのてある。多美子がバイオリンを彈くと、梅之助は柱に凭かゝつて、得意の銀笛を吹いたものだ。双方て調子を合はせ樣とするけれど、中途まて進むと直ぐちぐはぐに成つて了ふ。而ると多美子は極つて苦情を云ひ出す、兄樣は態と速くしたとか、意地が惡いとか攻めて、更に初から演り正す。また合はない、また演り正しだ。何遍繰返しても、多美子は終ぞ倦だ顏をしない、梅之助も更に退屈の樣子が無い。放棄つて置いたら、朝までも止めさうが無いので、傍から注意をして止めさせたものだ。

「だが、彼の頃は阿孃樣も、何樣なにか活活して、お元氣て居らしつたらう！」

お高の胸中には、多美子と並んだ梅之助の顏が浮んて居たのであるが、見るとも無く明るい硝子窓に目を留めると、石燈籠の笠と、晒落た透垣とが、くつきりと黑く見える、垣の根方には、青木だか八手だか、葉の大きな株が見えるが、その庭樹の黑い間に混つて、更に五分刈頭髮の人間の肩が、凝と其處に映て居るのだ。

「お、粒良樣のお坊ちやん！」

お高は危く聲を掛けやうとした。瞥と見たゞけてあるが、直ぐ梅之助と決めて了つたのである。思はず一步か二步、その方へ駈出したのかも知れない。その足音が響いたのか、或は足音の響かない前に消えたのか、今まで映つて居た五分刈頭が、吹いて消し

た様に忽ち見えなくなつた。

「お松さん！　お貞さん！」とお高は赤い聲で呼んだ、「燈火を見せて頂戴！　速く燈火を見せて頂戴！」不意に大きな聲を揚げたので、屋内でも喫驚して戸を開けた。お松もお貞も顔を出した、教師の田中も出て來た、その後から多美子も顔を覗いた。

「如何したの？」

「如何したんです？」

お高はまだ自分の聲に氣が附かないで叫んだ、「燈火を見せて下さい。いゝえ、私ぢや有りません、お庭の方ですよ、窓の下ですよ。」

懐中電燈が其處でも此處でも閃いた。家庭教師は履物を穿いて庭へ下りて來た。

「如何したの？　何か居たの？」

お高は電燈の光線を力に、窓の下へ歩寄つた。何一つ其物らしい物も無い。

「何なの？　何物を見たの？」

「いゝえ、今ね……」とお高は云ひ出して首を傾げた、「變だわねえ。」

確に梅之助の姿と思つたが、考へる迄も無く梅之助の此處に來やう筈が無い。來る筈が無いとすれば、彼は何物で有つたらう？　物の影か？　心の影か？　それとも若しや……？　と考へて、お高は愕然して居る家庭教師に、不意に抱着いた。

「お高さん、喫驚するぢや有りませんか！　如何したの？」

「ま、彼方へ參りませう……。」

お高はぐい〳〵教師の手を曳張つた。教師も何が何やら分らないので、曳かるゝ儘に母家の店頭まで駈け歩て歩いた。

「何が居たの？　何樣な物が居たの？」

「變な物ですよ。餘程不思議ですよ。」

「お貞さんの見たつて云ふ、その怪しい物を見たの？」

「いゝえ、私の見たのは、確に粒良樣の坊ちやんですよ。」



「えッ「何處て？」

「あの、硝子窓の下に蹲踞んでたんですよ、五分刈頭髪でね……、肩のあたりなんぞ、確に彼の人ですよ。」

「だつてお高さん、粒良樣の坊ちやんなら、此地に居る筈は無いぢや有りませんか！」

「だから私、變だと思ふんですよ。ま、宿の人に頼んで、見て貰ひませう。」

お高は店頭に居る男を手招きした。而して、離亭の周圍を見廻つて貰ひ度いと頼んだ。印絆天を被た其の男は、客の中でも大切な客に心得て居る離亭の女中の言葉を、徒事ならず聞いたのである。急に提灯を點けて、今一人の若い男を伴れて、熱海に火事が有らば第一番に消口を取るだらうと想はるゝ鳶口を肇々持出して、廣い奥庭の木立の間へ勇ましく入つて行つた。

お高と家庭教師とは、此の二人の歸るまで店頭に待つて居た。久くして、氣の抜けた樣にして來た番頭は、

「何物も居りませんよ。彼方の木戸も、ちやんと鍵金が懸つてますし、別段、何物も入つた跡は有りませんよ。」

「何樣な物を御覧てした？　何か、怪しい物て御覧てしたか？」

宿の主婦まで出て來て此樣な事を訊いた。お高も體裁が惡い位であるが、聊かと云つて、主人の親戚の息子の妻が、硝子窓の下に蹲踞んで居たとも云へない、

「何ですか、人の影の樣な物が見えたもんですからね……。」と曖昧に云つて、家庭教師と二人で廊下を歸つて來た。

「だけれどお高さん、」と教師は低聲て注意した、「阿嬢樣の耳に入つたら大變ですよ。」

「え、何事です？」

「粒良の坊ちやんの事ですよ。」

「それは大丈夫ですよ。なんぼ私だつて、彼樣なに

堅く命令かつてる事を忘れるもんてすか。」

「お松さんにも默つてらッしやい、彼の人は、放心者だから、何時何事を云ひ出すか分りアしない。」

「え、默つてませう。」とお高は承知したが、「てすけれど田中さん、私は、何しても彼の坊ちやんだと思ひますれど……、若しや、病氣にでも成つて居らッしやるぢや無いてせうか？」

「まさかお高さん。」

「一體、人間の靈魂て云ふものは、有るもんてせうか無いもんてせうか？」

「夫は有るには違ひ無いけれど、まさか、粒良の坊ちんの靈魂が、東京から熱海まで飛んで來もしますまい。」

「でも、阿孃樣の事を何樣なに念つて居らッしやるんですか……、會ふ事は固より、手紙の往復も止められて居るんですもの……。」

と云ふ時、田中は袖を曳いて、

「お高さん。」と口を禁めた。

雨戸の潛戸の中から、宿の女中と、臆病者のお貞とが此方を覗いて居るのであつた。

（四）

多美子も未亡人も屢く散歩に出た。風の無い日などは、午前と午後と二度も出る事が珍らしく無かつた。多美子ばかり出る時は、眼鏡を掛けた家庭教師と、一番年嵩のお高が、左右から護衞として附いて行つた、その後から、宿の男が一人、麻裏草履を穿いてお供をするのが例てあつた。

ある日主從は、家を空にして海岸を散歩した。夕陽の影を受けた漁船の、繪の樣に鮮かに浮いて居る沖を眺めた。東京から廻つて來た小蒸汽船の、風ぎた濱を指して、ぼう、ぼうと合圖の笛を鳴らしながら、次第に近付いて來るのを眺めた。一日だつて多美子等へ荷物の屆かない日が無い。水菓子の箱とか、野菜の籠とか、また何か彼の船て來た物が有るに違ひない。

「それよりか、また何誰か來らッしやいは爲ないてせうか？」

解に乘る人影を遠くから眺めて、此う呟く女中もあつた。夕靄が次第に岸を籠めて來た。疲れたやうな上潮の波が、びちや〳〵と汀の石を嘗めて居る。

「あれ、彼處て火を焚いてるよ、如何したんだらう？」多美子は閑な心に其樣な物も訝つた。

女中達は思ひ〳〵の解釋をした、沖へ出て居る船へ、合圖をする爲の火だと云ふ者もあれば、魚族を寄集める手段だと云ふ者もある。

「なアに、風が無いから塵芥を燒いてるんてさア。」と宿の男は、莨を喫みながら笑つた。

多美子を首め、皆なが聲を出して笑つた。もう夕陽は山の背中に隱れて了つた。焚火の煙が海の上に崩れて白く棚曳く。

「さア、風が寒くなつたから歸りませう。」

未亡人の一聲て、一同は徐に歸途に就いた。濱て焚く塵芥の火が紅く見えた、旅館の二階にも電燈が光つて來た。これから風呂に入つて、晩の膳に對ふ樂が各人の胸に描かれて居るのだつた。中でも多美子の脚が一番に速かつた。未亡人は笑ひながら、もうお腹が透いたんだよ、などゝ女中等に耳語くのだつた。

此樣な時に歩の鈍い家庭教師は、徐とお高を呼止めて、

「今日は見え無いぢや有りませんか。」

「え、見え無い樣ですね。」

二女は背後を振顧つて、低聲で此う云ふ話をした。

「矢張り、偶然に一緒に成つたんですよ。先方でも體裁が惡いから、態と後になつたり、隱れる樣な事をするんてすよ。」

「爾でせうかねえ。」

「貴女、何處かて見たやうな男だつて、何處て見た男なの？」

「それが、如何しても想ひ出せないんてすの。」

「東京で？　熱海で？」







「無論東京ですけれど。」

「何かお使に出た時、電車で一緒に成つた男ぢや無いの？」

「爾だつたか知ら。」

「疑心暗鬼よお高さん。まだ、眞の學生ぢや有りませんか？　阿嬢様の跡をつけてるの、潜び潜び跟いて來るのつて、其様な馬鹿な事が有るもんですか、」

と田中は笑ひ掛けて、「此頃は、私等は悉な、一種の神經病に罹つてるんだわ。夜中に黒い物に出逢つたり、窓の下に五分刈頭が蹲踞んでたり……。東京へ歸つて此様な事云はうもんなら、邸内中の人に笑はれて了ふわ。」

「田中さん、貴女には如何見えます、」とお高は急に想ひ浮んだ如く、「あの學生さん、粒良様の坊ちやんに似て居るぢや有りませんか？」

「何を云ふのお高さんは……、粒良の坊ちやんは、あの通り色白で奇麗だけれど、あの學生は、彼様な骨張つた可厭な顔してるぢや有りませんか。」

「いゝえ、顔ぢやありませんよ。何處か此う……、額の邊だか、眦の邊だか……、何處か似て居るぢやありませんか？」

「いゝえ、少とも似た處なんぞ無いわ。」

「爾かしら？　私はね、過日の晩彼處に蹲踞んでたのも、偶然としたら、彼の學生さんぢや無いかと思ふんですよ。」

「はゝゝゝゝ、」と家庭教師は急に笑つて、「お高さん、神經を起すのも大概に成さいよ。如何して窓の下へなんぞ蹲踞んでるの？　だいち、何處から入つて來るの？　狗猫ぢやあるまいし、豈夫垣根を潜つても入れないぢやありませんか？」

「それは然ですけれどね。」

「彼方でも爾云つてるか知れませんよ。」

「何て云つて？」

「散歩に出る度に、彼の婦人連と一緒に成るんだが、僕の跡を尾行てるんぢや無からうかつて。」

「豈夫田中さん。」とお高は笑出した。

「でも、お互に神經を起せば其様なもんぢやありませんか。」

「あら、阿嬢様も奥様も最う……。」

主人の一行は、最う道を曲つて了つて見えなく成つた。後れた二女は、切切と其の跡を追つた。

家へ入つた時は、燈火の力が無ければ人の顔も分らぬ頃であつた。同じ塀の内と云つても、貴重な品を取散してある離亭なので、宿の女中が留守番をして居た。疲れた脚を褥に載せるより疾く、一人の女中は風呂の様子を見に行つた。

「あゝ、もア少し息みませう。隨分歩いたね。」と未亡人は兩手を膝の上に投げて、家へ入るより速く菓子の籠を開ける娘に笑ひ掛けたが、「私も、お藥の時間だつたねえ。」

その係を勤めるお貞は、毎々の通り洋杯に盛れて其處へ持つて來た。未亡人は、渇いた咽喉を潤す心算で、今しも口許まで持つて行つたが、

「如何したらう、此の藥は變つてる様だよ。」

お貞も、口を動かして居る多美子も、一緒に顔を寄せた。

「電燈を下げてお呉れ……。ほら色も變つてるぢや無いか。」と未亡人は洋杯を高く翳して、「壜を持つて來て御覽な。」

お貞は急いで藥罎を持つて來た、中には未だ二回分だけ殘つて居るが、成程藥の色が、今迄の色とは異つて居る。

「大變に濁つてるわ。」と多美子は洋杯の中を透して云つた。

「如何したんて御坐いませう？」とお貞は顔色を變へて云つた。

「母様、嘗めて見たの？」

「いゝえ、嘗めやしない。何だか、變な臭がしたからね。」と未亡人は首を傾げた。

家庭教師も、お高も、悉な坐敷へ出て來た。壜を電燈の傍へ持つて行つたり、洋杯の臭を嗅いだりした。

醫者が處方を變へたのか、或は藥局生が調劑を間違

へたのか、それにしても晝飯前に服んだ時は此様な色にも臭にも氣が附かなかつた。

「母様、兎に角お醫者さんに訊きに遣つた方が可いわ。」多美子は誰よりも先に此う云つた。

「左様で御坐いますねえ、此の儘持たせて遣つて、お訊きなすつた方が宜しう御坐いますねえ。」と家庭教師も同意した。

乃で洋杯の藥も壜に入れて、女中のお松が醫者へ訊きに行くことゝなつた。醫者の家は遠くも無いけれど、人通の少ない夜の街が可怖いので、宿の女中にも一緒に行つて貰ふ事になつた。

ところがお松は、主人母娘の風呂から上つた後で、急々氣の落着かぬ態で歸つて來たが、

「奥様、不意だ粗相を致しまして濟みませんて御坐います。」と敷居際に手を支いてお詫をするのである。

見れば新しい藥壜を持つて居る。如何した事かと訊くと、某別莊の暗い樹手を通り掛つた時、酔人が何か知らないが、背後から駈けて來た一人の男が、避けやうとしたお松に突當つて、提げて居る藥壜を落して了つた。石に當つたと見えて、壜がばちやりと破れた。

「宿の女中さんも、亂暴でも爲れると可けないから、默つてる方が可いッて申しますし、その中、頻々濱の方へ行つて了ひましたから……」とお松は、其處に落した手巾だけを拾つて、醫者の家へ行つた事を話した。

「爾かい。」と未亡人は只だ頷いて聽いた。「お醫者は何と仰有つたの？」

「藥が變色するなんて、其様な筈は無いんだが、て仰有つて居らッしやいました。明日伺つた時に、熟くお談を伺ひませう、て仰有つて居らッしやいました。」と新しい藥壜を主人の前に出した。

「その酔人つて、何様な者だつたの？」傍から多美子が訊いた。

「暗いもんて御坐いますから、能くは分りませんでしたけれど、何ですか、若い男の様で御坐いましたてすよ。」

「必然と、漁師か何かなんだよ。亂暴だねえ。」と多美子は顔を顰めて云ひ續けた。「田舍の人は本當に可怖いわ。」

藥の談はこれ限りで消えたが、多美子の口からは、また速く東京へ歸り度いと云ふ不平が洩れた。

## （五）

濱に鳴る夜の波が、庭の冬木立に反響して、松風の山奥にでも寢て居るやうである。晝間の散歩の疲勞で、病後の未亡人は骨と骨との結目が解けた様になつて眠つて居る。襖を隔てた次の間には、家庭教師と女中のお高とが、彼一息、これ一息、割臺詞の様に穩かな寢息を交換し合つて居る。床の間の置時計が、幸と十二時を過ぎたところである。夜を警むる拍子木の音が、母家の後の方から、次第に此方の庭へ入つて來る。

こんな時に、母と床を並べた居た多美子は、徐と枕から首を起した。六尺の山水の屏風が母娘の裾を圍うて、屏風の端には、籠行燈に引いた電燈が、時代らしい落着いた火光を放つて居る。多美子は其の明に透して、凝と母の寢顏を眺めて居たが、すると夜具から脫出て、衣桁の不斷着を寢卷の上に重ねた。衣摩の音にも意を配つて、帶を卷いては母を振返り、歩を運んでは呼と立止るのであつた。

音せぬ様に紙門を開けて、六疊の居間へ窃と潜込んだ多美子は、行なり電燈のスヰツチを捻つて、机の前の冷たい褥に坐つたが、躊躇も無く書翰紙を取出して、直ぐ洋筆を走らせた。もう書く可き文句は、床の中で悉り考へて置いたと云ふ態である。

また手紙を上げます。

何等の罪惡を犯すので無けれど、母の眼に隱して手紙を認むると云ふ事が、幾多の惡事に增す惡事の様に怖ろしいのです、私は此の恐怖を冒して、必死に成つて認むるのです、私の哀い心を察して

下さい。併しながら私の母を悪く思つては可けません。

歸京の日は延びました、確とした事は申上げられませんが、此の月の末か來月の初めと思ひます。歸京の日が幾ら延びても、我々を苦しめる事情が殖へたのでは有りません、兄樣にお誓をした私の意は、無論鞏固なのです。

何時かのお手紙の樣に、兄樣の悲觀に陷るのを私は最も心配するのです、何卒私を信じて下さい、私の母をも信じて下さい、神樣の在ると云ふ事をも信じて下さい。

幾ら手紙を上げても片便りですもの、兄樣の樣子を知り度いと念ずる私の心の中は、恐く兄樣にも分りません。郵便は駄目ですが、他の方法で一度お手紙を下さる工夫をして下さい。併し無理な事をしては可けません。

私は健康です、母も殆ど平癒です。東京はまだ寒いと云ふ事です、何卒風邪をお引きなさらぬ樣に祈ります。お鶴ちやんの繪葉書には、今後あまり兄樣の事を書かぬ樣に願ひます。

此の手紙こそ、愈よ此地から上げる最終の手紙でせう、かしこ。

多美拜

兄上樣御許

此う書終るより疾く、封筒に封じて梅之助への表書をした、切手をも貼つた。耳を澄ませば、聞える物は女中等の小さい鼾ばかりである、果して母も目を覺さなかつた。

多美子は室の中に突起つて、遠かり行く夜番の拍子木を虛空に睨めて居たが、見る間に其の優しき顏の神經が緊張した、二重瞼の大きな眼が、異樣な光輝を表はして來た。と思ふ時、多美子は左右の腕を背後に廻して、帶の結目を固く結正した。而して足音を立てぬ樣にして、徐り徐りと勝手の方へ出た。板の間が鳴るので、一步運んでは吻と息を吐いた。それでも人の目を覺ませずに、裏口の戸を開ける事が出來た。

月光が晝の樣に明るい。十八九日頃の缺けた月である。その靑白い光が、掃除の屆いた庭の地上に、冬枯の種種な樹の枝ぶりを濃く映して居る。風と云ふ程の風は無いが、深更の寒氣は肌を剌す樣に襲うて來る。多美子は思はず身を縮めて、衣服の袖を胸に合はせた。海の音が更に判然聞える。晝の中は目熟れて氣にも留めない梅の花が、雪の樣に咲崩れて居る。何處からとも無く、湯の匂ひが露多き夜氣を傳はつて來る。

多美子は足に掛つた女中の履物を穿いて、暗い物影を怖怖見廻した、而して怖怖步を踏出した。此の宿の表門を出れば、直ぐ其處にポストが樹つて居る。白晝の人目を窃む事は勿勿困難である、今の間に投函しやうと考へたのである。瀟洒な萩垣に沿うて、徐に表庭へ廻らうとした。小砂利の音が、さくりと耳を驚かした、多美子は停立つた四邊を見廻した。無論自分の履物に刻する音なのである。怖怖また步を移した。忽ち自分から少し離れて、ちらと動く影が目に着いた。背筋が慄然と寒くなつた。自分の他には何一つ動く物無き夜の庭で、狗兒でも居るか、それとも天を翔ける怪鳥の影でも映つたのかと疑つた。また停立つて四邊を見廻した、何處にも何物も居ない、凝然として立つて居る樹と、蹲踞んで居る石ばかりである……その石が、磯から運上げたらしい凹凸のある禿げた石であるが、月光の靑く映してる坊樣の肩のやうな傍に、變な形の物が一つ立つて居る。熟く視ると人である、五分刈頭の、若い書生風の男である。今までは身動きもせずに居たが、多美子が目を着けると、月に面を向けて一つお辭儀をした。

「あツ！」と多美子は絕叫した。

此處から離亭の勝手口までは十間餘りもあるが、その間を多美子は夢中で驅け出した、而して履物を穿いたまゝで、障子と一緒になつて坐敷へ倒れたのである。

## （六）

この頃の日和癖で、暁方には一頻満の枝を鳴らす程の風が出たけれど、旭日の紅く昇る頃から風ぎて、昨日に更らね穏かな熱海の朝が來た。

春暁館の店先には、鑄鐵の大火鉢を上り口に引寄せて、醫者の拘車夫が、顔を顰めて拙さうに紙巻莨を喫んで居る。今朝急に發つ客が出たので、番頭は急し相に勘定書を書いて居る。櫞の大黒柱に掛かつた柱時計の大きな振子が、拭込んだ椽側や帳場格子にぎらり〳〵と光を投げる。

「なんせえ、彼の大弓場の旦那くれえ、獵の上手な人は無えねえ。去年も、十貫から以上ある猪、二疋も撃つ付けだからねえ。」と車夫は不意に此様な話をした。

帳場の番頭は頭も上げないで、

「左様かな。」と氣の無い返事をした。

「俺の旦那も、次週の日曜にや是非出掛けるツてなさるが、駄目だねえ、兎の一羽も打つたら豪アもんだ……。」と云ひながら時計を眺めたが、大きく欠伸をして、「昨夜起こされたて、睡くてなんねえ。」

そんな事を云つてる處へ、紅い上靴を穿いた醫者が、離亭の女中のお高に見送られて奥から出て來た。旅館の主婦も直ぐ膝手の方から駈け出て、

「阿嬢様いかゞで御坐います？」と膝を突いて訊いた。

「いゝや、何處も何とも有りません。」と醫者は護謨靴を穿きながら、「反つて、奥様の方が少しね……。」

「おや、また逆進したんて御坐いますか？」

「なに、氣管支の方は最う大丈夫ですがね……。まア、餘り吃驚なすつた爲でせうよ。」と輕く笑つて醫者は急じさうに俥に乘つた。

醫者を見送つた主婦とお高とは、久く店口に立つたまゝで、

「まア、阿嬢様何處も何とも無くて宜う御坐んしたねえ。」「昨夜は如何なすつたんて御坐いますの？」

「如何なすつたんですか、何とも仰有いませんですよ。」

「お一人て、深更に庭へお出なさるなんて、なんぼ御活潑て居らつしやるてツてもねえ。」

「奥様は、月が良かつたから、大方、景色を見に出たんだらうて仰有いますが、そんな御様子も無いんてすよ。」

「近頃は、屢く皆さんが遊ばしますが、繪でもお描きなさるお心算でしたらうかねえ？」

「いゝえ、阿嬢様は繪はお描きなさいません。」

「左様て御坐いますか。では、如何なすつたんて御坐いませうねえ。」と主婦は氣が附いて火鉢の傍へ腰を卸し、急に低聲になつて、「その、御覽になつた可怖い男つて、何様な物でしたらう……、まだ何とも仰有いませんか？」

「は。可怖いから、訊いちや可厭だと仰有いましてて。」

「へい、何を御覽なすつたんて御坐いませう？　もう、稲穂と吟味しましたけれど、誰も、庭へ出て居つた者なんざ御坐いませんもの……。ですがねお女中さん、今夜からは御安心て御坐いますよ。」と主婦は穏かに笑ひ掛けて、「離亭の見張を爲せるために、不寝番を置く事にいたしましたもの。」

「まア、本當にお氣の毒て御坐いますねえ。」

お高は此う禮を云つたが、時計を見ると最う九時てある。昨夜深更に跳起きてから、衣服も着替へなければ、なだ顔も碌に洗はずに居る。

主婦に會釋して急いて離亭へ引返すと、椽側の日向に、多美子はぐつたりした態て椅子に臥て居る。

「まア、お顔色の不良いこと。」とお高は遠くから此う思つた。

「高や、今忙しいの？」と多美子は凝と眼を据ゑて云ふ。

「は。」とお高は躊躇つたが、「御用て御坐いますか？」

「私、散歩し度いの。一緒に行つてお呉れな。」

「は、參ります。一寸とお待ち遊ばして、衣服を着更へて參りますから。」

而ると障子の内から、

「いゝえ、今散歩に出ちや可けません。」と母の聲が止めた。

「でも、お醫者さんは何をしても可いつて云つたぢや有りませんか。」

「御飯も食べないで散歩する人が何處に有るんですの。」

「だつて、食べたか無いんですもの。」

「母様、貴女に談さなきや成らない事が有るんです。」

「左様？」と多美子は羞れて黙つて了つた。

お高は阿嬢様を宥めるやうにして、夫では後ほどにお供致しませうね、と云つて顔を覗き込み、

「阿嬢様、お寒か御坐いませんか、お襟巻を持つて參りませうか？」

多美子は只首を掉つたばかりである。女中が彼方へ去ると、重さうに自分の頭を押へたが、障子の内に聞えぬ程に、深い深い溜息を吐いた。その直ぐ頭の上では、過日親戚の夫人が見舞に持つて來た鸚哥が、籠の骨を咬みながら高い聲で啼いて居る。

障子の内では、さら〳〵と紙を巻く音がする、未亡人が長い手紙を書終つたところである。お高がまた呼ばれた、邸へ電話を掛ける用である。安治さんか、笠倉さんに電話口に出て貰はなければ成らない、などゝ云ふのが聞える。多美子はそれを耳にしたけれども、凝として自分の思ふ事ばかりを思ひ續けて居た。

即て旅館の女中が來て、まだお膳を出すのに早いでせうかと訊く。未亡人は何やら獨語らしい事を云つたが、

「多美ちやん、一膳食べて置かうね？　孰せお正午まで待つてられないもの。」

「私、澤山。」と多美子は、背後の障子が明いてるのに、振向いて見やうともしない。母様だけお上りなさい。」

「でも、お正午までにお腹が透くよ。」

多美子は汝事もしないで居る。女中は半熟を捧へませうかなどゝも訊いた。多美子は矢張黙つて居る。實は未亡人も食欲が無いので、結局女中達にだけ食べさせる樣に言付けて遣るのだつた。

「多美ちやん、さ此方へお入んなさいな。」

「え。」と返事をしたが、如何にも氣の進まぬ態で、辛との事で椅子から離れた。

未亡人は自分の傍へ來て坐るまで、凝と娘の顏に眼を留めて居たが、

「なんだか寒さうぢや無いかね、寒かないの？」と云ひながら、手を伸して脫け掛けて居る褄を正して遣る。

「寒くなんぞ。」と輕く首を動かした多美子は、一度母を見て、目の遣り場の無い樣に火鉢の中を見た。親子とも暫く物を云はずに居る。未亡人の口から吻と溜息が洩れた、多美子は氣の毒さうに其の顏を見上げたが、また慌てゝ他方を向いた。

「多美ちやん、隱して居ても詮方が無いから、もう悉な云つて了はうね、」と未亡人は堅く意を決めたらしく、徐に口を利いた。「貴女も、何事も隱すんぢや有りませんよ。」

多美子は無言で頷いた。未亡人は帶の間から封筒に入つた多美子の手紙を出して、

「貴女、これを搜して居たらう？」

それを一目見ると、多美子は颯と紅くなつた、而して言葉も無く俯向いて了つた。

「母様みんな讀みましたよ。」と未亡人は苦笑をして、「あれ程云つて聽かせても、依然手紙を往復して居るんですねえ？」

「往復つて、兄様からは來ませんわ。」

「貴女からばかし遣つたの？　何度遣つたの？」

「當地へ來てから、これで三度目。」

「東京でも遣つたんですね？」

「いゝえ。」

「毎々、夜中に書いて夜中に出したの？」

「いゝえ。昨夜ばッかしですわ……。」と云つたが、多美子は忽ちはら〳〵と落涙して、「母様、堪忍して下さい！」

不斷に我儘をして居る娘だけに、急に頭を垂げて謝罪るのが、未亡人には如何にも不憫しいのである。

「だけれど多美ちやん、何時までも此様な事をして、終には如何する氣なの？　山村様の方の緣談だつて、貴女、傍で聞いて居るてせう？　四月て云へば、もう間一ト月きや有りませんよ。」

多美子は默つて俯向いて居る、母は其の顏を覗込んて、

「梅様とは、何も、約束と云ふ程の約束をした事は無いと云ひましたね？　夫ぢや、こんな手紙を遣る必要は無いてせう？」

「でも私、氣に懸るんですもの。」

「梅様の事が？　可笑いぢや有りませんかね……。今に、結婚をする人が、お友達の事を氣に懸けるなんて……？」

「母様、ぢやァ私、」と多美子は面を起して、「如何しても結婚を爲なきや可けないの？」

「爲ぢやありませんか、」母は呆れた眼をして、「貴女は何う思つてたの？　止さうと思へば、何時でも勝手に止せる心算で居るの？」

「然うぢや無いけれど。」

「貴女だつて、去年から新坐敷の普請、庭の改築で、彼の通り職人の入つてる處は見て居るてせう……、現に、西陣へ注文する時だつて、貴女と相談の上に注文したぢや有りませんか……？」

「そんな事は解つてるけれど……。」

「其様な事は解つてるけれど、如何したつて云ふの？」

「私ね、母様はね、私一生懸命でお願すれば、何様な事でも肯いて下さるとばかし信じて居たんですの。」

「何様な事でも？　ぢや、山村様の緣談も、願へば破談に成ると思つて居たの？　まア、多美ちやん！　貴女も今年は十八ですよ、これ迄進んだ談を、如何して毀すんてす？　困つた人だねえ！　そんな意氣つたら、何故去年の秋、判然爾云はなかつたの？」

「私、何しても云へなかつたんですもの。」

「云へないと云つても、他の事と違ふぢやありませんか……！　あゝ、困つた人だねえ！　今に成つちや、もう何を云つても悔復が附かないぢや無いかねえ……。」と未亡人は當惑の餘り、續くる言葉もなく娘を眺めた。

而ると廊下の彼方から、女中の急足が聞えて、障子を開けるより速く、

「奥様、笠倉様がお電話口へお出でお坐います。」

「あ、然う？」と未亡人は頷いたが、徐に裾を起たうとすると、眩暈にでも襲はれてか、突然に其處へ突伏した。

「母様！　母様！　如何なすつたの？」と多美子は叫んだ。

「奥様！　奥様！」と女中も後から抱へ様とした。

「いゝえ、何でも無い、何でも無い。」と未亡人は突伏した儘で手を振つて見せた。

けれども電話口まで行く氣力は無いので、それは家庭教師が代つて掛ける事にした。精しい仔細は今朝の手紙に書いてあるが、安治か、店の者かを、今日から此地へ遣して貰ひ度いと云ふ電話なのであつた。

「母様、臥て息んてないても可いの？　お醫者さんに來て貰はないても可いの？」と傍に附いて居る多美子は、涙を零して母を摩つて居た。

未亡人は最う爽然したと云ひながらも、可時までも其處を動けずに居た。（以下次號）

## 東洋家政女學校の盛況

東京神田區北神保町なる岸邊福雄氏の經營さるる同校は、年年校舍を增築するの盛況にて、毎週裁縫二十時間學科十四時間、何れも實用を主とし、丁度高等小學校の二ケ年にて女子に必用なる十分の學力と、裁縫洗濯洗ひ張り、その他家事一切の事を學習し、殊に裁縫は二ケ年間にて何でも立派に縫ひ上げ得る由、入學申込は三月二十日限りにて、尋六卒業生は一年生に、高等卒業生は二年生に無試驗にて入學できるといふことです

# 老人向の料理

櫻井女學長　櫻井ちか子

の料理法は皆さんも御存じでせうと思ひますが、御參考までに記してみませう。

## ✿食物は老人を中心とする

老人は一家のうちで最も大切なものです。若い人と嗜好は違つてゐますが、その口にあふものを拵へてあげると非常に喜びます。それですから、一家を樂しくしようとするには、若い人は、老人はどんなものを好むかといふことを考へて、その嗜好に適するものを拵へることが肝要だと思ひます。

老人の好むものといへば、香氣のあるもの、苦味のあるもの、辛いもの、軟かいものなどです。その主なものを申して見ますと、獨活、三葉、新菊、韮、葱、蕗、蕗の薹、柚、唐辛、牛蒡、人參、蕪、大根、豆腐、うに、しほからなどいふやうなものです。そ

## ✿獨活の胡麻味噌和へ

獨活の太いものを選んで、よく皮を剝いて、ころばし切か、三分くらゐの厚さに斜に切るかします。それを、醬油、砂糖、味淋で薄く味をつけ、よく汁を搾つておきます。別に胡麻を擂り、その中へ味噌と砂糖を加へてまたよく擂り、酒か味淋を少し加へてゆるめます。それへ前の獨活を入れて輕く攪きまぜて出すのです。この味噌に木の芽を加へると、一層美味しくなります。

**注意。**獨活は、あまり長く煮ると、香氣を失つて味が惡くなりますから、極くザッと煮なければなりません。また水の出るものですから、お膳に上せる前に一度よく攪きまぜないといけません。

## ✿獨活とわかめのぬた

獨活の皮を剝いて一寸くらゐの短冊形に切り、水に漬けておきます。別にわかめをぬるま湯でよく洗つて、堅いところを去り、細かく刻んで水を切つておきます。また別に酢味噌を拵へ、その中へわかめを加へます。次ぎに、獨活の水を切つて、その中へまぜ込みます。場合によつては、酢味噌の代りに酢醬油を用ゐても構ひません。

## ✿たたき牛蒡

牛蒡の皮を削り、五寸くらゐの長さに切り、水に漬けて、よくアクを出します。アクが出てしまつたら、軟かに茹でて、俎の上へ載せ、輕く敲いて二三分くらゐに切ります。それを胡麻醬油か胡麻味噌で和へてもよし、酢醬油をかけてもようございます。

**注意。**酢醬油をかける時は、炒つた胡麻をその上へ振りかけるとようございます。

## ✿蕗の梅煮

蕗の薹と莖とを別別に茹でてから、葉は細かく刻んで絞りあげ、莖は皮を剝いて五分くらゐに切ります。それへ醬油と梅を加へて、一體に味のつくまで煮ればよいのでございます。

**注意。**東京の八百屋などで賣る水蕗といふのは、葉に苦味が少ないから、茹でて直ぐ煮ても差支ありません。しかし、自然生えの蕗の葉は苦いものですから、茹でてから一日くらゐ水につけておかなければなりません。何れにしても蕗には苦味のあるもので、老人はそれを喜ぶのです。

## ✿蕗の葉の胡麻味噌和へ

蕗の葉を軟かく茹でて極く細かに刻み、堅く絞つて胡麻味噌で和へます。これは普通の浸しものにしても美味しいものでございます。

**注意。**蕗の葉には非常にこわいものがあります。それを茹でる時には、重曹を少し加へると、鹹に軟かになつてようございます。

### ✿人參のしら和へ

人參を一寸くらゐの短冊形に切り、さつと茹でて醬油と砂糖で味をつけ、笊へあげて汁氣を去ります。別に豆腐を布巾に入れて輕く絞り、水氣を去つて擂鉢に入れ、よく擂ります。それへ砂糖と鹽を入れて味をつけてから、前の人參をまぜます。

注意。人參はよく冷めてから入れないと、豆腐が腐ることがあります。和へる時、人參の量が多過ぎると味が惡くなるから、少しづつ入れて、人參が豆腐て白くならないといけません。

### ✿菜のしら和へ

茹でた菜を細かく刻んで堅く絞り、薄く味をつけつゆ氣を去ります。和へ方は人參と同じです。

### ✿蕗の薹の甘煮

蕗の薹の外側の硬い莖と葉を取去つて、それを茹でこぼしてから、砂糖と醬油で味をつけます。

注意。蕗の薹は煮る前に一晩くらゐ水に漬けておいて、二三度水を取換へなければなりません。

### ✿ちり

豆腐をやつこに切り、普通の湯豆腐くらゐに水を入れ、魚の切身を加へて一旦煮立てます。魚の煮えた頃、魚と豆腐と汁少しとを深皿に盛ります。それに橙酢と醬油を加へたものをかけて食べます。

注意。これに用ゆる魚は、鯛、鮪、鰤、鰯、おこぜのやうな身の堅いものがようございます。橙のない時は藥種屋にあるポンスを用ゐればようございます。

### ✿油味噌（てつか味噌）

牛蒡の皮を削り、一分くらゐの輪切にし、極く軟かになるまで茹でて、笊へ揚げておきます。別に白豆を軟かくなるまで茹でて、これもよく水を切つておきます。別に鐵鍋に胡麻油を煮立て、その中へ前の牛蒡と豆と細かく刻んだ唐辛とを加へて、少し炒ります。それへよく擂つた味噌を加へ、砂糖で味をつけて食べます。

注意。牛蒡も豆も少し重曹を入れると早く軟かくなります。これは老人向きですが、若い人の口に合ふやうにするには、牛蒡も豆も茹でないで用ゐた方がようございます。

### ✿三辛漬

醬油の中へ、麹、鹽漬の紫蘇の實、刻んだ生薑、唐辛を加へて、よく混ぜておいて、麹が軟かくなつた時に食べるのです。その中へ鹽漬の茄子を二分くらゐの輪切にして、鹽水を絞つたものを入れて漬けておくのもようございます。



梅咲いて湯殿のづくれ直しけり

### ✿柚練

柚子のよく熟したものを皮も身も一緒に刻み、種子を取去つて鍋に入れ、それと同量くらゐの水を加へ、とろ火でその皮が軟かくなるまで煮ます。それへ砂糖を加へ、よく攪ませながら、焦げつかぬやうに煮ます。最後に醬油を少し加へ、また少し煮てから下すのです。

注意。砂糖と醬油の割合は適宜で、味がつくだけに入れればようございます。また人の好き不好きによつては、最初から醬油で煮ることもあります。何れ

にしても、その名の示す如く、よく煉るやうに攪きまぜながら煮るのです。

### 老人向のものは澤山ある

この他に老人の好きな料理は幾らもあります。例へば、から汁、納豆汁、胡麻汁、とろろ、かす汁、茶碗蒸、湯豆腐、いり豆腐、あんかけ豆腐などあります。伊豫で搾へるさつま汁は、世間でいふさつま汁とは違つてをります。

これは老人で非常に好まれる方がありますから、序に御紹介いたします。伊豫ではこれを搾へる時に限つて男子も手傳ふさうで、地方的のお料理といふことができるてせうと思ひます。

### 伊豫のさつま汁

擂鉢に白味噌を入れてよく擂り、その鉢の内一面に平に塗りつけ、逆さに火に掛けて燒きます。燒けると、それへまた白味噌を入れ、擂つて内は一面に塗りつけて燒くといふやうに、三四回繰返します。別に魚の骨や頭などを遠火で燒いて細かく刻んだのへ熱湯を注ぎ込んでから、その骨を濾して、汁だけ取つておきます。その汁で、前の味噌を普通の味噌汁より少し濃く溶きます。その中へ魚の燒身をむしつたものと、刺身をチヨツと醤油につけたものとを入れて、炊きたての御飯にかけて食べるのです。薬味には葱と陳皮とを用ゐます。

注意。これに用ゐる魚は、鯛、甘鯛、鮒鯽、燒香魚などがようございます。刺身のない時はその代りに蒟蒻を薄く切つて、チヨツと味をつけて入れます。松茸の節には、それを燒いて入れると美味しうございます。生魚を使ふ時には、一尾の魚の半分を燒いて、他の半分を刺身にします。また頭や骨は燒いて用ゐます。この燒骨の中へ米の白水を煮立てて入れると一層美味しくなります。

---

# 弦齋夫人の家庭叢談

一記者

### 小兒の病氣

記者『今日は何か有益なお談はありませんか。

夫人『昨年の秋、宅の子供がジフテリヤに罹りましたが、その時育兒上に就て注意しなければならん事を心附きました。

記者『それは何ういふ事です。

夫人『何でも小兒は、突然に咽喉が痛いといつたり、又は高い熱が出たり致したら、一刻も早く熟練な醫師に診察して貰はなければならんといふ事です。

記者『お宅のお子さんは何ういふ風にして御病氣におなりでしたか。

夫人『最初は三番目の男の子で十歳になるのが、突然熱が出て、何うしても下熱しません。原因不明の熱ですから醫師を聘して診察して貰ひましたが、何とも判斷が付かないので、一兩日過ぎますと、熱が四十度になりました。勿論熱があるといふのみで、咳嗽も出ず、咽喉も痛まず、ジフテリヤの容態は少しも無かつたのですが、その時醫師は餘りに熱が高いから咽喉を檢査しませうと云つて、仔細に調べましたら、咽の奥に白い義膜が見えます。それから直ぐにジフテリヤ血清を注射しますと、その功能は驚くべきもので、二日目には熱が下がり、三日目に檢尿した時には尿中に蛋白もあ

りませんでした。本人も子供の事ですから起きて遊び度がりますし、私どもも油斷して五日目位から座敷の中で遊ばしておきましたら、復た少しづつ熱が出て、檢尿すると蛋白が少しあります。それから再び病床に臥かして、嚴重に療養させましたが、僅か四五分の熱が頑固に續いて、全く下熱する迄には一ヶ月程かかりました。

記者『その間は何ういふ風に御養生をおさせになりました。

夫人『第一は食物です。後の熱は全く腎臟炎を起した爲めですから、西瓜糖を毎日飲ませて、食物は半搗米の粥と牛乳とを併用したのです。



土踏めば舟酔さめて春の風

記者『それは醫師の指圖ですか。

夫人『左樣です。初めは食パンも少し用ゐましたが、食パンには塩分が多いから良くない、牛乳のみを飲用させるのも害がある、お粥へ極く少しの鹽で味を付けて牛乳と併用するが良いとの事で、その通りにしましたが、次第に蛋白も減じて熱も去りました。

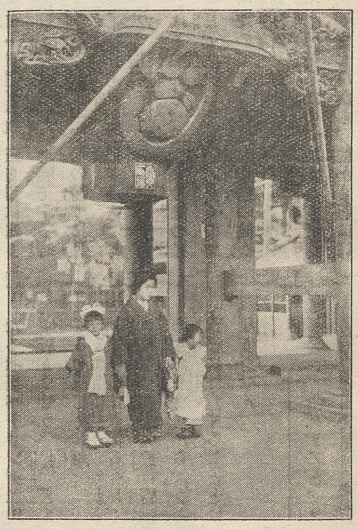
記者『昨年來東京附近にはジフテリヤが大流行で、往往子供を失つた人もあります。

夫人『不幸に終つた人の經驗を聞きますと、手後れになつて血精が効かなかつたといふよりも、一旦下熱した後早く遊びに出して激動した爲め、腎臟炎を起して仆れたのが多いやうです。ジフテリヤは下熱後の安靜療法が最も大切である事をつくづく感じました。

## ✿病氣の傳染

記者『お子さんの御病氣はお一人でお濟みになりましたか。

夫人『イイエ、その間に五歳になる末女が、少し熱が出ましたから、直ぐに病院に入れて注射を受け、嚴重に手當しましたら、是れは二十四時間の後全く下熱しますし、腎臟炎も起しませんで、四五日で全快しました。全く手當の速かつた爲めです。



大漁の繪額上げけり春の風

記者『速く手當するほど輕く濟むのですネ。

夫人『何でもさういふ時には一時間でも半時間でも速いほどが有効です。然し時期が速いとまだ何にもジフテリヤらしい症狀を起しませんけれども、少しでも熱があつたら豫防注射の心で手當する方が安全です

記者『それから外のお子さんは何うなさいました。

夫人『外に四人の子供が居りますから、豫防注射を實行しようか、それとも消毒を充分にして置いたから大丈夫だらうかなんぞと躊躇して居りました。ところが一ヶ月程過ぎると四番目の男の子が、咽喉が疼いと云ひ出しました。然しそ

の時は最早ジフテリヤの懸念も薄くなつて居りますし、感冒も流行しますから、感冒の爲めかとも思つて、兎も角も醫師に診察して貰ひましたら、醫師も別に心配はありませんと言つて感冒の藥を呉れました。その翌日一日過ぎて、三日目になりますと、咽喉が段段痛くなつて食物を嚥下する時殊に痛むと申しますから、モー一度他の醫師に見せましたら、少し怪しいから注射を致さうと、早速血精を注射しました。注射後になつて熱も出ましたが一晝夜の後には下熱して、是れも檢尿の結果、蛋白も無く、兩三日で全快しました。全くジフテリヤの初期であつたのです。それから他の健全な三子も同時に豫防注射を實行しましたが、此の三番目の子供は自宅で傳染したのでは無く、近傍にも同患者が多くありましたから、他から新に病毒を受けて來たやうに思はれます。

記者『隨分御心配をなさいましたでせう。

夫人『血精療法の發見されない以前ならば、それこそ生命の安危を氣支はなければなりませんけれども、血精療法のあるお蔭で、速く手當すれば全快すると解つてゐますので、その點は大層心强く思ひました。世間の親御さん達は此の療法の發明者たる北里ベーリング二氏に向つて如何計り感謝して居りませう。私どもも初めてその効驗の偉大なるを感じました。

記者『血精療法のある今日でさへ、不注意の爲め手後れになつたり、或は腎臟炎を起して不幸を招くものもありますから、早く醫師に診察せしめる事と、豫後に注意することとは何人も心得てゐなければなりません。

---

✿ダリアとゼラニウム

東京内藤新宿郵便局區内曉光園では、ダリアとゼラニウムを組物として販賣してをります。なほ詳細な定價表と栽培法とは申込次第お送りするさうです。ダリア十二種一組三圓二圓一圓。ゼラニウム十種一組三圓二圓一圓。なほ右註文者には草花種子十種より三十種までの景品を添へるさうです。




# 家の内の掃除

水島幸子

## ✿座敷の内は隅から隅まで

狹い部屋でも廣い座敷でも、取散らしたものがなくて、あまり人の入らない處なら、直ぐ采配をかけて、天井から、鴨居上、障子、戸棚の中、電氣または瓦斯の附屬品などの塵を拂ひ、隅隅に注意して掃き出せば宜しうございます。しかし、お客のあつた後の座敷や、子供の遊んでゐた部屋を掃除するには、取散らされたものを先づ片づけなければなりません。取散らされたものを片づける時には、後から出したものを先きにしまふやうにして、それぞれ元あつた場所に納めておきます。

家によつては、碁盤や謠曲机のやうなものを座敷の隅へ出してありますが、さういふものは、掃除をする時に、一旦わきへ除けて塵を掃き、再びもとへ納めておくやうにします。

## ✿子供の部屋は塵を檢査す

子供の遊んでゐた部屋には、玩具の壞れのブリキの破片とか、エプロンについてゐた釦とか、危ないものや入用なものが澤山落ちてをります。その他、大切な書類が破られてゐたり、チョッとした番地や電話番號の覺書とか、入用な廣告とかが取亂されて交つてゐることがあります。さういふものは、あとで塵を集めて塵取に取る時に選出すとしても、前に心づけて取除けておくやうにしなければなりません。愈よ采配を使ふ場合には、障子の音ばかりさせるや

うなことをせず、箒の眼を當てることのできないところ、例へば、押入れの棚とか、襖の引手とかいふところについてゐる塵までも拂ふやうにいたします。部屋によつては、序に煙草盆の中を掃いたり、机の上を整理したりしておく必要があります。

## ✿暗いところに念を入れる

その他、床の間の飾物、隅棚の置物、書架などは勿論のこと、茶器などを載せてある棚や袋戸棚は、殊に注意して、手早く掃き終ることが必要です。箒を持つた時は、面倒がらずに、幾度でも箒を下へおいて、疊の上にあるものを一旦除けて掃きます。掃いてしまつたら、またもとのところへおきます。紫檀の煎茶臺の下に新聞紙などをおいた時、再びその新聞紙を見ようとして引出すと、新聞紙の隅隅に**チリゴミ**がついて來るのは、無精な掃除をしてゐる證據でございます。

しやれた風呂前屏風の前の盆栽を誉めてゐると、その屏風の裏にたまつてゐる塵などが眼に入ることがよくあります。これは、あまり感心したことでありませんから、隅のところ、細かいところ、暗いところなどは、特別念入に掃き出します。

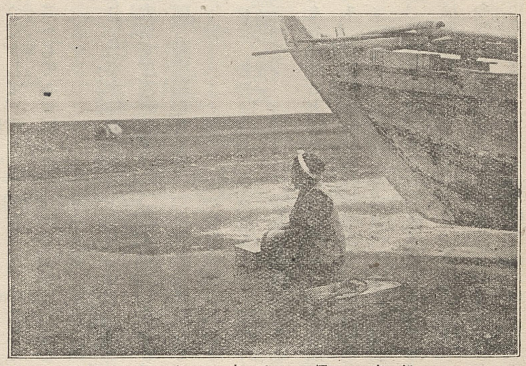
## ✿下手な人は眼を働かせぬ

箒や采配を使ふにしても、よく眼を働かして、綺麗になつたか、まだゴミが殘つてゐるかを見なければ役に立ちません。自分では殘る隈なく掃き清めたと思つても、よく氣をつけて見ると、なかなかさうはまゐりません。障子などとは、小間の棧の上に采配の當つたむらがあつたり、縁側へ出て裏を見ると引手に塵が溜つてゐたり、腰の横になつた木に塵がズウッとついてゐたりすることは珍らしくありません。掃除をした後で敷居の隅隅をよくみますと、綿のやうな塵が固まつてついてゐることがあります。かういふ塵は、毎日掃く時に、障子なり襖なりをチョッと片手で持上げて、箒で掃くか、采配ではたくかすれば、決して溜るものではありません。立派な座敷よりは、居間や茶の間の押入れの襖などに、かういふ注意が要ります。

## ✿縁側は板の並べ目に注意

縁側や廊下を掃く時は、板の並べ目をよく見ます。その板の繼目に隙があれば、そこにゴミが入りますから、箒を竪に使つて、その隙間のゴミをよく掃出すやうにいたします。雨戸の溝に掃き殘うの塵がないやうに注意します。

縁側の隅に傘や洋傘などを掛けてある家では、毎日掃除の時、采配で拂つておきます。それから、戸袋の上、雨戸の棧、廂の裏、霧除の横木などに蜘蛛の巣が溜つてゐないやうに、毎日よく拂つておかなければなりません。拭く時には、雜巾を固く絞つて、二三尺づつ拭いて行くのは申すまでもありません。



船底の蠣の手赤し春の風

## ✿便所の掃除は特別奇麗に

便所は狹いところですから、餘計に塵が溜ります。たとひお客用の便所で、人の出入が少ないとしても、座敷を毎日掃除するのですから、便所もその度に清めると心持がようございます。

便所を掃除するのは、さう汚い仕事でも面倒なことでもありません。ただ狹くて

人眼に掛り易いところですから、特別に天井の蜘蛛の巣を拂つたり、隅隅の塵を取つたりして、用を足す人の氣色を惡くしないやうにさへしておけばようございます。

それには、臭氣止めを忘れないことと、手水鉢の手拭を汚しておかないこととが一番大切でございます。手拭は洗つて糊さへつけておけば、幾度用ゐてもサツパリしてをります。

## あさかほは稀鹽酸で洗ふ

手拭の一枚や二枚に糊をつけるくらゐのことは何でもありません。幾ら小勢の家でも、洗ひ流しの御飯粒で十分に間に合ひます。

これは少し汚い話になりますが、**アサガホ**の洗ひ方をお話しいたします。この汚れは硫酸か鹽酸を稀薄布に浸して、手に藥のつかないやうに新聞紙などでそれを持つて拭きますと、綺麗に落ちます。

もし硫酸のやうなものを藥種屋で賣らなければ、その代りに稀鹽酸を用ゐても差支ありません。稀鹽酸ならば、手につけても恐ろしいことはございませんから、お試しになつて御覽あそばせ。

## 西洋間は敷物の目並みに

石炭を焚く**ストオブ**のある部屋ならば、第一に**ストオブ**から掃除してかかります。飾棚や置物をはたいてから床の上を掃く順序は、疊敷の座敷と變つたことはありませんが、敷物の目なみに箒を使はないと、よく塵が取れません。

西洋風の部屋には掃出し口がございません。それですから、塵は塵取へ取つて、後は廊下へ掃出すやうにいたします。それゆゑ、廊下は特別念入に掃かなければいけません。室内には、**テエブル**、椅子、長椅子、その他、廊下には、帽子掛、鏡臺、**ステツキ**や洋傘をおくものなどあります。これらは、それぞれ塵を拂ふか、光澤拭きをかけるかして、鏡の裏手、椅子の蔭、露臺、梯子の欄干の間などに少しも塵の殘らないやうにします。

## 臺所には采配は無用なり

臺所は食物を取扱ふところですから、掃除もよほど注意しなければなりません。戸棚の内はいふまでもありませんが、立働くところでも、采配をかけない方が塵が立たなくてようございます。しかし、天井や梁から煤や蜘蛛の巣が下るやうでは困りますから、さういふ時は采配でなく箒で掃き清めます。

棚や戸棚は、食物を入れるところでも、食器を入れるところでも、定めてある濕布巾で拭くとようございます。野菜類や薪炭類を入れるに用ゐる戸棚でも、掃くのは止めて、美濃紙で塵を掃寄せます。その時、鹽を少し撒くと塵が立ちませんから、塵を掃くために塵を立てるやうなことがなくて濟みます。

## 下水はササラでよく洗ふ

竈は薪を焚くのならば、煤のたまらないやうに掃除をします。炭を焚くのならば、炭の粉などが周圍へこぼれないやうに注意します。

板の間は、雨粒ほどの水もはねてゐないやうに拭いておきます。揚板の手かけの中には何時も塵が溜つてゐないやうにしておきます。

揚板の下は、炭箱にしても、糠味噌桶にしても、濕氣の來ないやうにして、周圍はよく箒で掃き清めておきます。そして、丁度下駄脫ぎの土間と同じやうに、何時も綺麗にしておきます。

最後に下水の掃除ですが、これは、下流しから茶殻一つでもまじらぬやうに、よく**ササラ**で洗つておかなければいけません。溝に米が流れてゐたり、洗ひ流しの御飯粒がたまつてゐたりすると、いかにも主婦が不行屆のやうに思はれます。

家の内は、玄關、座敷、茶の間、臺所の何れに依らず、掃除してしまつたら、必ず手落のあるなしを見直すことが肝要でございます。

# 西洋婦人の隠れたる苦心

實業之日本社長　増田義一

## ✿衣服の形の意匠に苦心す

西洋婦人の最も苦心するのは衣服と帽子の意匠ださうです。西洋婦人の衣服に對する愛情は、世界各國の婦人の中で、一番勝れてをるやうに思はれます。日本の婦人は、衣服の色合、縞柄、地質、模様などを吟味しますが、形が一定してゐるから、形の苦心といふものはありません。西洋の婦人は、衣服の形の意匠については、仕立屋へ頼む時、非常に苦心するさうて、私どもは日本人には想像ができません。中でも獨逸の婦人が最も苦心します。

私は、その話を聞いて服裝に注意してゐると、皆

## ✿流行は一年ごとに變化す

私は、それを流行の變遷だとばかり思つてをりました。大體はさうでしたが、それ以外に、細かいところを違へておいて、そこで自分の特色を發揮しようといふ思はくが加はつてゐるのだといふことが分りました。

流行も毎年變つてゐて、その度に新型があるのはいふまでもありませんが、その著しい一例は、婦人服の裾であります。以前は一般に裾を廣くすることが流行してをりましたが、先年それをすぼめて狹くすることが流行するやうになりました。

そのために、これまで大跨に歩いてゐた婦人は、小跨で歩かなければならなくなりました。從つて、いつの間にか、日本の婦人のやうに楚楚として歩くやうになりました。

ところが、西洋の婦人は、一般に背が高くて、男子と大差ありません。歩く時にも、足が長いので、やはり男子のやうに大跨に歩きます。

裾のすぼまつた服裝が流行するやうになつてからは、大跨で歩くことができないために、一時歩き方が違つたさうてす。それて、その流行も實際上不便であるといふところからして、今では廢つてしまつたやうです。

西洋婦人の間にも日本婦人のやうに晴着を拵へる競爭があるさうです。夜會や芝居などへ行くと、丸で着物の共進會です。それですから、交際場裡へ出る人は流行を逐ふために驚くほど衣服に金をかけます。

## ✿不用になつた衣服は賣る

西洋婦人は、折角求めた衣服でも、流行遲れになると、賣拂つてしまひます。それが田舎へ廻つて行つて、田舎の流行となるのです。

ここは日本などと違つてゐるところです。日本では、結婚する時に持つて來た衣服は、死ぬまで藏つて置く方が多いやうです。振袖とか、その他、涙手過ぎ

幾らかづつ違つてをります。例へば、釦の位置、胸の明け工合、襞積の折り方、或は紐のつけ方など、殆んど千差萬別です。

紐は、つけてゐる人とつけてゐない人とあり、巾の狹いのも廣いのもあります。その紐は、日本婦人の細帶を締めるのと違つて、緩く結ぶのですが、その結び方にもいろいろあります。後方て結ぶもの、前で結ぶもの、左で結ぶものなど、その位置は定つてをりません。その結んだのを下げておくものと、下げないものとあります。下げるにしても、一方を長くしてゐるものと、兩方とも同じ長さにしてゐるものとあります。

て着ることのできないやうなものまでも、箪笥に入れておきます。これは實に不經濟な、惜しいことだと思ひます。

西洋婦人は、そのやうな不經濟なことはいたしません。どんな衣服でも、不用になれば賣拂つてしまふ習慣ださうで、私もその方がよいと思ひます。

西洋の婦人は、衣服の表は美しいものを用ゐますが、裏は儉約する方が多いさうです。日本婦人のやうに裏地に絹を用ゐる方は割合少いさうです。西洋婦人は、見えないところを儉約する、即ち、できるだけムダを省く主義です。

日本の婦人は、衣服を拵へる時、見えないところへ金を惜まずにかける方があります。よく聞くことで、羽織の表より裏の方が高いなどといふ滑稽談があります。西洋の婦人にはそんなことはありません。

### ✿中流家庭の平常着は質素

世間では、巴里を流行の源としてをります。そして、佛蘭西の婦人は贅澤をするやうに思つてゐるが、實際は非常に儉約をしてをります。つまり自分の國で拵へたものを外國から來た人に賣りつけて、その流行を世界各國に廣めることに苦心してゐるので、世間で想像するほどではありません。勿論富豪だけは例外です。

西洋の婦人は一般に儉約なやうに思はれます。佛蘭西、獨逸、英國などの中流家庭では、平常服はつぎはぎをしたものを着てゐるといふ話を聞きました。しかし、そのつぎはぎは、チヨツと見ただけでは分らないくらゐ、巧妙にあててあるさうです。

### ✿衣服の色合は黑が多い

衣服の色合ひのうちで最も多く見受けるのは、黑です。これは容易に汚れ目が見えず、長持ちするといふ經濟的方面から來てゐるのであります。一說には、黑は背を高くして、姿をよく見せるから用ゐるのだといつてゐるのを聞きました。

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

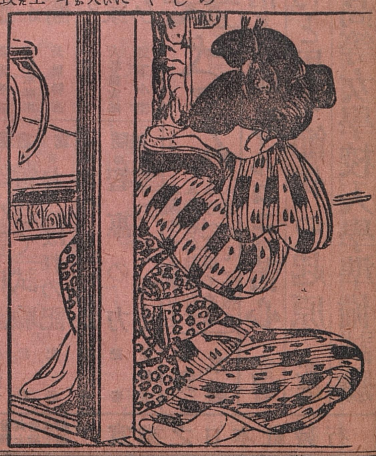
# 初めての緣談

嫌はれた時　望まれた時
女の方は是非此記事を讀め



生れて初めての緣談……耻かしいやら嬉しいやら無理に母親に勸められて、大學を卒業した斗りのさる文學士……と見合を致しました處……先方の仰には……アンナ色の黑いニキビソバカスで凸凹した炭團の樣な女……とマア何と云ふ慘酷なヒドイ御話してしよう妾は一室の內で三四日は泣き明しましたそれからドウカして此耻辱をソヽギたいものと永年の間苦心をして漸く發明した御藥の御蔭で生れ變つたように色白く美しくなり現今の良人から望まれて……結婚後は至つて樂しい幸福な家庭を造つて居ます其故此不思議な御藥を廣く皆樣に御敎へしますから色が黑いとかニキビソバカス吹出物で御困りの方は御遠慮なくハガキか手紙で御問合せ下さい

東京芝區田村町ワの六番地■橋本弘子■電話芝一六一四番



# 幼年の友

小學校より幼稚園程度の讀物として

子供を喜ばせるには

幼年の友に限る

桃の花のやうな三月號

幼年の友に限る

家庭を賑はすには

玩具と教育を兼た子供の友達として

壹冊十錢
郵税五厘
半年税共
五十八錢
壹年税共
壹圓十錢

東京京橋南紺屋町 實業之日本社 振替參貳六番賣捌全國書店



婦人世界の妹雜誌

# 少女の友

●見物席から出て國歌を唱へた少女 實業之日本社長 增田義一

●好つちやんは何處へ行つたの 東京女子高等師範學校訓導 北澤種一

●火鉢と煙草盆に就きて 實踐女學校長 下田歌子

動物植物畫報 三月の卷 理學博士 飯塚啓 理學博士 三宅驥一

三月號

小說 父と娘 澁澤青花
眞か僞か 三津木春影
實話 春の行衛 長田幹彦
天道樣ぐらゐ 一條みどり
物語 塚守の家 大谷德太郎
廻り合ひ 岩下小葉

漫畫 お小言日記 川端龍子
電話で試驗 記者
寫眞 およばれの記 記者
お化は世にあるものか 記者
隨筆 智惠の力 記者
雪のしづく 浦野雀

鼠のお婆さん
▲飼つてる鼠廿七
▲皆各名前を有す
▲呼べば出て來る
▲婆さんに抱る
星野水裏

●無線電信を發明したマルコニの苦心 記者

●女の節句と男の節句の起原 記者

●第七回＝高等女學校入學準備試驗

每號壹部拾錢 郵税壹錢半 增刊共七冊 共税七拾錢 實業之日本社發行

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

婦人手藝材料

實用新案第二二一八〇號
小笠原流 及●●造 熨斗折方標本 花書籍

東京九段坂
吉住商店

造花、繍、組紐、摘繼器
袋物、編物、糸ミ細工具
果工等細工材料

○書籍目錄御入用の御方は下方の切取に郵券二錢を添へ東京九段坂吉住商店へ申込まるべし

婦人世界三月號 切り取線

一冊凡ての場に合ふ役立つ本は

日本料理法

赤堀吉松 赤堀菊子
赤堀峰吉 三先生合著

季節に依り材料によりて毎日々々御覽なさい

大好評重版又重版
八版出來

▲定價七十錢
▲郵稅八錢
▲菊版大冊

野菜、海草、乾物、鳥獸、魚介類とあらゆる手近な材料を用ゐて、美味な營裁よい日常一切の料理を作る法を巨細洩らさず詳說す。著者の日本一の料理家なる事又言を俟たず。

發賣元
東京市京橋南紺屋町
實業之日本社
振替東京二二六番

黒は、多く露西亞、英國、獨逸で見受けました。米國には派手なものが多いやうです。英國の內地、殊にスコットランド邊では若い方に多く紫色のものを見受けます。米國の東部では萠黃色の地のものを着てゐるのを見受けます。それから、初夏の候には薄色の衣服を着て、白い靴を穿いて、輕い風味を現はしてゐる婦人を澤山見受けます。

## 西洋の婦人は派手づくり

西洋には日本のやうに春とか秋とかいふ氣候はありません。冬から直ぐ夏になるので、衣服も冬服から直ぐ夏服へ飛ぶといふ有樣です。夏と冬では多少化粧の工合が違ひませうが、概して西洋婦人は一般に派手づくりて、化粧なども濃厚にして、私どもは日本人には何歲ぐらゐか、チヨッと判斷のつきかねることがあります。

私が歸國する時、サンフランシスコから一緒に乘込んだフヰリツピンの婦人がありました。その婦人は、最初黒い衣服を着てゐたので、二十六七歲ぐらゐかと思つてをりました。ところが、ハワイ近くへ來ると、氣候が暖かくなつたので、白い服に着かへました。すると二十二三歲くらゐに見えました。それから暫く經つて桃色の服に更へましたら、十八九歲くらゐに見えました。

これは私ばかりでなく、同行の人人も皆さういひましたが、衣服の色合と年齡とは非常に關係があることを現はしてゐるのです。同時に濃厚な化粧も一つの原因であると思ひます。

## パナマ帽を被る婦人あり

帽子は日本の婦人は一般に被らないから、想像ができないでせうと思ひます。これは、チヨッと見ると單純なやうに思はれますが、よく見れば千差萬別で、同じ帽子を被つてゐる人は殆んどありません。やはり衣服のやうに流行があります。そして、西洋の婦人たちは、その意匠に苦心してをります。

材料には、麥稈、麻、蓑、木綿糸、絹糸、馬の毛、羅紗など、いろいろあります。それをさまざまの形に編んで被つてゐるのを見受けます。近頃米國の婦人でパナマ帽を被つてゐるものがあります。それは日本の男子の被るのと同じ形をしてゐて、ただ帽子の鍔が少し大きいだけです。

## ✿帽子の色合もさまざま

色合には、白、代赭、青、赤、綠、鼠、黒、桃色、紫、蔦色など、いろいろあります。

飾りに花をつける人と鳥の羽毛をつける人とがあります。

花は、薔薇、躑躅、水仙、菊など、いろいろの種類のものをつけます。果實も、棗、葡萄、石榴など、その種類は一樣ではありません。

それをつける場所もまた定まつてをりません。前につける人、後につける人、左につける人、右につける人など、好みによつて違ひます。

鳥の羽毛にも種類が澤山あつて、その上、つけ方にもいろいろあります。眞直ぐに立ててゐる人や、横に倒してゐる人や、前後左右などつける人の好みに依つて違ひます。

## ✿ピン一本でも違つてゐる

帽子の外から髪の毛へピンを通してをります。そのピンの頭へ寶石をつける人、珊瑚をつける人、貝殻をつける人、金屬類をつける人など、種種樣樣です。ピンの挿し方にも、先きを長くしてゐる人と短くしてゐる人とがあります。またピンの先きを止めてゐる人と止めてゐない人があります。濁逸ではピンの長さを制限し、且つその先を止めてあります。電車や人込みの内で、側にゐる人に當つて怪我をさせるのを防ぐためです。

西洋の婦人は日本の婦人より帽子だけ多いから、餘計に頭を使ふことになります。殊に、帽子の飾にする花とか鳥の羽毛とかいふものには、隨分苦心してゐるやうに思はれます。

## ✿頭髪は一般に白茶を喜ぶ

西洋の婦人は帽子に苦心するばかりでなく、頭髪にも苦心します。日本の婦人ですと、丸髷とか島田とかに結ぶから頭髪に注意する必要があるが、西洋の婦人は、帽子を被るから構はないやうに思はれますが、實際はさうではありません。

西洋の婦人は一般に頭髪の色が白茶で、毛筋が細くなつてゐるのを喜ぶさうです。日本では白髪を染めてゐる人はよくあるが、生れつきの毛を染めてゐる人はありません。西洋では稀に生れつきの毛を白茶に染めてゐる人があるといふことを聞きました。頭髪の薄い人は入毛をしてをります。日本でも入毛をするから、珍らしいことはないでせう。

## ✿鬘を吹き飛ばされた婦人

頭髪のことについては滑稽な話があります。私は、ひどい風の吹く日、米國のシカゴといふ都會を歩いてゐると、向ふから歩いて來る一人の婦人が、帽子を吹き飛ばされました。すると、驚いたことには、坊主頭があらはれました。

それまではさう年とつた人とも思つてゐませんでしたが、鬘が取れたのをみると、ひどいお婆さんでした。お婆さんは、

『頭の病氣をしたものですから。』

と言譯して、遽てて鬘を拾つて被りました。

それを見た人は皆口を抑へて通りましたが、私は非常に氣の毒に感じました。西洋にはかういふ例が隨分あるさうです。

✿お母樣お姉樣方へ

本社發行の『幼年の友』は、來る四月號から更に大刷新を施して、皆樣の御家庭をお賑やかにいたさうと、ひたすらに準備をしてをります。先づ新新奇抜の意匠に成れる二枚つづきの變り繪を以て巻頭及び巻末を飾り、頁數を增加し、繪畫を精選し、讀物に苦心を重ね興味ある應賞問題を附せるなど、すべて一面に於て教育的に留意すると共に、他面に於ては子供の興味を喚び起すことに骨を折つてをります。お子樣方をお可愛がりになるお母樣やお姉樣方に、是非ともこの幼年の友をおすすめいたします。

# 肥料のやり方

平塚農園主　磯部鋭

◎只今花を開いてをります草花は、**ゼラニウム**、**スノオドロップ**、**シネラリア**、水仙、福壽草などの類ですが、何れも露地では思はしくまゐりません。

◎今月は少し方面を變へて、肥料のことについてお話をしてみようと思ひます。

◎肥料は植物に最も必要なものですが、そのやり方を間違へたり、分量を誤つたりしますと、折角の丹精も水の泡になつてしまひます。また肥料のやり方の悪いために、高價な植物を忽ち枯らしてしまふことはよくございます。

◎近頃は化學の進歩につれて、化學的の肥料が澤山できましたから、そのやり方も一層むつかしくなりましたが、しかし、上手にしますれば、少しの肥料でよい結果を得ることができます。

◎少しむづかしいお話ですが、肥料には、窒素、燐酸、加里の三つの成分が含まれてをりまして、この三つの成分がおのおの異つた働きをいたします。

◎窒素は、主に植物の莖葉を繁茂させる力をもつてをりますから、野菜類などには最も必要なものでございます。窒素を澤山に含んでをります肥料は、硫酸**アムモニア**、石灰窒素、智利硝石、人糞尿などでございます。この成分は、大抵の植物に必要なものでございます。

◎燐酸は、植物の果實や花を養ふ成分で、これは、果實の味ひをよくし、花の色をよくし、香をよくいたします。燐酸肥料と申しますのは、過燐酸石灰、骨粉などでございます。

◎加里は、植物の莖葉を強くする働きをもつてをります。窒素肥料ばかり澤山にやりますと、莖葉が茂るばかりで弱くなりますが、加里肥料を交ぜて用ゐますれば、その心配はございません。加里肥料と申しますのは、硫酸加里、**カイニット**、草木の灰などでございます。

◎凡ての植物は何れもこの三つの要素が必要ですが植物の種類によつてその分量が違ひます。例へば、菊の類は主に窒素肥料を好みますが、果樹類や甘藷などは燐酸肥料が割合に多く必要です。

◎草花類は、第一窒素、第二燐酸、第三加里といふ順序にその成分が入用ですから、肥料をやりますには、その心して、窒素肥料五、燐酸肥料三、加里肥料二ぐらゐの割合に配合いたします。

◎桃や梨などのやうな果樹類に窒素肥料を澤山やり過ぎますと、葉ばかりが茂つて、果實を少しも結ばなかつたり、草花に窒素肥料ばかり澤山やつたために、莖葉が弱くなつて花が少しも咲かなかつたといふ話もあります。

◎肥料は、大抵の場合は、植物の根におかに觸れぬやうに施さぬと、害のあるものでございます。そのうちでも、硫酸**アムモニア**、過燐酸石灰、油粕などは、直接根に觸れると忽ち枯れてしまひます。

◎初めての人は、ただ肥料を澤山やればよいと思つて、よけい肥料をやり過ぎたために、植物を枯らしたり、茂り過ぎたりして、失敗することがあります。

◎肥料のうちには、速効肥料と申して、數日の後に忽ち効能のあらはれるものと、遲効肥料といつて、やつてから數十日も經たなければ効能のあらはれぬものとがございます。草花類や野菜類のやうに短い時日の間に生育するものは速効肥料を施しますし、果樹類や盆栽類には遲効肥料を施します。

◎速効肥料と申しますのは、硫酸**アムモニア**、智利硝石、人糞尿などですし、遲効肥料といふのは、油粕、魚肥などでございますから、遲効肥料を元肥にやり、速効肥料は追肥といたします。

◎記者曰く、平塚農園で製造販賣してゐる園藝肥料は、速効肥料松印が一袋二十錢、遲効肥料梅印が一袋十八錢、送料は何れも八錢でございます。お入用の方は、東海道平塚新宿同園へ。

# 誰にもできる寫生畫の稽古

川端龍子

## 寫生に適するのは鉛筆畫

誰でもよい景色に遭ふと、

『これはまるで繪のやうだ。』

といひます。それと同時に、この景色を繪に描いたらと思ふことがよくあります。

寫生といふものは、さうむづかしいことではありません。寫生帖一冊に鉛筆が一本あれば、誰にても直ぐ稽古することができます。

寫生によいのは鉛筆畫です。これは一番手輕で感興的で、また一番早く上達することができるからです。

寫生に入用な道具は、鉛筆、**ゴム**、寫生帖、水彩繪具、水筒、三脚ぐらゐあれば澤山です。

鉛筆は、堅いのより軟かい方が結構です。普通文房具店にある月印か鷲印で間にあひます。

**ゴム**は、十錢ぐらゐの、白か綠の軟かいものが一番よいやうに思ひます。

寫生帖は、畫學紙を小形に切つて、帳面に綴りあはせたもので、自分で作ることができます。二三十錢も出せば思ふやうな形のが買へます。

水彩繪具は、十二色並んで**ブリキ**の箱に入つたものが、五六十錢以上一圓ぐらゐで買へます。十二色のうちで早く減つてしまふものがあるから、さういふのは一本七錢の鉛管入りの繪具で補充ができます。

## 素人は掛茶屋が一番よい

水筒は野外で寫生する時、筆を洗ふ水を入れるもの、**ニッケル**製の小形の筒で、五六十錢ぐらゐで買へます。しかし、これは、藥の空瓶か化粧水の空瓶で間にあはすことができます。

三脚は、野外で寫生をする時に腰かけるのに使ふものです。これは、使用しない時は一本の棒になる便利なもので、土の上や草の上にぢかに腰を下すこともできませんから、寫生家にはなくてならぬものです。しかし、私は、あまり素人の方に三脚を薦めたくありません。これに腰をかけて寫生をしてゐるところをみると、あまり專門家らしく、高慢らしく見えるからです。素人はやはり掛茶屋の緣臺などで寫生した方がよいと思ひます。

## 最初は景物をありの儘に

材料がすつかり揃つて寫生を始める時は、最初はなるべく事物の形狀をありのままに忠實に描くことが肝要です。日本畫では、山などの形が少し違つてゐても、一筆に、所謂一氣呵成に塗りあげます。ところが、鉛筆畫では、山はどういふ勾配になつてゐるか、山の皺がどうであるかといふことを見て、その通りに寫生帖に寫さなければなりません。言葉をかへていへば、眼に映じたままを紙に移すのです。

それは、見方が馴れるに從つて、巧者にもなれば、面白い位置を選ぶこともできるやうになります。

また鉛筆畫は、物をなるべく簡單に描きます。寫生では幾ら叮嚀に濃淡をつけても、景色をそのまま現はす點では、とても寫眞には敵ひません。

## 寫生はまづ下圖を拵へる

しかし、寫眞には餘韻といふものがありません。寫生は幾ら簡單でも、どことなく面白味があります。それですから、風景寫生の場合には、たとひ輪廓だけでも、間違さへなければ十分です。輪廓が上達す

れば、ただ事物の周圍をあらはすといふばかりでなく、いろいろの感興が起つて來ます。風景を寫生する場合には、風景と寫生帖とを見較べて、山をどの邊まで入れれば、下の方はどの邊まで紙面に納まるかを見極めます。それが極まつたら、極く淡い線で大體の下圖を取ります。そして、豫定通りに紙面に欲らなければ、**ゴム**で消して直します。それができたら、なるべく暢暢とした力のある線で、下圖の線を辿つて描いて行きます。

### ✿繪具は上達してから用ゆ

その時、鉛筆の線がどこまでも一樣で、同じ太さの同じ濃さでは一本調子になつて行詰るから、遠いところのものは鉛筆を淡く、近いところのものは濃く強く描けば自然と遠近ができます。かうして大體にできあがつたら、近いところの黑い岩、日影の場所、暗い森など、眼に黑く暗く見えるところに多少濃淡のぼかしをつけます。

それが上達すると、鉛筆だけでは滿足ができず、繪具を使ひたくなります。繪具は最初一一紙に塗つて、よく色の性質を飮み込んでおく必要があります。それをできあがつた鉛筆畵の上へ、實際の風景と見較べて、空が青ければ青を、山が綠ならばそれに似寄つた綠を、岩が代赭なれば代赭をといふ風に、單純に眼に感じた色をつけます。

最初はなるべく色を混ぜ合さない方がようございます。馴れないうちに混ぜると、濁つた汚い色ができて、却つて畵を損ずるばかりです。遠近をつける時には、遠方の色は淡い色で、近いところは強い色で彩色するのです。

### ✿寫生畵の速習錄

青年畵家川端龍子君は、毎月**スケツチ**速習錄を發行して、全く繪心のない人にも寫生畵の稽古のできるやうに敎へて下さいます。規則書は郵券二錢封入して、東京府下大森新井宿一四五〇川端君方へ。

# 樂しかりし一夜

坂水とわ子

### ✿內輪同士の樂しき晩餐會

何時も誌上で美味しい料理のお話を伺つてゐる櫻井ちか子先生のお招ぎで、一月二十一日の夕方から東京本鄕彌生町の櫻井女塾へ伺ひました。お招ぎに預かつた人たちは、嘉悅孝子先生を初め、婦人世界と少女の友の同人を合せて七人、ホントニ水入らずの內輪同志の晩餐會でございました。

**ストオブ**の美しく燃えてゐる西洋間で、皆さんと樂しくお話をしてをりますと、

「お支度ができました。」

といふお知らせがありました。

長い廊下を幾つも曲つて、電燈の華かに輝いてゐる二階の食堂に案內されました。雪を欺くばかりの卓上掛けの上に、金仙花や水仙などが程よく水盤に盛られてありました。

食卓には先生のお心盡しの御馳走が運ばれました。私どもは、これまで經驗したことのない溫い樂しさを感じながら、**チキン**のお料理や海老の**ライスカレイ**などを頂きました。何れも結構なものばかりで、何方も舌皷を打たれました。**コオヒイ**の味はまた格別でございました。話はそれからそれへと移つて行つて、實に賑やかでございました。

食事が終つてから、別室に案內されて、お茶をいただきながら、無理にお願ひして、嘉悅先生と高信峽水先生の謠曲を拜聽いたしました。

曲は羽衣で、シテは嘉悅先生、ワキは峽水先生、謠に面白うございました。謠曲はいつ聞いてもお上品てよいと思ひました。それからまた一しきりお話に花が咲いて、九時頃にヤツと散會になりました。今夜はホントにいい保養をいたしました。

# 顔に似合ふ化粧

東京美容院長　北原十三男

## 嫌味のないお化粧がよい

お化粧といへば白粉を塗りさへすればよいやうに思つてゐて、着物の色合や、その他、いろいろの配合について苦心される方は少ないやうです。そのために、折角のお化粧も引立たなくなります。よく電車の内などで、顔には白粉をつけてゐるが、襦袢の襟などが垢て光つてゐたり、靴は何時磨いたか分らぬくらゐ白くなつてゐるのを、平氣で穿いてゐる方を見受けます。かういふのは何となくイヤな感じの起るものです。

たとひ木綿物でも、よく洗濯したものをつけてゐると、品がよく見えて、お化粧なども自然に引立つてゐるものでありませんが、ただ割合にその人の顔や容に似合つたよい色があれば、それを用ゐた方がよいと思ひます。そして、年をとるに從つて、多少その色の濃淡を加減してさへ行けば、その色一つで通すことができます。

## 結婚の見合に失敗した人

洋傘の色は顔の色に非常な關係があります。ある人が結婚の見合をする時に、厚化粧をした上へ勝色の振袖を着て、水色の洋傘をさしてまゐりました。すると、それまで大分進んでゐた話が急にいけないといふことになりました。その母親は非常に心配して、媒妁人に原因を尋ねると、婿方の人は、

『あの女は肺病らしい。』

といつてゐることが分りました。嫁方にはそんな血統はなく、本人も體量十四貫くらゐあるので、不思議に思つたさうですが、それはお化粧の仕方が惡かつたのです。その婦人は丸ぽちやなのに、青色の反射が來て長く見え、同時に顔の色が青くなつたので、かかる誤解を招いたのでせう。

## 白襟黒紋附に頬紅は惡い

さういふ時には、附添の人が氣を利かして、多少頬紅を用ゐるとか、洋傘の色に氣をつけて、あまり顔が青く見える時は、それぞれ方法を考へなければならぬと思ひます。ただ流行にかぶれて、本人を度外視すると、前のやうなことになります。

頬紅は、顔をいきいきさせるのになくてならぬものです。しかし、それは、變り色の紋つきの時は華やかでよいが、白襟黒紋附の時は斟酌しなければいけません。御大葬の時、ある貴族の令嬢が浮調子で不謹愼だといふ風評があつたが、それは浮調子にしたのではありません。平生のお化粧の癖で、頬紅をつけ過ぎたりなどしたからで、つまり色の配合が惡かつたのです。それですから、婦人は、衣服と顔の色合に最も注意しなければいけません。

# 歴史小説　靜御前

仰天子

## （六十五）

文治元年の十月七日に、源徒二位頼朝卿から、判官義經を討てよと命ぜられた法師武者、彼の土佐坊昌俊は、一族郎等八十二人を引連れて、十月九日に鎌倉を發足した。

所がその翌十日の夜半に、京の堀川館の門を、烈しく叩く者があつた。門番は寢惚聲で、

『誰ぢや。何用ぢや。』

『これは今出川のお館の下郎で御坐る。北の御方御急病に罹らせ給うて、今をも知れぬ御容體て御坐るゆゑ……。』

『やア、そりや大變ぢや。』

『殿をお迎ひ申しに出たので御坐る。』

『ては早速取次ぎ申すて、暫時待たれい。』

門番はばたばたと駈けて行つたが、やがて元へ引返し、門の扉をさツと開いて、

『殿は直樣參らせらるるて、お身まづ歸つて、その由を申されい。』

使者は心得て歸つた。

義經は急に支度を整へて、居合せた郎等數人のみを引連れ、馬を早めて、やがて今出川の館へ着き、出迎への侍女菊野に導かれ、鷲尾三郎經春に太刀を持たせて、急ぎ足に廊下を進んだ。

菊野は寢所の外まて行くと、緣側へぴたりと坐つて、そして義經へ聲低に、

『御病人は御平日と違はせられ、きつう人をお嫌ひなされて、來る勿と仰せられまするゆゑ、妾は此所より下りまする。就きまして、恐れながら、殿お一人てお入り下されまして、お供の方を、これよりお下らせ遊ばされたう御坐りまする。』

義經は頷いて、經春から太刀を受取り、菊野の開けた妻戸の口から、ずツと寢所の中へ入つた。菊野は直に後を閉して、そして經春を促しつつ下つて行つた。

『はて喃。春名はさぞ惱んて居やうと思うたに、夜の物も展べては無し、況して此所に、本人の姿さへ見えぬとは……。』

『御不審御道理て御坐りまする。』

と言ふ聲を先に立てて、春名の方は、屏風の陰から立現れた。

『これ、そなたは重い病氣と聞いたに。』

『實は殿の御身の御一大事を、内内お知らせ申さうため、故らに急病と言爲しまして、これへお迎へ申したので御坐りまする。』

義經は不興氣に、

『そりや不思議な事を聞く。そなたの身の一大事と思へばこそ、この夜中に駈付けたに、余の身の一大事を知らせやうと歟。それならば來て言ふ筈。呼寄するとは如何した事ぢや。』

『聞及びまする樣子ては、只今堀川のお館には、鎌倉より間者が入込んで居りまする由。故に御一大事をお知らせ申さう爲には、どうも參り難ねまする。それもこの姿より、お知らせ申すので御坐りまするなら、他の用に假託けまして、參る事もなりますれど……。』

『ては余に一大事を知らせうと有るは、そりや何人ぢや。』

『只今これへ。』

春名の方は急に立つて、さて次の間から、父河越太郎重頼を誘つて來た。

『やア、こりや舅殿、變つた所て……。』

『その後は、打絶えて御意を得ませぬ。』

『御分が我等の事に付き、わざわざ鎌倉表より。』

『然やうて御坐る。殿が御兄君より、御不興を受けられて以來、緣に繋がる身共とて、同じう御不興を受け申して、近頃は、とんと御目通りへ出ませぬ。

ぬゆゑ、直直に承つたては御坐らぬが、實に容易ならぬ事を耳に致した。」

「そりや如何なる……。」

「當月七日て御坐つたが、鎌倉殿がひそかに殿を討取れよと、法師の土佐坊昌俊へ、お命じなされた氣に御坐る。」

「えッ、兄上が我等を討てよと。」

「はい。」

「成程、こりや我が身の一大事て御坐る。尤も然やうな事もあらうかと、もう餘ほど以前より、うすうす察して居申したゆゑ、叔父新宮藏人（行家）殿と、内内相談る事も御坐る位て、只今御分より承るを、寝耳に水のやうには存じ申さねど、併し兄上が何故に、我等を然までに憎まるるので御坐るやら、實は不審に堪へませぬぢや。」

「それは梶原平三（景時）が、しばしば御兄君へ、殿を讒言いたした故て御坐る。」

「ん、奴が。」

「然やうて御坐るか。我等は奴の高慢の鼻ッ柱を、幾度も引ッ挫いて遣り申したて、定めしそれを根に持つての事て御坐らう。憎い奴めぢや。其奴の口に欺かれて、弟を殺さうとする兄上も、今更ならねど憎う御坐る。而てその討手は、何日頃參るて御坐らうか。」

「身共は九日の夕方に、今日これこれぢやと聞及んて、そりや寸時も捨置かれぬ。早う殿のお耳へ入れざ成らぬが、召使などへは命けられぬ大事ゆゑと、その時直様、内内に鎌倉を立ち申して、早打て途中を急ぎ、先刻當舘へ着いた事て御坐るが、昌俊とても、はや鎌倉を立つたて御坐らう。御當所へ着き申すは、何れ數日の内て御坐る。」

「ては油斷をしては居られ申さぬ。」

「その御油斷のならぬ義に付いて、他になほ一つ、申し上げて置く事が御坐る。今お館の雜色の内に、安達新三郎清經と申す者が、たしか居る筈で御坐るが……。」

「然やう。その者は兄上より、下郎ながら見所のある奴ぢやて、旗持にでもせよとて、わざわざ上された事て御坐るゆゑ、そのまま留めて召使うて居申すぢや。」

「それが鎌倉殿の間者て御坐るぞ。」

「なに、あれがッ。はて、あの新三郎は然うは見え申さぬが。」

「然うは見え申さぬ男ゆゑに、選んて遣はされたのて御坐る。お館には彼奴が居申すに依つて、それて身共は參らいて、殿をこれへお招き申したのて御坐る。彼奴に御油斷なさるる勿。」

「心得申した。能うお聞かせ下された。」

「然らば殿、お聞に入るる程の事は、これて盡さ申したて、もうお暇を……。」

「いや、そりや餘り御火急て御坐る。春名が本意なが申さうゆゑ、ゆるゆる御逗留下されよ。」

「内内て拔けて參つた事て御坐るて、どうも氣が急かれてなり申さぬ。やはり今より。」

「ては切めての事に夜が明けた後になされよ。」

「人目を憚る身て御坐るゆゑ、暗い内に、京を離るるが勝手て御坐る。」

「成程、そりやそれも御坐るて、今は强ひてお引留め申すまい。いや、舅殿、段段の御懇切、我等厚う受け申す。御途中御用心あつて、昌俊に出逢はぬやうになさりませ。」

「間道を參り申すて、その懸念は少しも御坐らぬ。然らば春名。」

春名の方の挨拶の聲は、訣別を惜しむ涙の爲に閉ぢられて、ただ首を下げるばかりてあつた。

重頼は、表門には義經の供人の居るのを憚り、我が從者を促して、ひそかに裏門から出て行つた。

## （六十六）

義經は、その翌朝院參して、大藏卿高階泰經朝臣に拜謁し、深く思ひ入つた體て、

『恐れながら、謹んでお願の義が御坐りまする。義經の叔父、新宮藏人行家義は、鎌倉の頼朝を討ち申さうとて、ひそかに謀叛を企てて居りまするが、それは何故かと申しまするに、頼朝がその臣下の者に命じて、行家を誅戮させやうと致す事を、本人行家が聞及び、如何やうの過怠があつて、この叔父を殺すのかと、立腹を致しての事で御坐りまする――至極道理な義で御坐りまする。扨この義經は、先には木曾義仲を討平げ、續いて平家を討亡して、世を太平に致した微功が御坐りまするに、兄頼朝は、うかと人の讒言を信じ申して、功ある義經を深く憎み、情なくも官位の奏請を故らに漏らし、また鎌倉へ入るを拒んで、無慘にも腰越より逐返し、なほ剰へ、酷くもこの弟に刃を加へて、殺さうと致す由の風聞が、しばしば耳に入りまするゆゑ、義經は、その我が身の難を免れ申さうため、既にこのほど行家の謀叛に、同心いたした事で御坐りまする。所が今は、ただ風聞では御坐りませいで、頼朝は土佐坊昌俊と申す者へ、義經を討てよと命じて、近近に上洛させまする事を確と聞取りまして御坐りまする。すなはち義經は頼朝と、いよいよ兄弟の縁絶えて、仇敵となつたので御坐りまするゆゑ、もう差控へては居られませぬ。急に行家と共に兵を起して、頼朝と雌雄を決せざ成りませぬ。依つて行家義經の兩人へ、頼朝追討の院宣を、只管賜はりたいので御坐りまする。何卒格別の御憐愍を垂れさせられて、是非この已む事を得ませぬ願を、お採用ひ下されたう御坐りまする。』

と專念に申し上げた。で泰經朝臣は法皇の御前へ執奏すべく、直に奥殿に入り、やがて元の座へ復られて、

『只今のそちの願を、無理からぬ事とは思召さるれど、併し叡慮に餘らせ給ふ御氣色で、何とも御即答は有らせられぬ。』

と頗る餘儀無氣に傳へられた。義經は今は是非なく、打悄れつつ退り出た。

さて土佐坊昌俊は、その月の十七日に、ひそひそと入京して、堀川館とは四町ほど隔たつた場所、佐女牛町の宿へ着した。

義經は、豫て斥候に出して置いた下郎から、時を移さずそれを聞いて、みづから詰責する爲に、昌俊を引立てさすべく、武藏坊辨慶を、直にその宿へ差向けた。昌俊は何氣ない顔をして、辨慶に連れられて來た。

『昌俊、和僧は何の用で上洛したぞ。』

『奈良の七大寺詣の爲に、わざわざ參つたので御坐る。某は元奈良の者で、七大寺へ宿願が御坐るに依つて、詣でたいと存じながら、近年平家追討の合戰に打紛れ、望みを果さずに居申したが、漸う身に暇を得ましたゆゑ、鎌倉殿の御許容を受け、斯う旅立つた事で御坐る。』

『えい、欺り者めッ。寺參りをする者が、八十二人といふ夥多しい同勢を、何で事事しう召連れやうぞ。實は和僧は、鎌倉殿の命を受けて、我等を討ちに來たのであらうが。』

『はて、こりや存じ掛もない事を宣給ふ。某奈良に在りし砌、興福寺の大衆と、睚み合うた事でござつて、憎しみを受けて居り申すゆゑ、もし小勢で參つては、僧兵に襲はるる懸念が御坐る。依つてそれを避くる爲に、我が一門の者を狩催して、召連れた迄で御坐る。』

『いや、然うではない。何ほど巧妙に言枉ぐるとも、その詞には決して乘らぬ。我等を討ちに參つたと申す事は、然る仔細あつて、確と聞いて知つて居るぢや。』

『恐れながら、そりや申した者の誤りか、或はお聞誤りかに相違ござらぬ。總じて世の人の詞も、當になり申さねば、聞く耳とて、當にならぬ事も御坐る。只今の仰せも同樣、當にならぬ沙汰で御坐るで、ただお聞捨て下されい。』

『餘計な指揮をするに及ばぬ。和僧は鎌倉殿の下知

を受けて、我等を討ちに參つたに相違ないて、決して無事に歸すまい。今庭上へ引出して、その坊主首を刎ねて與れるぢや。』

昌俊は斯う言はれても、更に驚した樣子はなく、落付き澄まして、

『ては殿、然やうにまて仰せらるるからは、口で何ほど申し解きませうとも、御疑念は霽れますまいゆゑ、寧その事、討手に參つたては無いとの起證文を、熊野牛王へ認め申さう。』

と言つた。この熊野牛王といふのは、紀州の熊野の社から出る神符で、一枚紙の表面に烏の形の印文が摺つてあるのだ。起請文を書く時は、その裏面へ書くのだが、書いた起請の文言に、萬一にも背いたら、忽ち神罰を蒙る事だと、當時の人はみな堅く信じて、非常に恐れて居たものなのだ。

て、義經は不審を抱いた。昌俊が自ら進んて、あらたかな熊野牛王へ起請文を書かうといふ樣子ては——神罰を恐れない樣子では、若や或は討手に來たのては無いかも知れない。自分か昌俊を疑つて、討手に來たと推察したのは、昌が知らせに來て呉れた故だが、その昌は、直に聞いたのてはないと言つた。すなはち又聞てあるからは、聞間違へて無いとも言へない。然う思ふと、今昌俊の言聞いた詞が、嘘てもないやうに取れるのだ。

『昌俊、和僧は確と起請文を認むるか。』

『この御面前で認めまする。』

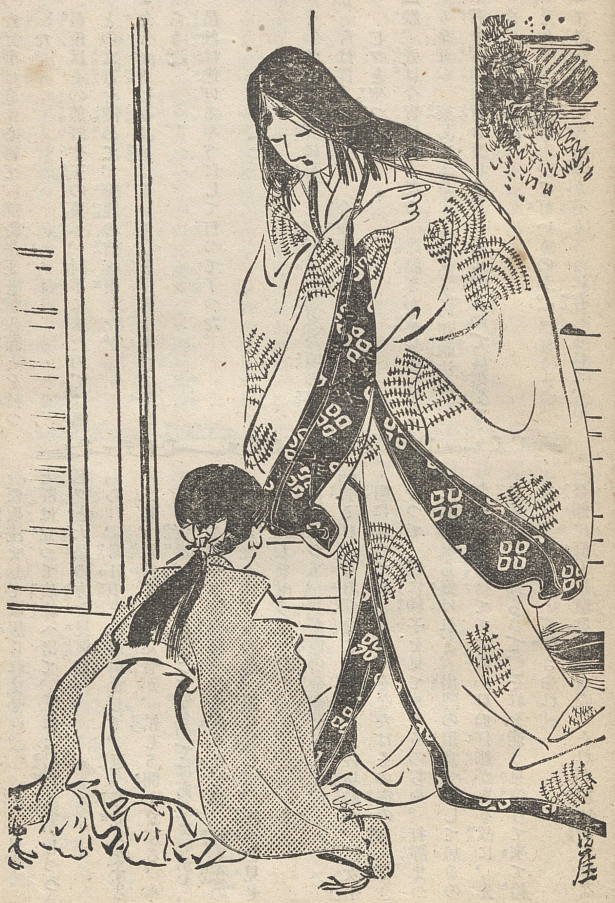
『神は詐りを免し給はぬて、もし認めた文言に背いたら、和僧嚴罰を受けやうぞ。』

『いえ、起請の文言に背く筈は御坐らぬて、御罰を受くる筈も御坐らぬ。故に何の顧慮する所もなく、書かうと申すので御坐る。』

義經はいくら問糺しても、昌俊の詞に少しの淀みもなく、何所までも筋を立てて、立派に答へるものだから、

『然らば書け。書いたら無事に歸らする。』

ときツぱり言つて、そして、傍に畳く靜の方を見返



つた。靜は直に心得て、熊野牛王と、硯箱とを持つて來た。

昌俊はその熊野牛王の裏へ、討手に來たのでは無いとの文言を認めて、義經の前へ出した。

『好し。今は疑ふ所はないで、勝手に引取つて好からう。』

昌俊は逃げるやうにして行つて了つた。

## （六十七）

その十七日は既に暮れて、初夜を過ぎた頃の事だが、靜は深く心配顏て、今寢床へ入つた義經の枕元へ、じッと坐つて、

『殿、妾は今宵は何となう、胸騷ぎが致しましてなりませぬ。察しまするに、今日のあの起請法師が、若や起請に背きまして、夜討に參るのでは御坐るまいかと……。』

『そのやうな事があつて好いものか。』

『でも妾は、何やら事が有りさうに存じられて、たく、つい僅に、四町ばかりの所へ行つたのだが、待てども待てども歸つて來ない。およそ一時ばかり經つても、やはり歸つて來ないのだ。

て、靜は尚いとど胸を騷がせつつ、今一人の童の銀彌を呼寄せ、先の金彌を迎へかたがた、同じく先方の樣子を見せに遣つた。所がその銀彌も金彌と等しく、またまた一時ばかり經つても、更に歸つて來ないのだ。

『ああ、こりや氣が揉める。何か異變があつたのに相違ない。兎も此のまま捨てては置かれぬ。是非また誰かを遣はさざ成らぬが、それには却て女子の方が……。』

靜は女中の部屋へ行つて、疾に寢入つて居た婢女を起し、能く言含めて見せに遣つて、そして自分は奥殿へ引返した。もうその時は更渡つて、すでに夜半頃であつた。

婢女は先の二人とは違ひ、速かに歸つて來て、奥殿の廣緣に兩手を突きつつ、急込んだ淚聲で、

『御前、大變て御坐りまする。』

『あれ、大變とは。』

『金彌殿も銀彌殿も……。』

『なにッ。』

『門の外に殺されて居られました。』

『え——ッ。』

『お可愛さうて御坐りまする。』

靜は忽ち淚を浮べて、

『ああ、そりや思ひも寄らぬ事ぢや。我が子のやうに不便を掛けて居た者が、加之も二人一時に……いや、今は歎いて居る時ではない。それを聞いては、一入先方の樣子が氣遣はしい。これ、金彌銀彌が殺されて居た外に、まだ何か變つた事があつたであらう。』

『はい。先方では、今宵夜が明くるまでに、奈良詣に旅立つのぢやとて、門の內の大庭に幕を引き、篝火を焚きまして、而てその幕の內には、影多しい武者達が、鎧兜に身を堅めまして、それぞれ鞍置だ取澄ましては居られませぬ。』

と靜は立つて廣緣へ出て、そして月影に透かしつつ、じッと大路の方を見渡し、

『あれ、常日頃とは違ひまして、巨う塵立ちまする上に、道行く人の足音が、忙しう聞えまする。やはり妾は、夜討を企てて居るのではあるまいかと、どうも然やうに存じられて成りませぬ。何も念の爲で御坐りまするゆゑ、損に致して、樣子を見せに遣はしませう。』

と內へ入つて、我が僮の金彌を呼んで、

『喃これ、今日鎌倉より來せた土佐坊殿が、佐女牛町に泊つて居さする。そなたはその宿の表へ行きやつて、窃に樣子を見て來やるのぢや。打靜まつて居るなら好けれど、出陣の用意でもして居るのおやと、打捨てては置かれぬ仔細がある故に、先方の人には知らさで、それを能う見達けて來て給もれ。さ、急いで行きやれ。』

金彌は直ぐに駈けて行つた。それが遠い所ではな

馬の鞍に手を掛け、今にも乘らうとする體て御坐りました。寺詣とは見えませんだ。』

『殿、殿、あれお聞き遊ばされましたか。』

義經はむツくり起きて、

『ん、聞いた。その使の者の申すとほり、寺詣に行くとは決して思はれぬ。あの殊勝顏の昌俊め、そちの推察したに違はず、今日の起請を反古にして、夜討を蒐くる事と覺ゆる。憎さも憎いは彼奴昌俊。不便なは金彌銀彌……。』

この時遲し。昌俊は八十二騎の武士を率ねて、どツと鬨の聲を上げつつ、當館の門前へ、はや既に押寄せて來た。

『殿、何と申す折の惡さて御坐りませう。今宵多くの郎等衆は、大抵外へ遊びに出られて、只今お館に居られまするは、わづか五六人かと存じまするゆゑ、禦ぎの程が覺束なう……。』

『いや、懸念に及ばぬ。あの嘘吐の昌俊め、何程の事を仕出來しをらうぞ。郎等が數人居るなら十分ぢや。余も參つて、速かに退治て呉れる——金彌銀彌の敵をも取つて得さする。』

と義經は寢衣姿のその儘で、弓矢を取つて出やうとした。

『あれ、敵をお侮りなされては成りませぬ。いえ、殿、それては餘り……。』

靜は强ひて出やうとする義經を、自分も强ひて引止めて、そして鎧を取つて着せた。

やがて義經が軍裝を整へて、車寄へ出た時は、館に居合せた五六人の郎等が、みな土塀へ攀上つて、禦矢を射て居るのであつた。

義經は直に門を開かせて、郎等を連れて外へ討つて出た。所へ遊びに出て居た郎等下郎共が、追追に馳歸つて、防禦の人數に加はつたので、小勢ながらも、討手の武者を射白ませて、やや勝色が現れた。恰も好し。新宮藏人行家がこの事を聞付けて、手勢を率ゐ、北小路東洞院の館から、一散に駈付けて、そして討手を後から攻掛けた。

昌俊は、只さへ攻倦んで居た處へ、この不意の襲撃を受けたのだから、今はもう一堪りもなく、自分も同勢も一時に、皆ちりぢりに逃げて了つた。

## （六十八）

折柄夜が明けたので、義經は今戰つた姿のまま、直に院の御所へ參つて、昌俊の夜討に遭つて遂逃げた事を、詳に奏聞した。その時自分の鎧には、恰て蝙蝠を見るやうに、多くの矢が立つて居た。

この義經の名將である事は、諸國の士民は言ふまでもなく、高位高官の方方とても、固より御存じであるのだが、斯う勇氣凜然たる姿を見られるのは、今が始めてであるのだから、みな何れも口を極めて義經を嘆美せられた。

さて法皇には、義經が去る十一日に院參して、賴朝卿を追討したいと願つた事を、その後大臣參議方へ御垂問あらせられて、いよいよ許させられる事になつたので、この時本人の義經へ、左の御書を賜はつた。

文治元年十月十八日　　宣旨

從二位源賴朝卿、偏に武威を耀かして、已に朝憲を忘る。宜く源朝臣行家、同く朝臣義經等をして、卿を追討せしむべし。

左大辨宰相宮亮藤原光雅　奉

義經は慨び勇んで退出し、やがて行家を請じ迎へて、ひそかに追討の評議に掛つた。

それから三日經つた後、思ひも寄らない鞍馬寺から、土佐坊昌俊を縛り上げて、そして堀川館へ引連れて來た。昌俊は行家に襲はれた時、堀川通りを洛北へ出て、遂に鞍馬山へ逃込んだのだが、惡い所へ逃込んだもので、鞍馬寺には、義經が幼い時に居た緣故があつて、同寺の僧徒は、みな所謂義經びいきで有るのだから、すなはち昌俊を生捕つて、義經の手へ突出したのだ。

義經は、昌俊を大庭へ引据ゑさせて、

『やい、昌俊、おのれ起請文を書きながら、それに

背いて、夜討を蒐けをつたが故に、忽ちに運が盡きて、然う虜となつたのぢや。奇驗な神罰を思ひ知つたか。』

『それは今知つたては御坐らぬ。豫て能う存じて居申す。ただ鎌倉殿の御恩を受けて、老いたる母を安穩に養ひ申すて、よし神罰を蒙らうとも、鎌倉殿の御命には背かれませぬ。依つて神罰を蒙るを承知して、夜討を致したので御坐る。』

と昌俊は立派に言つて、少しも惡怯れた樣はないのだ。義經は感じ入つて、

『流石選ばれて來ただけあつて、天晴な心掛けぢや。我が私心より言へば惜いが、その今の詞を聞いては惜まれぬ。主人に仕ふる程の者は、誰も和僧のやうに有りたい。就いては昌俊、もし一命を助かりたければ、繩を解いて助けて得さする。』

昌俊は斷然と頭を掉つて、

『いえ、この某は、鎌倉殿の御命を受け申した時より、はや既に、生きて還らうの念は御坐らなんだ。此度の夜討に敗けて後を見せて、鞍馬の山中へ逃げ申したは、生延びたうて逃げたては御坐らいて、再擧を謀らうとて御坐つた。然れど斯う絡められては、再擧の望みは盡き申した。今まづ假りに、助けられて再擧を謀るが好からうと、然やうに御意なさるるに致しても、殿のお慈悲で繩を解かれて、それを御恩に被申す事は、某金輪際厭で御坐る。ことに又、よし殿は恩に被せられいても、一旦繩を掛けられた身が、今更何の面目あつて、おめおめ生恥を晒し申さう。速かにこの首を刎ねさせ給へ。命は惜しう御坐らぬ。』

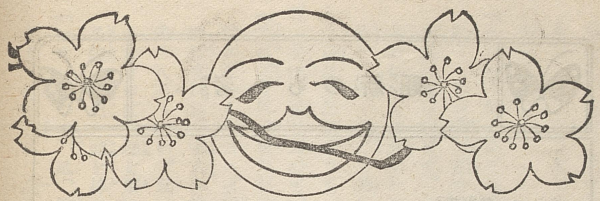
と言切つた。義經は、この忠勇の士を殺す事を、内心深く惜しみながらも、今は是非なく、郎等に命けて、六條河原で首を斬らせた。

鎌倉から入込んで居る間者、安達新三郎清經は、昌俊が義經に殺された事を、賴朝卿へ急報すべく、この日堀川館から逐電した。（つづく）

## 新題考へもの



摘草から歸つた春子さんの籠には、
柿をはいたものが幾つも入つてゐました。
ハテ何でせう。



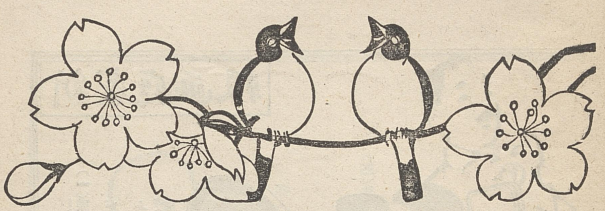
# 婦人世界「春季增刊」笑ふ門

三月五日發行

笑ふ門には福の神舞ひ込み、笑はぬ家には貧乏神來る。蛭二郎は笑つて鯛を釣りあげ、大黒天はニコニコして俵の上に坐る。昔聖賢額を鳩めて文字を作らむとせしに、犬あり、竹籠を冠つて狂ひまはる。その樣の可笑しきに、さすがの聖賢も腹を抱へて遂に笑の文字を案ずと。

天に星あり、地に花あり、季に春あり、人に笑あり、笑なき女は香なき花、聲なき鳥に似たらむか。人生の相場はタッタ五十年、十年二十年のお眼こぼしはあるも、百二十五歳は噂のみ、われ人ともに未だ望むべくもあらず、その無けなしの人生を苦蟲噛みつぶして過さむも、なんぼう氣の利かぬ訪ならずや。せめてのことに笑つて笑つて、福の神の御贔負にならむこそ本望なるべけれ。





實にや笑はこの世からなる極樂淨土、花咲き薫る天國にも喩へつべし。今や陽春三月、山は霞の袖かげに笑ひ、花は梢にホホと微笑む。人もまた負けぬ氣になつて笑はばやと、ここに『笑ふ門』を編むに至りぬ。

あまりグラグラ笑ふは品の惡いもの、況んや笑ひ過して顎を外されては誠に迷惑千萬なれど、せめては貧乏神よけのお呪咀にこの一本を友としたまへ。

なほ增刊『笑ふ門』には左の續稿を連載可仕候。

◎婦人の衣服問題……村井弦齋

◎銀笛〔小說〕……小杉天外

◎靜御前〔歷史小說〕……武田仰天



# 新家庭画報



(一)麗らかな日曜の朝、旦那様のお友達が御夫婦で梅見に誘ひに見えるといふお約束なので、二人はセッセと支度をしていらっしゃる。



(二)ところへ玄關でお頼み申しますといふ聲。

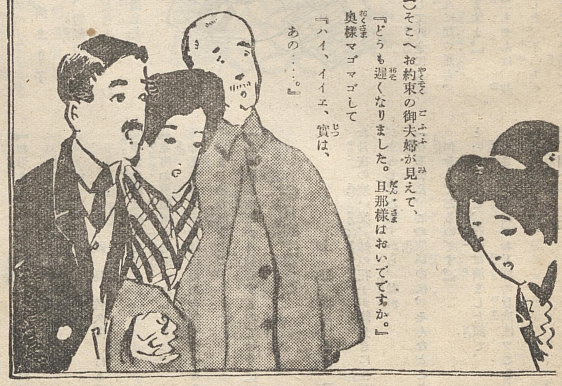
奥様『オヤ、いつもの長ッ尻のお客様ですよ。』

旦那『困つたなあ、お前うまく留守だといつて歸つておくれ。』



(三)奥様『アノ、今日はあひにく早くから出掛けまして留守でございますが。』

客『ハハア、さやうですか。シテ何れへお出掛けになりましたな。』



(四)そこへお約束の御夫婦が見えて、

『どうも遅くなりました。旦那様はおいでですか。』

奥様マゴマゴして

『ハイ、イイエ、實は、あの……。』



# 家庭笑話

## ☆お米が安いから

山口海田智惠子

湯屋から歸つて來たお姉樣が、
『この頃はお腹の大きい人が多いこと。』
と話してをりますと、女中がそばから、
『お米が安いからでございませう。』

## ☆エライ人の尻尾

青山木原たきの子

ある夜、繪本を見てゐますと、六つになつた武彦が、
『母さん、昔のエライ人は尻尾をさげてゐますね。』
といつて、義經の刀の鞘を指さしました。

## ☆下駄を貯金に

山口百濟まき子

今年四つになる不二ちやんが、親類の叔父樣からお年玉としてお金をいただきました。お母さんは、貯金の通帳を持ち出して、



『不二ちやんのお金は皆かうして貯金に入れておいて、不二ちやんが大人になつたら、よい着物を澤山買つてあげますよ。』
と申しました。その翌日、不二ちやんは、叔母さんから下駄をいただきました。不二ちやんは急いでそれをお母さんのところへ持つて來て、
『お母さん、これも貯金にして下さいね。』

## ☆試驗前だから

福島佐久間はま子

女中が奥樣に向つて、
『本町の呉服屋は勉強いたしますね。』
と申しますと、そばにゐた今年七つになる春子がまじめな顏をして、
『もう試驗前だから勉強するのでせう。』

## ☆日向ぼツこ

上野寺内くれ子

お月夜の寒い晩、妹の花子が緣先きに坐つてジツとしてゐますから、私が、
『花ちやん、この寒いのに、そんなところで何をしてゐるのです。』
といひますと、花子は淋しさうな顏で、
『姉さん、私は、お月樣のお日ぼツこをしてゐるのです。』
と、答へました。



## ☆お釜の鼻汁

筑後水野八重子

今年三つの長女、女中が御飯を焚いてゐるところに坐つてゐましたが、やがて御飯の吹きあがるのをみて、
『ねえやん、ホラ、お釜が鼻汁たれた、紙を、紙を。』
と、あわてて申しました。

## ☆目白が生える

京橋川瀨靜尾子

祖父が目白の籠を掃除して、その糞を肥料にといつて植木の根のところへ蒔いてをりますと、五つになる喜久夫が不思議さうに見てをりましたが、やがて、
『祖父さん、それを蒔くと目白が生えるの。』

## ☆嬉しがつてる

久留米宮崎蝶子

祖父が鳴をグヴグヴ鳴らしてゐますと、五つになる芳子が、
『なぜグヴグヴいふの。』
と尋ねますから、
『それは嬉しがつてゐるのです。』
と申しました。ある日、祖母が大鉢で蕎麥をしてゐますと、芳坊が、



『おばあさんが嬉しがつてゐるよ。』

## ☆お父樣のお嫁

三重小野晉枝子

今年五つになる秋子を縫間に寢かしてをりますと、何時もより遲れて主人が學校から歸りましたので、

『お父樣がお歸りだからお夕飯を上げて來ますよ。あなたはおとなしく一人で寢ていらつしやいね。』
といふと、秋子は不平顏で、
『イヤなお父樣ね、早くどつかへお嫁にゆけばいいのに。』

## ☆羽織がない

東京府初方芳子

昨年の暮、主人が、羽織をこしらへなければ人樣の家へゆかれないと申しましたのを、六つになる武夫が聞いてゐて、お正月よそのお家へ遊びにまゐりました時、そのお家の奥樣が武夫に向つて、
『坊ちやんのお父樣はチヨツともお見えになりませんね。』
と仰しやいますと、
『坊のお父樣は羽織がないから、どこへも行かれないの。』
と申しましたので、赤面いたしました。

# 我が家の實驗

## 割れもののつぎ方

茨城　海老振　きよ子

玉子の白身と小麥粉をまぜて、普通の糊ぐらゐに練ります。それを割れ目に塗つて三時間ほどおきますと、チヤンと着いてしまひます。瀬戸物でも木の器でも何でもつきます。

## 錫の德利が割れる

丹後　江丸きく子

錫の德利が罅んだ時は、その内へ豆を入れて水を張つておくと、豆のふくらみて德利の罅みがなほると聞きましたので、その通り試めしてみましたら、豆の分量が多過ぎたため、ふくれ過ぎて、德利が割れてしまひました。

## 酢の中へ鹽を入れる

德島　小西花枝子

酢を使ふ時には何方も砂糖をお入れになりますが、私どもては、夏蜜柑に鹽をつけて食べることから思ひついて鹽を入れてをりますが、大層酢の味がよろしうございます。近頃では、五目ずしにも、なますにも、必ず鹽入の酢を使ひます。

## 蜜柑を永く貯へる法

伊勢　濱浪よし子

私どもては毎年蜜柑が澤山生りますので、その貯藏法にいろいろ苦心してをりますが、籾殻の中に蜜柑を入れ、桶のやうなものに詰めて保存しておきますと、暖かくなるまて味よくいただかれます。

## あられを砂で炒る

伊豫　菊池俊子

細かい砂をよく洗つて乾かしたものを焙烙に入れ、一二分ぐらゐの厚さに敷きます。その砂のよく燒けた上へあられを入れて、掻きまぜながら炒りますと、軟かくムラなく膨れます。

## 火鉢の炭がはねたら

德島　村上ふじ子

火鉢についだ炭がバチバチ撥ねて困る時は、鹽を一つまみバラバラと上から撒きますと、ぢきに撥ねなくなります。

## 鳥の羽を抜くには

島根　小島好子

鳥の料理をいたしますのに、とかく羽毛を抜くのが面倒なものです。それには、ぬるいくらゐの白水に少し酢をさした中へ鳥をつけておき、暫らくしてから引出して羽毛を抜きますと、一度に造作なく抜けること奇妙です。

## 美味しい牡蠣のスウプ

神戸　和田津宇子

五合ぐらゐ入る鍋に、**バタア**を大匙一杯と、**メリケン**粉を同じく一杯入れます。別に玉葱を刻んで、その中に入れ、牡蠣七十匁ぐらゐと牛乳四合ほどとを入れ、鹽と胡椒でよい加減に味をつけます。それを火にかけて、煮立つて來たら、上に浮ぶ泡を取つて出しますと、美味しい牡蠣の**スウプ**ができます。

## 絹物をほどく時に

東京府　西　ひさ子

絹物の衣服の古くなつたのを解く時に、とかく糸の抜けないことがよくあります。その時は、顯で二三度こすつてから抜くと容易に抜けます、また或は**額**て二三度こすると抜け易いと仰しやいますが、何れもよいやうでございます。一度お試めしなすつて御覽あそばせ。



# 短文

## 壹等

### 附木舟　神戸　喜多村勝子

次郎さんの附木舟は池に浮びました。波も靜かな好い日和、足許にはジョンが尾を振つて見てゐます。次郎さんの愛らしい手は、舟を沖へ突きやりました。舟は小波を立てて出て行きました。暫くすると、舟は止りました。花瓣がどこからともなく一二片、胡蝶のやうに舞つて來ました。次郎さんはニツコりして、緣側の私を見上げました。

## 貳等

### 春の悲しみ　大阪　商名そよ子

鶯が死にました。紅梅のうら寒い夜明けにその小さい歌袋の歌を噎きしぼつて、とうとう鶯が死んでしまひました。

私の手箱の内には、美しい胸に湍ち春の感情を溫ひつくした彼の死を、悼み悲しんで唄つた妹の歌が一杯あります。けれども、鶯の美しい聲は最早や聞くことができなくなりました。

## 參等

### 友の死　越中　上水つゆ子

お文さんの艶やかな姿——それはもう見られなくなつた。冷たい風が歔欷するやうに庭に流れて、山茶花が音もなく散る夕であつた。

『錦さん、お身體をねえ。』

これを最後にあの世へ去られた。朗らかなお聲、涼しいお瞳、紫やかれた細やかなお腰——それらは、かうして思ひに沈んでゐる私の眼の前へ幻影のやうに浮んで來る。

## 秀逸

### 春の歌　京都　淺田かほる子

今朝の霜は多いに相違ない。氣のせいか、今日の唄は凍えてゐるやうな氣がする。

唄の主はお雪といふ十四の娘、國は越後の片田舍、そこには一人の母親が病めるとか。

### 俘虜　朝鮮　若松げん子

曉鴉ねぐらに歸る夕であつた。

彼れは木嵐吹く野邊に立つて、徒めしげに空を瞰めてゐた。そして、遠い西の山に落つる夕日を眺めて、何事をか呟いてゐた。

『俘虜が、俘虜が——。』

と、鞄を下げた少年の一隊は囁きながら通り過ぎた。その頭の上を一羽の雁が列を亂さず西の方へと飛んで行つた。

### 日曜の朝　福岡　有吉繁子

白菊酒のやうな日光が甘く降注いで、オツトリとした氣分になつた。妹は緣側へロシア更紗の座布團を敷いて、刺繍を始めた。

紅い、ロオマンスに包まれてゐる無邪氣の顏を見てゐると、わけもなくいぢらしい思ひが込みあげて來た。

私は、いつまでもこんな早春の光を浴びてゐたらばとシミジミ思つた。

### 春雨の朝　淺草　渡邊とよ子

今日は踊りのおさらひの日。

湯上りの心地もすがすがしう、茶座敷の丸窓に凭つて爪を切り出した。

シトシトと前の沈丁花の葉を濡らし、枝に雫し、芝生を濕もし、白く烟る池水に小波を立てて、春雨が降つてゐる。

お師匠樣の門の柳も、今日はわけて美しいであらう。

鶯も啼かぬ靜かな朝である。

### 二月　臺北　釘宮春世子

臺北の二月——去年の十一月から毎日のやうに小雨が降り續いた陰氣な雨期は、この月で終るのである。何だか嬉しいやうな心地もするが、騷がしい暑い時期が來るのかと思へば、靜寂な冬が懷かしくもなる。

私は、子供の破つた障子の穴から吹込んで來る冷たい風に吹かれながら、わが家の夏の生活を思ひ浮べてゐた。

### 鶯　靜岡　泉きよ子

茶の間には朝御の膳がその儘になつてゐた。良人は書齋に、妻は炊ぎの間に、淡い怒を昧ひながらつくねんと坐つてゐた。

突然庭に鶯が鳴き出した。あの小さい身體でと驚かれるやうな高聲が、シンとした家の隅まで行渡るやうに聞える。

妻はふと立つた。そして、書齋を覗つた眼は差しさうにニッと笑んだ。

### 木枯の夜　伊勢　平野秀子

父と町總代との間に暫し爭論がありました。やがて輸しい父の聲で、

『私の一票は私の意志の表象です。私は斷じて全人格と市民とを賣るに忍びません。』

といつて、昂然と起上りました。私は、先程から母の憂ひ顏を眺めつつ、明日學校でお友だちに逢ふ悲しさを思詰めました。

外では木枯が吹いてをります。

左の方方のお作は皆よくできてをりました。

大阪　中島　靜子　　新潟　平石すま子
大阪　宿名いわ子　　京都　山添たみ子
東京　本橋八重子　　富山　野崎ふさ子
越後　渡邊きく子　　愛知　中野　梅子
能登　梶　冬子　　常陸　三木さち子





美しい玉を詩いたやうに、紅梅は初春の日を受けて微笑んでゐる。床しい香に身も心も浮き立つやうである。

三味線草の生えてゐる野道をトボトボと若い女の順禮が行く。懷かしい鈴の音が、まだ新らしい編笠の下から洩れて來る。

幸ちやんは、心持ち紅らんだ頰に優しい笑くぼを湛はせつつ、緣側で『春の歌』を歌つた。

### 或日の午後　筑前　日下部春那子

八手の花のこぼるる匂ひが、雨上りの日向から忍んで來る。糸子は、帶の間から小さい時計を出して、針の運びを瞰めた。

『まだ二時——。』

障子には何か凶兆でもあるやうに、雲が跡いた。ふと糸子は冬の夕風が奏でてゐる低音の中にでもゐるやうな頼りなさを感じた。

### 機織唄　群馬　新井みね子

『見たい見たいよ親の顏見たい、親もこの顏見たからう。』

今しがた五時打つたばかりなのに、また裏の井戸端であの唄を歌つてゐる。昨夜の寒さで

# 和歌



## 壹等

○　岩手　菊地さと子
あまた來てわれをめぐりて歎かするかのかるはずみこのかるはずみ

## 貳等

○　東京　保阪あさ子
火を吐きて漆間さびしき夕べなり母といさかひ野にいでてみる

○　三重　佐佐木眞佐子
棧敷なる舞妓をのみぞ見つめます君がかたへに悲しうも居る

## 參等

○　上野　桐野勝枝子
ほそぼそとひともと青きひかげ草春くればあはれ花つけにけり

○　山梨　小田切咲子
おとなしく人に從ふ安けさを漸く知りぬ二十五の春

○　久留米　大野とき子
叱られて泣きつつ壁に父にくしなどと書きたる日のなつかしさ

## 秀逸

○　宇都宮　大谷しん子
いひ切りて心の奥にいと强き覺悟を覺ゆる快き笑み

○　福岡　島津幸枝子
よきひとのたまふときのくちもとをまねて語るがならはしとなる

○　新潟　戸島静枝子
思ふさま飛び上りみんと思ふかな一筋道にあきし心は

○　仙臺　齊藤すゞえ子
君と月と春向に泣けば我が前に月見草かやはかなげに咲く

○　群馬　古木まつ子
何事も皆あきらめてつつましく衣縫ふ外に何も用なし

○　福島　磯貝かほる子
さらぬだに未練ののこる別れ日になど髮など結うて來ませし

○　東京　橋本登都子
雀の子いと大なる天地に伸びんとしつつ忙しげに啼く

○　茨城　伊藤やよの子
春の低き子がいぢめられ塀に來て悲しくも泣く北風ふく日

○　香川　佐野信子
悲しきはなげ出されし人形のひとみにうつる春のともし火

○　長野　山田くに子
世の並の母を持たねば弟はとりわけわれを賴るあはれさ

○　京都　都路桂子
主のなき枕抱けばこの乳のはるにまかせて泣かれぬるかな

○　鎌倉　村岡みち子
わがいこふ相摸荒磯の岩づたひ幕巖の中にせきれいの鳴く

○　前橋　根本よし子
寒き朝炬燵に入りて眼を閉ぢぬほのかに匂ふ下宿屋の梅

○　奈良　中川まさゑ子
君ゆゑに若き生命もあげまきの髮の匂ひもものうしや君

○　名古屋　中島咲子
連翹の花にほださるかなしみは小さき弟の骨となれる日

○　京都　苑樹いく子
親しまぬほどに別れてひそやかに物を思ふに如く事はなし

○　弘前　細谷琴子
みどり子に乳房ふくませ事もなげに君と語らふ我となりしか

○　奈良　奥村孝子
彼の女二十歳になりぬ嫁入りぬ我も二十五の分別の春

○　京城　荒木てる子
ざぶとんの上にみかんのかはちれる男暮らしの家の長閑けき

○　大阪　加藤榮子
春の夜わが心をばささへうるものの一つもなきが悲しき

○　神戸　小西みちの子
君ゆゑに母といさかひ街に出ずしみじみ冬の寂しさを知る

○　信濃　一柳夏子
縫ひかけて絆の色糸の足りなさにこころ淋しき一日なりけり

○　越後　長井いと子
何事も母の言葉にそむかぬが女なる身の道とは聞けど

○　越後　田下とし子
兄君は髮のびしまま刈りもせでものを少なく言ひ給ふかな

○　岡山　佐藤やえ子
師の君はかへりましけり日は暮れぬ我がこの心證きどころなし

○　伊豫　笛内照子
我が夫は色白き人まる顔の笑くぼを作る愛らしき人

○　松江　神西みや子
若くして俯ぶることをぞ覺えつる人の生命の悲しまれけり

○　青山　柏木雪子
劇場の石のきざはし君とふむこころよさ哉春の雪ふる

○　島根　加納愛子
和かき春の日うけて靜近く君が衣縫ふことぞ嬉しき

○　横濱　吉田銀子
肩上はおろされてありぬ八日あまりひとり旅して家にかへれば

○　東京　戸田もも代子
わが命しひたげられしそのままに蔭によろぼひ白き花咲く

○　小石川　鈴木富美子
たまたまにひらめく君がおもかげをいのちとたのみくらき世に生く

○　延岡　今村波子
何となら淋しき夕べいねし子のかたへにありて君に文する

○　土佐　宮内ゆき子
なつかしき匂藥の芽の紅よ我が初戀の夢によく似て

○　福岡　日高たよ子
母上とおしの妹と病む吾れと心へだてのなき春の家

○　群馬　草壁信子
思ひわび仰げばいつも大赤城ゑまひて立てりよなくうれし

○　長崎　三上まさ子
耳鳴りのいと遣瀬なき春の夜をラジヲの灯かげに里戀ふるかな

○　朝鮮　稻葉とみ子
白ちやけし小さき緑の目だまりに猫などのゐて冬け淋しき



# 俳句

## 壹等

春の山重なり合うて皆丸し　千葉　齋藤清子

## 貳等

孕み魚動かず水の温みけり　福岡　大坪きく子
麥踏や花の都に尻向けて　東京　東條あい子

## 參等

鞦韆に大きな富士を眺めけり　東京　荒木鶴江子
まだ耳のしもやけ癒えぬ餘寒かな　豐後　瓢袖子
鼻かめば耳塞がりて春寒し　香川　三谷幾枝子

## 秀逸

久し振りに姉と寢ねけり雛の宵　埼玉　久保田利子
春の夜や笑うて櫛を落しけり　佐賀　久原きを子
春風やのの字のの字の鉋屑　横濱　吉田銀子
今朝もまた廻り道しぬ春の水　北海道　荒井春子

年頃の片輪の姉や春寒し　佐賀　石井すみ子
鶯に朝寢してゐる男かな　鳥取　三谷美津代子
誰になとあづけて寢たし今日の月　群馬　星野なか子
雨に名を得し唐崎も今日の月　茨城　林いわ子
白酒の夢美しき一夜かな　京橋　坂本文子
蝦夷といふ名にふさはしや朧月　北海道　宮城春子
人形の片眼つぶれて春寒し　福岡　平山澄子
戯にあきて浮虜にながし春一日　熊本　福田陳子
母となりて苦あれど樂し春の旅　名古屋　松岡ゑい子
梅活けし床に戍申の詔書かな　筑後　原松野子
四五軒の在所つつむや桃の花　周防　原田泉子
糸卷の糸のほつれや春の風　新潟　金子滿壽子
捨てられてつれなき部屋や春寒し　愛知　鈴木れい子
春雨や小さんを聞きに集ふ人　本郷　原琴子
春の水嵯峨の小家を繞りけり　上總　小川恭與子
笑はれて云ひ直しけり福は内　群馬　淺野こう子
寮の灯は皆朧なり春の月　新潟　金澤ふみ子
小日向に猫の背のびや午近し　盛岡　菅野よし子
冬構障子の破れつづりけり　奈良　奥村孝子
功なりて歸る故郷や山笑ふ　越中　義浦富美子
ねころんで語る二人や山笑ふ　朝鮮　齋藤榮子
草餅や今日は座敷も野の匂ひ　上野　磯貝とき子
陽炎や五條の橋の擬寶珠より　東京　岩崎和子
よき嫁を娶りし家や桃の花　福井　廣瀨久子
若竹やどれが尺八火吹き竹　愛知　高橋つね子



梅が香にうかと覗くや知らぬ門　愛知　榊原茂子
桃の寺石段長き疲れかな　名古屋　中島咲子
取れかかる足袋のコハゼや春寒し　滋賀　高木茂子
ゆづり葉の莖うす紅し春の雪　福岡　深川つね子
朝寒き川にちやわんを洗ひけり　東京　小林ひろゑ子
白梅や事務閑散の村役場　東京　松井たまき子
春雨や京の娘の大欠伸　京都　東井重子
下駄はいて萬歳かへる二月かな　山梨　堀江さと子
雛抱いて寢る子を抱いて寢たりけり　横須賀　原梅代子
弟も兄に加はる雪合戰　茨城　奥津てい子
ごうごうと電線唸る夜寒かな　茨城　大川みや子
古池に鳥の拔羽や春寒し　上野　古木しげ子
陽炎に角なき鹿の眠りけり　京都　山添たみ子
逝く春や別れし夫の影淋し　廣島　清住ちさを子
桃咲くや庭に竹割る桶屋の子　長崎　林糸子
三夫婦の健にゐまして雜煮餅　旭川　尾川葩子
春風やまだ癖やまぬ懷手　神奈川　櫻井ゆき子
御籤ひけば大吉とあり初詣　北津輕　角田ちゑ子
いつのまに嫁ぎし友や梅の村　大阪　大北千代子
妹にイロハ教ふる炬燵かな　熊本　稻村かな枝子
よく似たる家ならびけり桃の里　大阪　喜多修子
春寒の鸚鵡つついて鳴かせけり　常陸　薄田しげ子
乙鳥や小切れ賣り來る廓町　東京　井上藤子
二の腕のいささか寒き汐干かな　土佐　楠瀬いと江子
猫通ふ障子の穴や春の風　茨城　中村よし子

縛めて鳥の爪切る餘寒かな　栃木　福原りん子
暮切れを歸る子役や春の雪　東京　別役よしゑ子
行くゆくは子にする姪に雛祭　尾張　春野まさ子
春の夜のうつつ心や物を縫ふ　丹後　秋本芳子
酒買ひに脊の子ゆすぶる春の月　島根　松原信子
南洲の懷拔けつ春の風　宮城　佐藤きん子
身にそはぬ旅の借着や春寒し　兵庫　松山彌生子
戀猫に讀さしの文投げつけぬ　東京府　石本歌子
雛に似た顔も來て居るお客かな　靜岡　鈴木房子
山門を繪にして鐘の霞みけり　下谷　鈴木ふみ子
橋越えてお湯の便や春寒し　三重　村田さあ子
春雨の朝寢を君の許しけり　福島　吉田つね子
春雨や靜かに孝女傳を讀む　長野　芦部安枝子
當て事の小包みとくや春の雨　江田島　原田とね子
貸家の札めくる日や水ぬるむ　香川　大井俊子
蜆賣表彰式に主席かな　德島　矢野はる子
校門の前でりぼんの別れかな　福岡　吉田みつ子
近よればただの家なりうす霞　四谷　林まさ子
話しにはみの入りやすき日永かな　香川　石川芳子
墮落生のマントの穴や霰降る　越後　川崎みた子
富家の子の精勤章や梅の花　三重　濱田てい子
切れ凧の水車に落ちてめぐりけり　三重　芝原ふじ子
逝きし兒の衣出して見る夜寒哉　東京　野村敏子
まだ取れぬ胸の喪章や雛の客　新潟　熊倉美代子
葬式に行く白足袋や春寒き　函館　石黒美和子

# 通信



## 良人の入獄

今から二年前、當時私が四歳の愛兒を姙娠中に、良人はある事件のために獄舍に呻吟の身となりました。その時の辛かりしことなど思ひ出されて、皆さんの御參考にもと、拙い筆を取ることにいたしました。

良人はある會社に勤めてゐましたが、一年ばかり經つと退社して、ある商店の支店詰となりました。その翌年の三月、前にゐた會社の社員の不心得から訴訟を提起されて、その會社は上を下への大騷ぎとなりました。そして、社長と重役は何れも拘引され、二三日經つと社員一同拘引されました。

その時、良人は何ともありませんでしたが、それから二ケ月ばかり經つた五月二十八日に突然退社後三年間は責任があるといつて、拘引されました。そのために、私どもも支店にゐるわけにも行かず、親しい友に助けられてささやかな家へ引移りました。

支店にゐる時は、人に顏を見られるのが辛くて、涙一滴こぼさずにゐましたが、そこへ越してからは張りつめた心も弛んで、涙の乾く間とてはありません。社長が拘引されてから一ケ月も經つてゐるから、豫審も略ぼ濟んでゐるであらう。良人は豫審免訴になつて歸るであらうと、姙娠中のわが身を案じて、慰めたり勵ましたりしてくれる人もありました。しかし、薄薄事件の內容を聞いてみると、良人は內勤だから公判までは免れまいといふとでした。私もその覺悟をしてゐましたが、愈よ良人がさうなると、不覺の涙に咽びました。良人は間もなく東京の未決監へ送られました。一家の柱石を失つて、生活難はヒシヒシと迫つて來ます。私は姙娠七ケ月で思ふやうに働くこともできません。仕方がありませんから朝早くから夜の二時頃まで內職して、その日を送つてをりました。それでなくてさへ、か弱い女の身の、遂には堪へかねて病床に倒れました。良人の弟はそれを非常に心配して、遊びざかりの年頃でありながら、私たち母子のために一心になつて働いてくれました。私は、かうした弟があるのをせめてもの樂しみにして、良人が一日も早く晴天白日の身になつて、無事歸宅するやうにと祈つてをりました。

それから五ケ月ほど經つと豫審が終結して、良人は地方裁判所の公判に附せられることになりました。二三度公判を開いて、愈よ最後の判決も間近になりました。

その時、親戚の人たちは、私の不注意からそんなことになつたといはぬばかりのことをいつて一向構つてくれません。私も、自分の不運とあきらめて、ただ判決の日を一日千秋の思ひで待焦がれてをりました。

しかし、それも仇となりました。良人は六ケ月の所刑に服すことになつて、五日の後、巣鴨監獄へ送られました。せめてはと思つた賴みの綱が切れたのです。その癖、社長や重役は控訴の結果、執行猶豫となりました。

良人は、六ケ月の刑を濟ませて、無事に出獄しました。そして、世人に樂しかるべき春を迎へながらも、口惜しさ悲しさは去年の春と變つたことはありません。その後は貯蓄に心掛け、萬一の用意をしたため、多少は餘裕のある身分となり、良人もやさしき父親となりました。今では二人の愛兒の成長を樂しみにしてをります。(京橋　桐淵良子)

## お尋ねとお答へ

▲記者曰く、左の方方の現住所御存じの方は誌上でお敎へ下さるやうに願ひます。

◎長野市諏訪町にいらしつた坂口晴子樣の現住所。(長野縣　丸山多賀子)

◎昨年の春まで廣島縣で小學校の敎員をしていらしつた今川花子樣。その後結婚なされた筈です。(朝鮮　二葉)

◎東京のお方にて山の井泰重子といふ方の現住所。(伏見　磯野とら子)

◎明治四十三年頃廣島市大手町裏七丁目にをられた石井益子樣、その後松本益子樣と申して大連市但馬町へ御轉住遊ばされ、只今は大阪市にをられるさうです。(旅順　觀月女)

◎明治四十年頃函館郵便局で交換手を勤めてをられた中村たけ子樣、その後小樽の區役所へ勤めてをられる方へ嫁がれたといふことを聞きました。(北海道　尋ぬる人)

◎昨年春頃まで德島步兵第六十二聯隊の中隊長をしてをられた陸軍步兵大尉末次信次樣夫人芳子樣、お國は山口縣。(東京　小林鶴子)

◎八九年前に東京市青山北町七丁目にゐて澁谷の小學校へ通つていらしつた伊藤てる子樣、お年は十八歲くらゐ。(昔の友)

◎久留米市細工町のお方でお茶の水女學校へお通學中の武藤樣。(芝　澤田しづ子)

◎東京か橫濱邊のお方に、年頃三十五六歲ぐらゐの池上すみ子樣、お母さんは東京の方で村木しげと申し、五六年前に歿くなられました。(北海道　尋ぬる人)

▲記者曰く、以前出てをりましたお問に對し次ぎのやうなお答がまゐりました。

◎大連昔の友樣に、私は相變らず下記のところに暮らしてをります。失禮ですが、貴女はどなた樣でございますか。(富山縣東礪波郡出町松下方　高橋とし子)

◎長谷川靜江樣に、長東靜子樣は今も同地にお住居なされ、毎日裁縫のお稽古に通つてをられます。(誌友の女)

◎豐後昔の友樣へ、中戶淸子樣は只今は大阪市南區女子師範學校寄宿舍においでになります。本年は本科三年で、校中でも有名な音樂家でいらつしやいます。(同室の人)

## 銀笛愛讀者會

◎天外先生の『銀笛』毎月面白く拜見してをります。私は梅之助と多美子とのお心の內を思ひやつて、泣かずにはをられません。どうか淸い美しい二人の戀を遂げさせてやつて下さい。(岩手　吉田靜香子)

◎天外先生の小說『銀笛』には每號泣かされますが、二月號のには格別泣かされました。ああ、達夫と梅之助、多美ちやんはどんな心持でゐるでせうか。(秋田　けい子)

◎天外先生の『銀笛』はいつも面白く拜見してをります。多美ちやんはどうしても常雄さんとは結婚なさるおつもりでせうか。私はそのお心を聞きたいと思ひます。また達夫さんのために、綱藏の罪惡があばかれるやうなことはないでせうか。(紀伊　靑木喜代子)

◎多美ちやん、貴女は梅ちやんを何と思つていらつしやるの。梅ちやんは貴女を一生懸命に思つていらつしやるのに。多美ちやん、貴女はなぜ抱きついた若者をよく心を落着けて御覽にならなかつたのです。『何とぞ殺して下さい』の一語、私にはどうしても忘れることができません。(久留米　白雪)

◎梅之助樣は何といふ優しいお心なのでせう。梅之助樣、どうか貴方が親切に慰めて、もとの達夫樣にしてあげて下さい。私はお父樣より貴方の方が好きでございます。達夫さんはお可哀さうですね。(德島　小西花枝子)

◎『銀笛』の梅之助はどうなるでせう。私は梅之助が好きです。學校でも、寄るとさはると梅之助の噂ばかりです。私は、この頃は多美子が嫌ひになりました。だつて結婚するらしいのですもの。(赤坂　たか子)

## 噂のこぼれ

◎私は六七年前からの愛讀者でございます。田舍の實家は至つて忙がしい家で、落着いて愛讀することができませんでしたが、此春から都住居となり、昔に變る暇な身の上となりました。そのお蔭で、この不束な身も直接間接に、少なからぬ修養を得ました。每月二十三日頃までには必らず本屋から持つて來るので、その頃は何時も氣が落着かずに待つてをります。(東北の都にて　する子)

◎二月號には利益になる記事を澤山お載せ下さいまして、有難うございます。殊に『花の日の會の思ひ出』は面白くて、私どものよい參考になると思ひます。(梅の花)

◎每月有益な記事をお出し下さいまして、有難う存じます。二月號の『花の日』のところは、わけて嬉しうございました。東京の皆樣がお美しうございます。田舍にゐる私共は本誌のお蔭で、あのやうな慈善事業のあつたことを知りました。(信濃　唐澤みつゑ子)

◎一月號の櫻井ちか子先生の一週間のお總菜獻立は、誠によい參考になりました。時時かういふものをお出し下さると、皆さんもお喜びになるでせう。(埼玉　愛讀女)

◎一月號及び二月號の『夫婦共稼ぎ成功美談』は、これから一家の主婦となるべき私どもには誠によい敎訓になると思ひます。私は、あれを見て、それまで遊んでゐたのが恥かしくなりました。(梅香の里の愛讀女)

# 紹介

## 家庭劇協會の春興行

一家團欒して樂しく見物のできる石川木舟君一派の家庭劇協會は、二月十五日から一週間東京麴町有樂座で花花しく春興行を開催しました。岡本綺堂君の新作『鳥追船』三幕と、巖谷小波君の新作喜劇『帶の代り』一幕で、何れも品のいい面白いものです。

## 惡阻にきく藥

惡阻のために苦しむ婦人はよくありますが、醫者もこれにけ藥がないといつてをります。ところが、今度東京青山南町六丁目の無量壽藥園で賣出したつわり湯は、淺田宗伯先生の遺方ださうて、非常によく利くといふ評判です。村井弦齋先生も有効の證明をしてをられます。詳細は同園へ御問合せ下さい。

## 兒童文庫　村上靜人編

小さい可愛らしい美しい叢書で、今まで發行になつてゐるのは、乃木大將、オルレアンの少女、捨てられた兄妹、二宮尊德、柳太とポチの五篇です。一册が五錢、五册そろへて美しい帙入になつて二十五錢、東京淺草三間町自由社の發行です。なほこの叢書を揃へて入れられるやうに、十册入の總桐の本箱ができてをります。

## 藤むすめ　松本初子著

お初ちゃんといつたお下げ髪の少女を知つてゐる評者は、眼のさめるやうな美しい歌集を贈られて驚きました。佐佐木信綱博士の竹柏會に入つて非常な進境を示し、毎月その吟詠を雜誌心の華に掲載してをられましたが、今度博士がその秀逸三百首を集めて出版されたのです。浪花の里に生れて東京の下町に育つた多藝多趣味多感の若き歌人の美しい感情は、この篇に溢れてをります。八十錢、東京日本橋本石町一丁目竹柏會出版部

## 新美辭寶典　西村醉夢著

美辭寶典といふやうな書物は澤山ありますが多くは古書から美辭名句を拾ひ出したもので今日に通用しないものが多いやうです。これは西村君が新らしい作のうちから面白い句と美しい文を集めたものですから、文學の初心者にはよい師友となりませう。五十錢、東京神田富山房

## 現代名作集　鈴木三重吉編

三重吉君が現代の作物のうちから世に傳ふべきものを選んで、小形の氣のきいた書物にして發行されたものです。夏目漱石氏の須永の話、森鷗外氏の堺事件、長田幹彦氏の零落、森田草平氏の未練、岩野泡鳴氏の毒藥を飲む女、小川未明氏の紫のダリヤ、夏目漱石氏の倫敦塔が今までに出てをります。一册いづれも十五錢、東京府代代木山谷鈴木三重吉方

## 世界軍事探偵物語

血腥い戰塵の間を潜つて奇功を奏した軍事探偵の苦心談を平井晩村君が一流の氣のきいた文章で書いてあります。殊に卷頭の獨帝の復讐は、實に近來にない面白い讀みものだと思ひました。五十八錢、神田駿河臺國民書院

## 國民年鑑

西洋では年鑑といふものが非常に勢力があるさうですが、日本では、一昨年からヤツと國民年鑑ができました。社會百般の知識を一目のもとに集めたもので、何人にも一本を携ふる必要がありませう。五十錢、東京民友社

## 理想之家庭　石田傳吉著

理想の村の著者として有名な石田君が、極く近いところから始めて筆をとられたもので、いはゆる理想といふ名を冠つて出てゐるノンキな書物とは違ひます。その書き方もキビキビしてゐますし、說くところも實に常識的で嬉しいと思ひました。一讀をお勸めします。一圓、東京日本橋大倉書店

## 姙娠と安産

ドクトル兒玉修治君と、産婆酒井恒子君との共著で、まづ結婚の注意から說き起して、姙娠中の衛生、出産のこと、出産後の手當、初生兒の哺育まで丁寧に說明してあります。家庭には是非備へておいていい本と思ひます。七十五錢、神田南神保町文雅堂

# 『前號考へもの當選者』

前號考へものの答は

## 二月四日（節分）

でした。例に依つて正解者のうちから抽籤の結果、左の四百十九名を當選者と定め、賞品として繪はがき一組づつ差上げます。

群馬 茂木富子　山梨 石原千江子
埼玉 池田よし子　麴町 坂本榮子
秋田 佐々木富子　德島 村上ふじ子
和歌山中 美世子　天津 山口てつ子
下關 堀尾靜枝子　兵庫 神尾松枝子
岐阜 三戸美津子　朝鮮 關谷ゆき子
北海道齋藤ゆみ子　岩手 山崎和花子
樺太 山野しげ子　群馬 熊野みち子
栃木 青柳さは子　秋田 瀧城ゑす子
朝鮮 角 貞子　佐賀川副はるえ子
島根 横山忠子　岡山 華園きくえ子
靜岡 眞田ゑき子　旅順 大島なみ子
青森 鈴木つせ子　神戸 横田すが子
愛媛 玉井八重子　香川 筒井敬子
兵庫 美田たけ子　大阪 加藤榮子
下關 稻田きよ子　北海道長谷川はる子
岩手 佐藤美志子　長崎 小野香子
岡山 服部幸榮子　三重 渡邊ゑだを子
京都 松田たね子　滋賀 清水きぬ子
島根 岡 時子　兵庫 尾下龜子
大分 川野治子　熊本 加藤貞子
鹿兒島佐藤かな子　長野 惠平利子

兵庫 中村次子　和歌山岩橋操代子　松本 百瀨實子　奈良 平澤紫華子　東京府佐藤二三子
仙臺 長田つた子　山形 山内たかの子　千葉 明石やす子　神戸 加藤花子　京都 岩佐英子
福島 林 ゑつ子　奈良 植木千代子　名古屋大道寺貞子　大阪 宮島定子　千葉 齋藤とき子
三重 松島久子　岐阜 鈴木きぬ子　三重 羽賀やすゑ子　茨城 山口ふみ子　秋田 松橋竹子
大津 大森しつ子　德島豐田千代賀子　富山 澤田花子　滋賀 西堀たつ子　横濱 伊藤いね子
大連 高見花子　京都 千河茂子　長野 松澤操子　新潟 吉田はな子　新潟 豐島知世子
新潟 小林みさを子　埼玉 伊藤とし子　群馬 竹內初子　埼玉 柴崎婦美子　靜岡 川口かつ子
宮城 濱田まつ子　兵庫 森本きくゑ子　栃木 神山とし子　靜岡 大城いく子　宮城 太宰八代子
北海道柳町英子　青森 笠間とき子　德島 早雲あさ子　京都 田中はつ子　岩手小田島美代子
香川 前田なさえ子　東京府河野たけ子　三重 吉田八重子　神戸 河合菊枝子　栃木 關口りん子
京都 橋本ひろ子　山形 後藤うた子　廣島 引地清子　青森 草飼すゑ子　名古屋勝田靜子
弘前 川村ちよ子　岩手 中野靜子　靜岡 西村きち子　長野 萩野りさ子　新潟 富田早苗子
神奈川安田藤子　兵庫 明石源子　大阪 上田やゑ子　埼玉 渡邊貞子　福島 小林いち子
高崎 角倉千代子　下谷 石田千里子　神戸 木下幸子　富山 中川かをる子　山梨 田中げん子
栃木 新里つね子　横濱 中田千代子　福井 藤井美子　石川 守田きよ子　札幌 青山麗子
麻布 郡山なほ子　埼玉 入江ひさ子　奈良 原納岩子　仙臺 鈴木清子　大坂淺野まさ代子
宮城 松井みつ子　福島 山邊萬子　土佐 船木かね子　山形 橋本きよ子　香川 神余雪江子
山梨 八卷花子　群馬 中野あさ子　岩手 阿部やち子　德島 井上松江子　埼玉長谷川さと子
京橋 藤井ちゑ子　千葉 小川みよ子　埼玉 佐藤秀子　名古屋加藤花子　富山 畠山千代子
埼玉 大網ひで子　麴町 山中幸子　滋賀 石居しづ子　山口 井上しま子　新潟 廣川きさ子
樺太 三井ひで子　神戸 得田美哉子　大分 中村秀子　澁谷 櫛引しげ子　青森 舘山まち子
仙臺 木村みさを子　茨城 中西さく子　奈良 梶 種子　神奈川野地初子　北海道阿部信子
滋賀 淺見民子　神戸 喜多やゑ子　長野 瀧澤多賀美子　神戸 谷口うの子　山口河野こふみ子
靜岡 小林敏子　栃木 鈴木なか子　栃木 山口もと子　京都府村上さだ子　長野 柴田さい子
福島 篠澤菊枝子　山形 和田映惠子　京都 松田加代子　鳥取 原田清子　新潟 清水貞子
越後 安中むつ子　愛知 平野とみ子　茨城 木村とみ子　長野 大野せき子　神戸鹽見さく枝子
京橋 中島てつ子　栃木茂田井うめ子　秋田 龜澤幸子　弘前 柴田さだ子　青山 西田とし子
山梨 渡部ゆき子　仙臺 柴田しげ子　仙臺 只野貴代子　三重 北村貞子　京都 本安靜子
北海道植村しな子　兵庫 高木くり子　群馬 黑澤とみ子　福岡 伊藤ちか子　名古屋天野一枝子
富山 佐藤しづい子　新潟長谷川きよ子　山口 渡邊喜久子　相州 池田ちよ子　福岡 末永榮子
茨城 宇野さく子　埼玉 青柳きよ子　青森 福井よし子　宇都宮淺山まつ子　岐阜 中村津和子

大坂　喜多　參子　仁川　糸木つま子　大坂　益成　久子　近江　中山登美子　京都　井　かつ子　仁川　瀬良とよ子　堺　近下　美子
香川　上坂　美子　神戸　高本いわ子　東京府豊山ひで子　高松　十河　美子　和歌山前田とら子　德島　三木照惠子
廣島　和田ゆくの子　丹後仲小路小海子　廣島　森下てる子　岡山武田なみ江子　山口　貫田靜世子　島根　福田たみの子　山形　高橋幸惠子
長崎　森下てる子　佐賀　石橋　德子　愛媛　小寺登代子　廣島　佐藤みつよ子　滋賀　西山つね子　德島　西形　原　うめ子
宇都宮小杉しづ子　福岡　大友しも子　大坂　額光　秋子　靜岡　高橋　濱子　香川　堀川しゅん子　長野　笹澤　春子　基隆　中島なつ子
鳥取　增井　花子　大坂　湯川　晃子　神奈川足立なか子　京都　雨宮　安子　千葉　福原ちよ子　大分　山川　道子　島根　小島　好子
釜山　村上　操子　福井　東野　栴子　伊豫　相原　敦子　鹿兒島川崎いせ子　朝鮮　松本　貞子　千葉　井内とら子
若松　大庭あや子　愛媛　岡田富美子　安東縣井原　淺子　福岡　藏田芳野子　福岡　野村　初子　樺太　松原寛代子
岡山　秋月　綾子　滋賀　梅村ゑい子　北海道菊池初音子　群馬　鹽野　逸子　栃木　柳田　信子　樺太　小倉ふさ子
德島　中野よし子　新潟　柴澤よし子　富山　淺野　園子　岐阜　川村和歌枝子　廣島　森下　靜子　三重　大倉ふさ子
岐阜　藤井なか子　秋田　武石みね子　和歌山松谷みつ子　宮崎　中城枝都子　廣島藤江千年世子
仁川　松本つる子　兵庫　山野きくゑ　山形　櫻井　幸子　秋田　佐藤すゑ子　香川　久保田ひさ子　山口　石川壽海子　福岡　森田　花子
愛媛　伊藤うめ代子　和歌山倉本恭惠子　栃木　佐川たか子　福島　松浦みな子　和歌山岡田ひで子　台灣　副島　絹子　長崎　中森八重子
大分　石川　德子　千葉　岩田とみ子　千葉　岡本　久子　函館　佐野きみ子　山口　田中くめ子　松下　よし子　赤阪　山科とゑ子　長野　松下よし子　熊本　小池　國子
靜岡　北村せつ子　長野　細川とれ子　高松　鴻上とら子　福岡　佛藤　芳子　金澤　佐藤　豐子　愛知　鈴木れい子　千葉　倉矢　柳子　大阪　石橋うた子
東京府三橋りき子　丹後　高柴登美子　長崎　大串まつ子　神奈川橋本たか子　鳥取　岸本ち女子　信濃　松四千雪子　山口　谷川たね子
山口　關澤のぶ子　長野　光澤げみ子　龜戸佐々木てる子　新潟　內藤ぎん子　栃木　丸山　房子
矢倉貞代子　高田　朝鮮　中田　久子　埼玉　坂本千代子　秋田　大槻せい子　茨城　瀧田　孝子　群馬　長井きよ子
山口　山下とめの子　鶴田菊野子　群馬　新木あさ子　京都　中地　廣子　臺北　安村　春子
福岡　坂田千代子　山口　朝鮮　岸田　節子　福岡　緒方みつの子　尾道　勝谷ゆき子　千葉　佐藤きく子
長崎　水岡香代子　淺草　若松千代子　和歌山林　富子　下關　澤田きく枝子　青森　一戸　仲子　茨城　染谷喜代子
新潟　荒川まつ子　京都　絲井とめ子　山形　武山ゑき子　福島　齋城　卓子　福島　成田とく子　麻布　近藤　幸子
福井　栗原　幸子　山梨　古屋　文子　德島　安達比砂子　宮崎　持永はな子　和歌山東山ゆきえ子　長野　木村しづ子　神奈川　義子
福井　栗原　幸子　山梨　古屋　文子　廣島　小山　數子　宮崎　持永はな子　和歌山東山ゆきえ子　長野　木村しづ子　神奈川北川　義子
今井てう子　本郷　中田茂江子　愛媛　森はまの子　長崎　三上まき子　長島まつえ子　北海道美蘆　久子　神戸　松本　倉子
神戸　細井さか子　鳥取　松田喜美子　兵庫　中西はな子　靜岡　溝口　鈴子　宮崎　林　すて子　千葉　南井　好子　山梨　岩間やちよ子
埼玉　高橋しげ子　廣島　加藤せし子　東京府加藤むめ子　愛媛　梶原はるえ子　鹿兒島小田原久美子　千葉　金澤たか子
長野　宮崎　豐浦つね子　大分　福岡　松井　榮子　群馬　田中　良ノ　日本橋高橋きく子　金澤　能澤　ゐはる子　秋田　大山美代子
宮崎　川崎みた子　四谷　井野みゑ子　埼玉　高野　幸子　茨城　柴崎美喜子　德島　小西花枝子　神奈川鈴木小節子
越後　谷田川たい子　愛媛　藤井　節子　京都　栗栖八重子　岩手　根田なか子　岐阜　伊藤靜惠子　岩手　柴田　房子　長崎　豐島ひろ子
茨城　澁田よし子　京都　奥村　宣子　富山　柳瀬なみ子　青森　鎗田松衛子　青森　福田ひさ子　近江　廣瀨　貞子　島根　雨森　泰子
泰天　佐賀　多久島恭江子　熊本　宮崎　汀子　茨城　飯村五百枝子　堺野　吉田　信子
熊本　內野いく子　長崎　森永　操子　鹿兒島藤木ゆき子　岐阜　伊藤いく子　愛知　丹羽はな子　福島　仙波　榮子
宮崎　內海よしゑ子　朝鮮　原みつゑ子

## 懸賞募集（毎月五日締切）

▲短　文（百六十字以內）

▲和　歌（一人一首）

▲俳　句（一人一句）

▲家庭笑話

▲我が家の實驗

▲應募者は婦人に限る、匿名變名を許さず

▲用紙はすべてハガキのこと

△一枚のハガキに二種類を並記せざること、一種類につき一篇一首限りとす

△ハガキには必ず投書の種類と住所姓名を記入すること

△ハガキには決してよいな文句を書かぬこと

△名宛は『實業之日本社內婦人世界編輯局中』とすること

◎賞

△短文、和歌、俳句……（甲）一等武圓（乙）二等壹圓（丙）三等本社發行の書物

△家庭笑話、その他……本社發行の書物


## 婦人世界定價表（毎月一回一日發行）

（春秋二回增刊號發行）

一冊（毎月一回一日發行）（郵稅一錢五厘）……拾五錢
半年分（春秋二回增刊號も一冊と定期增刊）（郵稅共）……壹圓五錢
一年分（一四冊定期增刊）（前金）（郵稅共）……貳圓五錢

◎外國より御注文は一部郵稅とも二十三錢、半年分郵稅とも二圓九十五錢、一年分郵稅とも二圓九十五錢

注意　御注文は總て前金の事前金遣くれば必ず『證』の一字を朱にて帶封に認むる事（乙）外國へ御注文の時は爲替金遣くれば必ず『證』の一字を朱にて帶封に認むる事（丙）外國へ御注文の時は爲替金遣くれば必ず『證』の一字を朱

◎婦人世界廣告面　宇詰は五號活字一行廿四字詰一段廿二行一頁二段六十四行にて本版を要するものは別に實費を申受くべし其料金及等級等は御照會次第可致候

大正四年三月一日發行

發行兼編輯人　增田義一

印刷人　高信孝次

東京市京橋區西紺屋町二十七番地

印刷所　株式會社秀英舍

東京市京橋區南紺屋町十二番地

實業之日本社

電話京橋　八七一四番　八七一五番
八七六番　九八九番

郵便振替貯金口座東京參貳六番

# 社長より讀者諸君

## 增田社長洋行紀念書籍大割引

社長が洋行されて何よりも深く感じた事は、西洋人が常に本を離さず暇さへあれば讀書することでありました。即ち歸來社員に讀書を勸める事切々、讀者諸姉にも勸むる爲に、爰に本社發行の書籍を大割引にして皆様にお頒ちする事としました。その割引たるや、驚いてはいけません平均すれば實に**定價の半額**です。即ち二冊買へば一冊は唯貰つた事になります。こんな事は二度とありません。機會をのがさずドン〳〵申込みなさい。

| 著者 | 書名 | 定價 | 特價 | 郵稅 |
|---|---|---|---|---|
| 本間鶴治 | 通俗家庭理科 | 七〇錢 | 二〇錢 | 八錢 |
| 岩佐白鷗 | 烈婦の面影 | 七〇 | 三五 | 八 |
| 梅澤和軒 | 清少納言と紫式部 | 八〇 | 三〇 | 八 |
| 井上民子 | 山田流琴歌詳解 | 七〇 | 三〇 | 八 |
| 水野葉舟 | 姉に送る手紙 | 五〇 | 二〇 | 六 |
| 高信峡水 | 婦人と交際 | 六〇 | 四五 | 八 |
| 木內菊次郎 | 折紙と圖書 | 三五 | 二〇 | 六 |
| 同 | 圖書應用 紙細工 | 五〇 | 二五 | 八 |
| 拜石齋文雅 | 諸流盆石指南 | 六〇 | 二五 | 八 |
| 秋葉靜和 | 造花實習 | 六〇 | 二五 | 八 |
| 木內菊次郎 | 手工科教授法 | 三五 | 一五 | 六 |
| 遠山博士閲 家庭實用 | 衛生料理法 | 五〇 | 二五 | 八 |

| 著者 | 書名 | 定價 | 特價 | 郵稅 |
|---|---|---|---|---|
| 榎本秋村 | 偉人の家庭 | 八〇錢 | 四〇錢 | 八錢 |
| 蘆川忠雄 | 應對談話法 | 三五 | 一五 | 四 |
| 同 | 交際術修養 | 一八〇 | 四〇 | 八 |
| 三博士監修 | 英和俚語熟語故事大辭典 | 四五〇 | 二〇〇 | 一六 |
| 星野水裏 | 愛らしき少女 | 三五 | 二五 | 四 |
| 內山舜 | 花の物語 | 四五 | 二五 | 六 |
| 飯塚博士閲 須藤寒泉 | 家庭夜話 動物園 | 四〇 | 二〇 | 六 |
| 中村秋人 | 摸範家庭 子供日 | 六〇 | 三〇 | 八 |
| 久保天隨 | 叙事文作法 | 四五 | 二〇 | 六 |
| 同 | 美文作法 | 四五 | 二〇 | 六 |
| | 儀式文作法 | 四五 | 一五 | 六 |

申込所 東京南紺屋町 東京橋 實業之日本社 振替口座東京三二六番

# 姉へ の洋行土産

## 注意

▲割引をするのは茲に掲げた本に限ります。
▲特價の外に別に郵稅を御送り下さい。
▲但し一まとめに壹圓以上お求めの方には本社で郵稅を持ちます。
（壹圓以上といふのは定價で壹圓以上でなく、割引した値段で壹圓以上即ち御送金額壹圓以上の方に限ります）
▲特價は凡て**本社直接注文**に限ります。

| 著者 | 書名 | 定價 | 特價 | 郵稅 |
|---|---|---|---|---|
| 櫻井ちか子 | 和洋總菜料理 | 四五 | 三〇 | 六 |
| 梅田矯菓 | 家庭菓子製法 | 五〇 | 二五 | 六 |
| 天野說齋 | 家庭日常の實驗 | 四〇 | 二〇 | 六 |
| 西谷龍顯 | 婦人の重寶 | 五〇 | 四〇 | 六 |
| 中村秋人 | 幼兒保育 情としつけ | 四〇 | 一五 | 六 |
| 中村秋人 | 兒童教育 涙と鞭 | 三五 | 二〇 | 四 |
| 堀田文學士 | 家庭教育の仕方 | 三六 | 一五 | 四 |
| 本社譯 | 女子處世訓 | 三五 | 一〇 | 六 |
| 村田天籟 | 婦人の心理 | 六〇 | 二五 | 八 |
| 福原元 | 名流大家理想の婦人及家庭の親たる | 四〇 | 二五 | 四 |
| 中村木公 | 名流會話 婦人のかゞみ | 七〇 | 三〇 | 八 |
| 本社編 | 日本富豪の家風 | 五〇 | 二〇 | 六 |
| 桑田春風 | 男女修養 家庭書簡 | 七〇 | 三五 | 八 |

| 著者 | 書名 | 定價 | 特價 | 郵稅 |
|---|---|---|---|---|
| 鵜飼天淵 | 書信文大成 | 八〇 | 四〇 | 八 |
| 藤原楚水 | 作文自在 美辭寶鑑 | 七〇 | 三五 | 八 |
| 虎淵仁藏 | 進歩と教育 | 七〇 | 三〇 | 八 |
| 本社譯 | 最新讀書法 | 四〇 | 一〇 | 六 |
| 山方香峰 | 讀書便覽 | 三〇 | 一〇 | 四 |
| 澤田順次郎 | 兩性問題 | 五〇 | 二〇 | 六 |
| 蔀田不二三 | 文明日常の禮節 | 七〇 | 三〇 | 六 |
| 本社編 | 東京案內 | 六〇 | 二五 | 六 |
| 鈴木學士 岩岐守次 | 娯樂・溫室園藝實用 | 三五 | 二〇 | 四 |
| 森田喜平 | 名花寫眞圖說 | 六〇 | 三〇 | 六 |
| 今尾拘水 | 富士百景 | 三〇 | 一五〇 | 一六 |
| 渡邊白水 | 明治天皇御製謹解 | 一〇 | 三〇 | 八 |
| 土方伯爵 | 明治天皇聖德錄 | 四五 | 二〇 | 八 |

△特價期間は
**三月廿八日迄**
凡て部數に限りあれば、期間にならずとも賣切れの際は遺憾乍らお斷はり致します。一日も早く御注文を願ひます

日本社 振替口座東京三二六番

男女用の御袴類は我代が理社部ので安く拵へて上ます

（品質確實、仕立丁寧、而も此際特價提供）

女物男物

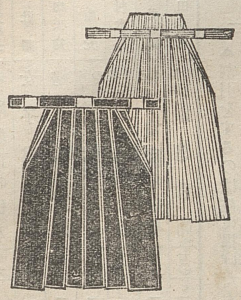
（甲）セル地色（赤海老、濃海老、鼠、茶、綠、紫）

（乙）モスリン合（紫紺、納戸）

（乙）小倉縞（柄は年齢により見立ます）

▲▲運動しても落ちない樣に腰差を付けます

▲▲女物の腰板は雲齋です



紐下寸法、種類、▲▲特價（円）

一尺五寸　七甲　二、五〇　オ乙　一、四八　オ丙　一、八五

一尺六寸　八甲　二、五八　オ乙　一、五三

一尺七寸　九甲　二、六七　オ乙　一、五八　オ丙　一、九五

一尺八寸　十甲　二、七八　オ乙　一、六五

紐下寸法、種類、▲▲特價（円）

一尺九寸　十甲　二、八八　オ乙　一、七三　オ丙　一、〇八

二尺　十二甲　三、〇〇　十三乙　一、八〇　オ丙　一、一五

二尺三寸　大甲　三、四五　人乙　二、〇五　物丙　一、六五

御注意（女物二尺迄上げ二寸付裾廻し付二十錢增男物上げなし）

郵稅（市内四錢　内地八錢　臺樺廿錢　清鮮卅錢）

大日本政府登錄

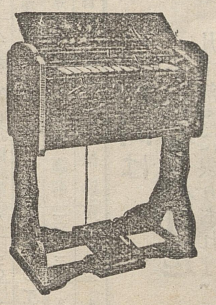
# 姫オルガン

此のオルガンは本物の通りで子供衆用として小形に作つたのであります

一號は子供衆が腰を掛けて御彈にもなれば又大人の方は片手で足踏を動かし片手で御彈になれます二號は子供衆でも大人でも片手で取手を動かし片手で御彈になれます



（二號）



（一號）

大サ

一號　高サ　一尺八寸　横　一尺四寸

二號　高サ　八寸　横　一尺五寸

定價

一號　送料荷造費共　金七圓貳十五錢

二號　金九圓三十錢

御注文は御住所明細に願ます

御送金は爲替又は振替て願ます

東京市京橋南紺屋町

實業之日本社代理部

（振替東京三二六番）

此廣告を見て御申込の方は必ず婦人世界愛讀者なる旨御申添を乞ふ

# 女學生用袴

高等女學校および小學校などに在學せらるゝ、御孃さん方にして、カシミヤの袴を御用ゐ遊ばさぬ方はありません。三越では此際東京に於ける流行色の粹を集めたる特約品を下の通りの特價にて賣弘め申します。御年齢に應じ各種の色合を取揃へてございますから、一着でも二着でも

御注文下さる樣御願ひ申し上げます。

御袴仕立上り直段（内地送料當店持）

| 紐下寸法 鏡尺 | | 舶來カシミヤ | 和製カシミヤ |
|---|---|---|---|
| 一尺八寸 | 中裁 | 三圓三十錢 | 二圓五十九錢 |
| 一尺九寸 | 中裁 | 三圓四十一錢 | 二圓六十九錢 |
| 二尺 | 中裁 | 三圓五十三錢 | 二圓七十九錢 |
| 二尺 | 本裁 | 四圓五十八錢 | 三圓四十一錢 |
| 二尺一寸 | 本裁 | 四圓七十五錢 | 三圓五十四錢 |
| 二尺二寸 | 本裁 | 四圓九十三錢 | 三圓六十六錢 |
| 二尺三寸 | 本裁 | 五圓十錢 | 三圓七十九錢 |
| 二尺四寸 | 本裁 | 五圓二十八錢 | 三圓九十一錢 |
| 二尺五寸 | 本裁 | 五圓四十五錢 | 四圓四錢 |

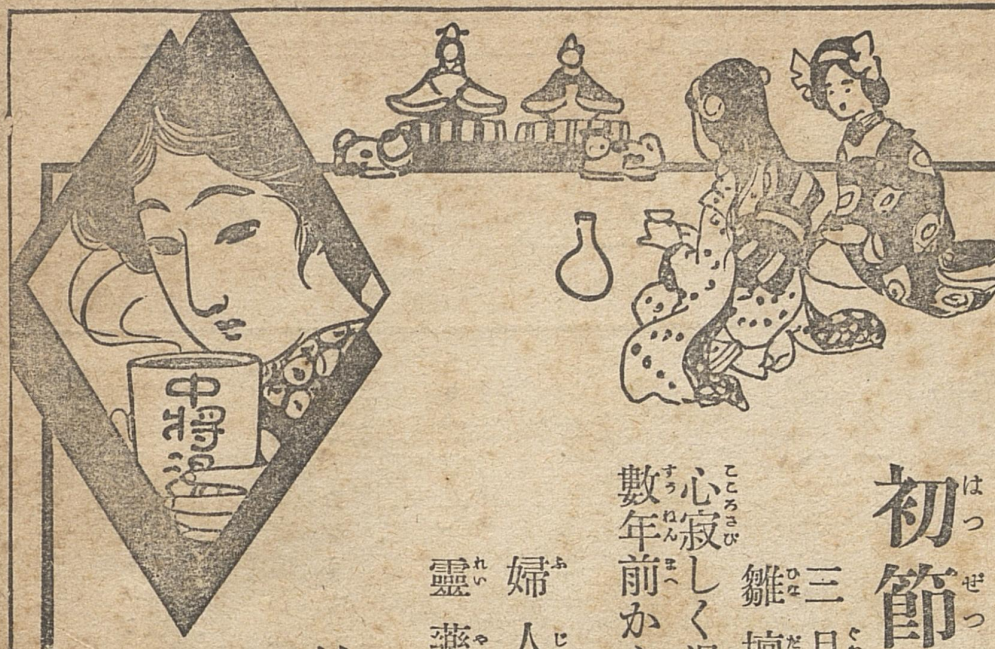
東京駿河町　振替貯金東京三百番

三越呉服店

THE FUJIN SEKAI, Registered ass Secon l Clas Matter at U. S. P. O., Los Angeles, Cal.

（婦人世界第拾卷第參號）　（大正四年二月十四日印刷納本、大正四年三月一日發行）

（明治三十八年十二月三十日第三種郵便物認可）　（毎月一回一日發行）


# 初節句！雛祭り！

三月三日が來る毎に
雛壇飾る娘がなくて
心寂しく過したが
數年前から服み續けた

婦人靈藥




のお蔭で
始めて生れた娘の
今年は嬉しい雛祭り

主治効能

●子宮病　●血の道
●婦人神經　●氣ふさぎ
●逆上頭痛　●癇高ぶり
●夜眠れず　●內膜炎
●膣加答兒　●こしけ
●下腹痛み　●腰足冷込
●產前產後　●つはり
●難產流產　●月經痛み
●月經滯り　●血ぶとり

□中將湯は世界到處の藥店に販賣す◎市中配達す

| 定價 | |
|---|---|
| 二日分 | 二十錢 |
| 四日分 | 卅五錢 |
| 一週間分 | 六十錢 |
| 三週間分 | 一圓六十錢 |
| 五週間分 | 二圓五十錢 |

本舖
東京市日本橋通四丁目
津村順天堂本店
電話本局六二番
電話本局六三番
振替口座六〇八番

大阪南區大寶寺町南入
津村順天堂支店
電話南二十五番
振替口座四五六番


東京芳兵舍印刷